

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

REC'D 05 SEP 2003

WIPO

PCT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2002年 8月30日

出願番号
Application Number: 特願 2002-252960
[ST. 10/C]: [JP 2002-252960]

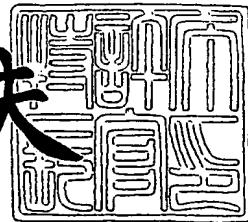
出願人
Applicant(s): 株式会社エッチャンデス

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

Best Available Copy

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

2003年 8月22日
今井康夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 P2002-3

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 F16H 21/46

【発明者】

【住所又は居所】 愛知県蒲郡市中央本町12番7号 株式会社エッチャン
デス内

【氏名】 味岡 義明

【特許出願人】

【識別番号】 398057167

【住所又は居所】 愛知県蒲郡市中央本町12番7号

【氏名又は名称】 株式会社エッチャンデス

【代表者】 味岡 義明

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 086783

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 3自由度回転システム及びその応用

【特許請求の範囲】

【請求項1】 球体の一部又は全部を含むロータと、指示棒と、少なくとも1個のスライダと、少なくとも1個の土台と、4個の軸と、6個の軸受けと、第一～第三の3個のガイドレールと、を含む3自由度回転システムであって、

前記ロータが前記指示棒を備えたことと、

2個の前記軸及び2個の前記軸受けを用いて、第一の前記ガイドレールが前記土台に取り付けられたことと、

残りの2個の前記軸及び残りの4個の前記軸受けを用いて、第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールが前記土台に取り付けられたことと、

少なくとも1個の前記スライダが前記指示棒に取り付けられたか、又は連結されたことと、

を特徴とし、

前記指示棒を第一の前記ガイドレールに沿ってスライドさせながら、前記ロータが第一の前記ガイドレールを支える2個の前記軸を中心にして回転することと、

前記指示棒を第二の前記ガイドレールに沿ってスライドさせながら、前記ロータが第一の前記ガイドレールを支える2個の前記軸を中心にして回転することと、

少なくとも1個の前記スライダを第三の前記ガイドレールに沿ってスライドさせながら、前記ロータが前記指示棒を中心にして回転することと、
を特徴とする3自由度回転システム。

【請求項2】 請求項1記載の3自由度回転システムにおいて、
第一の前記ガイドレール及び第二の前記ガイドレールのうち、少なくとも1個にスリットが開けられることにより、前記指示棒がこれらの前記スリットを通ることを特徴とする3自由度回転システム。

【請求項3】 請求項1又は2記載の3自由度回転システムに対して、
第四のガイドレールが前記指示棒に取り付けられたことと、

前記スライドが第四の前記ガイドレールをスライドすることと、
を特徴とする3自由度回転システム。

【請求項4】 球体の一部又は全部を含むロータと、指示棒と、少なくとも
2個のスライダと、少なくとも1個の土台と、4個の軸と、6個の軸受けと、第
一～第三の3個のガイドレールと、を含む3自由度回転システムであって、

前記ロータが前記指示棒を備えたことと、
2個の前記軸及び2個の前記軸受けを用いて、第一の前記ガイドレールが前記
土台に取り付けられたことと、

残りの2個の前記軸及び残りの4個の前記軸受けを用いて、第二の前記ガイド
レール及び第三の前記ガイドレールが前記土台に取り付けられたことと、

少なくとも2個の前記スライダが前記指示棒に取り付けられたか、又は連結さ
れたことと、
を特徴とし、

前記指示棒を第一の前記ガイドレールに沿ってスライドさせながら、前記ロー
タが第一の前記ガイドレールを支える2個の前記軸を中心にして回転することと
、

少なくとも2個の前記スライダを、それぞれ第二の前記ガイドレール及び第三
の前記ガイドレールに沿ってスライドさせながら、前記ロータがこれらの前記ガ
イドレールを支える2個の前記軸を中心にして回転することと、

少なくとも2個の前記スライダを、それぞれ第二の前記ガイドレール及び第三
の前記ガイドレールに沿ってスライドさせながら、前記ロータが前記指示棒を中
心にして回転することと、

を特徴とする3自由度回転システム。

【請求項5】 請求項4記載の3自由度回転システムにおいて、
第一の前記ガイドレールにスリットが開けられることにより、前記指示棒がこの
前記スリットを通ることを特徴とする3自由度回転システム。

【請求項6】 請求項4又は5記載の3自由度回転システムに対して、
第四のガイドレール及び第五のガイドレールが前記指示棒に取り付けられたこ
とと、

2個の前記スライドが、それぞれこれらの前記ガイドレールをスライドすることと、

を特徴とする3自由度回転システム。

【請求項7】 球体の一部又は全部を含むロータと、指示棒と、少なくとも2個のスライダと、少なくとも1個の土台と、4個の軸と、6個の軸受けと、第一～第三及び第六の4個のガイドレールと、を含む3自由度回転システムであつて、

前記ロータが前記指示棒を備えたことと、

2個の前記軸及び2個の前記軸受けを用いて、第一の前記ガイドレール及び第六の前記ガイドレールが前記土台に取り付けられたことと、

残りの2個の前記軸及び残りの4個の前記軸受けを用いて、第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールが前記土台に取り付けられたことと、

少なくとも2個の前記スライダが前記指示棒に取り付けられたか、又は連結されたことと、

を特徴とし、

少なくとも2個の前記スライダを、それぞれ第一の前記ガイドレール及び第六の前記ガイドレールに沿ってスライドさせながら、前記ロータがこれらの前記ガイドレールを支える2個の前記軸を中心にして回転することと、

少なくとも2個の前記スライダを、それぞれ第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールに沿ってスライドさせながら、前記ロータがこれらの前記ガイドレールを支える2個の前記軸を中心にして回転することと、

少なくとも2個の前記スライダを、それぞれ第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールに沿ってスライドさせながら、前記ロータが前記指示棒を中心にして回転することと、

を特徴とする3自由度回転システム。

【請求項8】 請求項7記載の3自由度回転システムにおいて、第一の前記ガイドレール及び第六の前記ガイドレールにスリットが開けられることにより、少なくとも2個の前記スライダが、それぞれこれらの前記スリットを通過することを特徴とする3自由度回転システム。

【請求項9】 請求項7又は8記載の3自由度回転システムに対して、第四のガイドレール及び第五のガイドレールが前記指示棒に取り付けられたこと、

2個の前記スライドが、それぞれこれらの前記ガイドレールをスライドすること、

を特徴とする3自由度回転システム。

【請求項10】 請求項1～9のうちいずれか1項に記載の3自由度回転システムにおいて、

前記指示棒がパイプであることと、

前記指示棒の中を少なくとも1本のワイヤが通ることと、
を特徴とする3自由度回転システム。

【請求項11】 請求項1～10のうちいずれか1項に記載の3自由度回転システムであって、

全ての前記軸が2個づつ向い合うように少なくとも1個の前記土台に取り付けられることを特徴とする3自由度回転システム。

【請求項12】 請求項1～10のうちいずれか1項に記載の3自由度回転システムであって、

4個の前記軸受けが2個づつ向い合うように少なくとも1個の前記土台に取り付けられることと、

第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールの一端に備えられた2個の前記軸が、それぞれ前記土台に取り付けられた2個の前記軸受けに取り付けられることと、

第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールの別の一端に備えられた2個の前記軸受けが、それぞれ第三の前記ガイドレール及び第二の前記ガイドレールの前記軸に取り付けられることと、
を特徴とする3自由度回転システム。

【請求項13】 請求項1～10のうちいずれか1項に記載の3自由度回転システムであって、

4個の前記軸受けが2個づつ向い合うように少なくとも1個の前記土台に取り

付けられることと、

第二の前記ガイドレールの両端に備えられた2個の前記軸が、それぞれ前記土台に取り付けられた2個の前記軸受けに取り付けられることと、

第三の前記ガイドレールの両端に備えられた2個の前記軸受けが、それぞれ第二の前記ガイドレールの前記軸に取り付けられることと、
を特徴とする3自由度回転システム。

【請求項14】 請求項1～13のうちいずれか1項に記載の3自由度回転システムに対して、

少なくとも1個のエンコーダが、前記ガイドレール、前記軸及び前記軸受けのうち少なくとも1つの回転角度を検出することにより、前記ロータの向きを検出することを特徴とする3自由度回転システム。

【請求項15】 請求項14記載の3自由度回転システムに対して、
少なくとも1個の前記エンコーダが複数の歯車を介して、前記ガイドレール、前記軸及び前記軸受けのうち少なくとも1個に連結することにより、前記ロータの前記向きを検出することを特徴とする3自由度回転システム。

【請求項16】 請求項14又は請求項15記載の3自由度回転システムに対して、

少なくとも1個の前記エンコーダの各々が1個のアクチュエータを備えたことを特徴とする3自由度回転システム。

【請求項17】 請求項1～13のうちいずれか1項に記載の3自由度回転システムに対して、
少なくとも1個のアクチュエータが、前記ガイドレール、前記軸及び前記軸受けのうち少なくとも1個を回転させることにより、前記ロータを回転させることを特徴とする3自由度回転システム。

【請求項18】 請求項17記載の3自由度回転システムに対して、
少なくとも1個の前記アクチュエータが複数の歯車を介して、前記ガイドレール、前記軸及び前記軸受けのうち少なくとも1個に連結することにより、前記ロータを回転させることを特徴とする3自由度回転システム。

【請求項19】 請求項14、15又は16記載の3自由度回転システムに

対して、

少なくとも1個の前記エンコーダが、コンピュータシステムに接続されることにより、前記コンピュータシステムが前記ロータの回転角度を計算することを特徴とする3自由度回転システム。

【請求項20】 請求項16、17又は18記載の3自由度回転システムに對して、

少なくとも1個の前記アクチュエータが、コンピュータシステムに接続されることにより、前記コンピュータシステムが前記ロータを回転させることを特徴とする3自由度回転システム。

【請求項21】 請求項20記載の3自由度回転システムに對して、前記指示棒と反対方向を撮影するカメラが前記ロータに埋め込まれたことを特徴とする人工眼球。

【請求項22】 請求項21記載の人工眼球において、前記コンピュータシステムが、

前記カメラによって撮影された画像を記憶することと、前記画像の各画素の順番を入れ替えて出力することと、により、

前記画像が回転することを特徴とする人工眼球。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術の分野】

本発明は、少なくとも3個のガイドレールを用いた3自由度回転システムに関し、詳しくは、1個のガイドレールと残りの2個のガイドレールが直交するよう、これらのガイドレールを土台に取り付け、ロータに取り付けられた指示棒及び指示棒に取り付けられた少なくとも1個のスライダが、これらのガイドレールに沿ってスライドしながらこれらのガイドレールを回転させることにより、このロータの向きを検出するものに関する。

【0002】

【従来の技術】

従来から、3自由度モータとして、圧電素子を用いたもの（特開昭62-228392、特開平9-34409、特開平9-219980、特開平11-18459、国際公開番号WO02/15358参照）、同期モータを用いたもの（矢野智昭、金子真、“回転中心を同一とする多自由度アクチュエータの基礎的検討”、日本ロボット学会誌、Vol. 11, No. 6, pp. 875-882, 1993参照）、ステッピングモータを用いたもの（矢野智昭、鈴木健生、園部増雄、金子真、“回転中心を同一とする多自由度アクチュエータ（第4報）ステップモータの試作と基礎実験”、日本機会学会ロボティクス・メカトロニクス講演会講演論文集、No. E307, pp. 1210-1211, 1994参照）及び電磁石を用いたもの（特開昭62-221856、特開平5-64417、特開平9-168275参照）などが多数開発されてきたが、3個のエンコーダを用いて3つの回転軸の角度を検出する場合、少なくとも1個のエンコーダをモータと一緒に回転させる必要があり、構造が複雑になるばかりか、必要以上にモータのトルクを大きくしなければならなかった。また、ステッピングモータを用いた場合には、エンコーダを用いなくても正確な位置決めをすることができるけれども、エンコーダを用いた場合と同様に、少なくとも1個のステッピングモータを少なくとも1つの回転軸を中心に回転させる必要があった。そのため、多自由度移動機構の位置検出方法として、加速度検出器を用いたもの（特開平5-64417、特開平9-168275）及び電磁石を用いたもの（矢野智昭、金子真、“回転中心を同一とする多自由度アクチュエータ（第6報）多極同期モータの位置決め制御”、第12回ロボット学会学術講演会、No. 1354, pp. 193-194, 1994参照）なども開発されてきた。しかしながら、これらの方法には以下のような問題点がある。例えば、加速度検出器を用いた場合、構造は単純であり、しかも3自由度の全てに対して制限なく検出することができるけれども、誤差が蓄積されるため、時間と共に位置の精度が悪くなる。また、電磁石を用いた場合、装置自体が重くなったり、磁力線を検出する部分が必要となり、しかもこの磁力線が電子部品に悪影響を及ぼす。

【0003】

ここで多自由度モータの用途として、3つの回転軸に対して無限に回転する場

合以外にも、例えば移動カメラ及びバックミラーのように、一定の範囲内を自由に回転できれば良い場合も多数考えられる。このとき、多自由度モータ中のロータに指示棒を取り付け、この指示棒で直交した2個のガイドレールを回転させることにより、2つの回転軸に対しては、最大で180度まで回転角度を検出することができるので、移動カメラ及びバックミラーなどの用途には実用上十分である。しかしながら、この方法では、指示棒を中心に回転するロータの傾きの角度を検出することができないばかりか、このロータがこの指示棒を中心に回転するのを止めることもできない。そこで2個のガイドレールのうちいずれか一方に対して平行になるように、新たなガイドレールが取り付けられた場合、この指示棒に取り付けられたスライダが、この新たなガイドレールに沿って平行移動するならば、このガイドレールは、2つの回転軸の可動範囲を殆んど狭めることなく、このロータを常に一定の傾きに保つことができる。さらに移動カメラ及びバックミラーなどの用途では、このロータを指示棒を中心に360度回転させる必要は殆んどなく、このロータの傾きを微調整することができれば、多自由度モータは十分に実用的である。そこで、平行する2個のガイドレールの間隔が変化しても、このスライダがこれらのガイドレールのうちの1個に沿ってスライドすることができれば、これらのガイドレールは最大で180度までこのロータの傾きを検出することができる。

【0004】

これらのこと考慮すると、1個のガイドレールと、平行する2個のガイドレールと、が直交するように組み合わされるので、これらのガイドレールの各々の回転角度を検出するためには、3個のエンコーダが必要であるけれども、これらのガイドレールの回転軸は2つとなる。したがって、ロータの回転に応じてこれらのエンコーダを移動させる必要がないので、このロータの3つの回転軸の回転角度が簡単に検出され得ると期待される。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

そこで、請求項記載の本発明は、1個のガイドレールと、平行する2個のガイドレールと、が直交するように組み合わされ、しかもこれらのガイドレールの回

転角度を検出するエンコーダが土台に固定されるような3自由度回転システムを開発することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

請求項1の発明は、球体の一部又は全部を含むロータと、指示棒と、少なくとも1個のスライダと、少なくとも1個の土台と、4個の軸と、6個の軸受けと、第一～第三の3個のガイドレールと、を含む3自由度回転システムであって、前記ロータが前記指示棒を備えたことと、2個の前記軸及び2個の前記軸受けを用いて、第一の前記ガイドレールが前記土台に取り付けられることと、残りの2個の前記軸及び残りの4個の前記軸受けを用いて、第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールが前記土台に取り付けられることと、少なくとも1個の前記スライダが前記指示棒に取り付けられたか、又は連結されたことと、を特徴とし、前記指示棒を第一の前記ガイドレールに沿ってスライドさせながら、前記ロータが第一の前記ガイドレールを支える2個の前記軸を中心にして回転することと、前記指示棒を第二の前記ガイドレールに沿ってスライドさせながら、前記ロータが第一の前記ガイドレールを支える2個の前記軸を中心にして回転することと、少なくとも1個の前記スライダを第三の前記ガイドレールに沿ってスライドさせながら、前記ロータが前記指示棒を中心にして回転することと、を特徴とする3自由度回転システムである。

【0007】

本発明は、前記ロータが3自由度で回転する3自由度回転システムの実施形態である。本発明では、第一の前記ガイドレール、第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールは、主に前記ロータの中心に対して円弧状に形成され、これらの前記ガイドレールの回転に応じて前記ロータが回転すると共に、この前記ロータの回転に応じてこれらの前記ガイドレールが回転する。これらの前記ガイドレールの各々は、棒状であっても良いし、スリットを備えても良い。特に、これらの前記ガイドレールの各々がこの前記スリットを備えた場合、この前記ガイドレールは、1枚の板から切り出されても良いし、少なくとも2本のワイヤを組み合せて構成されても良い。前記指示棒の延長線上に前記ロータの中心を通る向

きで、この前記指示棒はこの前記ロータに取り付けられる。このとき、この前記指示棒はパイプ状であっても良い。さらに、この前記ロータは中空であっても良い。4個の前記軸は第一の前記ガイドレール、第二の前記ガイドレール、第三の前記ガイドレール及び少なくとも1個の前記土台のうち、いずれに固定されても良い。さらにこれらの前記軸が前記土台に固定される場合、これらの前記軸はスペースを介してこれらの前記土台に取り付けられていても良い。ただし、2組の前記軸を結んだ2本の回転軸は直交し、さらに、それぞれ前記ロータの中心を通るものとする。前記軸受けにはボールベアリングを用いることもできる。第一の前記ガイドレールは2個の前記軸を中心に回転するので、前記指示棒の向きがこの前記ガイドレールの向きと一致する。したがって、この前記ガイドレールの前記向きに応じて、前記ロータはこれらの前記軸を中心に回転する。第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールは、それぞれ同じ2個の前記軸を中心に回転する。しかしながら、これらの前記軸の各々には2個の前記軸受けが取り付けられるので、これらの前記ガイドレールはそれぞれ独立に回転することができる。さらにこのとき、これらの前記ガイドレールは入れ子状になつても良いし、又は互い違いになつても良い。また、第三の前記ガイドレールの両端は、この前記ガイドレールのうち円弧状の部分と前記土台が直交するように形成される。これにより、この前記ガイドレールがこれらの前記軸を通る回転軸を中心にして特定の角度を成す場合、この前記ガイドレールと第二の前記ガイドレールの間隔が場所に因らず一定となる。少なくとも1個の前記スライダは第三の前記ガイドレールに沿ってスライドするので、これらの前記ガイドレールの前記間隔が長くなると、この前記スライダと前記指示棒を通る直線と、これらの前記ガイドレールが成す角度は90度に近づき、反対に、これらの前記ガイドレールの前記間隔が短くなると、この前記直線とこれらの前記ガイドレールが成す角度は0度に近づく。したがって、これらの前記ガイドレールの前記間隔を変えることにより、前記指示棒を中心とする前記ロータの回転角度を変更することができる。本発明は全ての前記土台を移動させることなく前記ロータを3自由度で回転させることができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0008】

請求項2の発明は、請求項1記載の3自由度回転システムにおいて、第一の前記ガイドレール及び第二の前記ガイドレールのうち、少なくとも1個にスリットが開けられることにより、前記指示棒がこれらの前記スリットを通ることを特徴とする3自由度回転システムである。第一の前記ガイドレール及び第二の前記ガイドレールは、それぞれ1枚の板から切り出されても良いし、少なくとも2本のワイヤを組み合せて構成されても良い。第一の前記ガイドレールは2個の前記軸を中心に回転するので、この前記ガイドレールに開けられた前記スリットを前記指示棒が通ることにより、この前記指示棒の向きがこの前記ガイドレールの向きと一致する。第二の前記ガイドレールは残りの2個の前記軸を中心に回転するので、この前記ガイドレールに開けられた前記スリットをこの前記指示棒が通ることにより、この前記指示棒の向きがこの前記ガイドレールの向きと一致する。したがって、これらの前記ガイドレールの向きを検出することにより、この前記指示棒の向きが正確に求められる。本発明は余計な手間を掛けずに前記指示棒の向きを決定することができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0009】

請求項3の発明は、請求項1又は2記載の3自由度回転システムに対して、第四のガイドレールが前記指示棒に取り付けられたことと、前記スライドが第四の前記ガイドレールをスライドすることと、を特徴とする3自由度回転システムである。第四の前記ガイドレールは、棒状であっても良いし、スリットを備えても良い。特に、この前記ガイドレールがこの前記スリットを備えた場合、この前記ガイドレールは、1枚の板から切り出されても良いし、少なくとも2本のワイヤを組み合せて構成されても良い。さらに、この前記ガイドレールが傘状になることにより、この前記ガイドレールは強度を増すことができる。この前記ガイドレールは前記指示棒を中心に回転するので、この前記ガイドレールに沿って少なくとも1個の前記スライダがスライドすることにより、この指示棒の回転方向はこの前記指示棒から見たこの前記スライダの方向と一致する。したがって、この前記指示棒の向きと、この前記ガイドレールの向きを検出することにより、この前記指示棒の回転方向が正確に求められる。本発明は全ての前記土台を移動させる

ことなく前記ロータを3自由度で回転させることができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0010】

請求項4の発明は、球体の一部又は全部を含むロータと、指示棒と、少なくとも2個のスライダと、少なくとも1個の土台と、4個の軸と、6個の軸受けと、第一～第三の3個のガイドレールと、を含む3自由度回転システムであって、前記ロータが前記指示棒を備えたことと、2個の前記軸及び2個の前記軸受けを用いて、第一の前記ガイドレールが前記土台に取り付けられることと、残りの2個の前記軸及び残りの4個の前記軸受けを用いて、第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールが前記土台に取り付けられることと、少なくとも2個の前記スライダが前記指示棒に取り付けられたか、又は連結されたことと、を特徴とし、前記指示棒を第一の前記ガイドレールに沿ってスライドさせながら、前記ロータが第一の前記ガイドレールを支える2個の前記軸を中心にして回転することと、少なくとも2個の前記スライダを、それぞれ第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールに沿ってスライドさせながら、前記ロータがこれらの前記ガイドレールを支える2個の前記軸を中心にして回転することと、少なくとも2個の前記スライダを、それぞれ第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールに沿ってスライドさせながら、前記ロータが前記指示棒を中心にして回転することと、を特徴とする3自由度回転システムである。

【0011】

本発明は、前記ロータが3自由度で回転する3自由度回転システムの実施形態である。本発明では、第一の前記ガイドレール、第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールは、主に前記ロータの中心に対して円弧状に形成され、これらの前記ガイドレールの回転に応じて前記ロータが回転すると共に、この前記ロータの回転に応じてこれらの前記ガイドレールが回転する。これらの前記ガイドレールの各々は、棒状であっても良いし、スリットを備えても良い。特に、これらの前記ガイドレールの各々がこの前記スリットを備えた場合、この前記ガイドレールは、1枚の板から切り出されても良いし、少なくとも2本のワイヤを組み合せて構成されても良い。前記指示棒の延長線上に前記ロータの中心を通る向

きで、この前記指示棒はこの前記ロータに取り付けられる。このとき、この前記指示棒はパイプ状であっても良い。さらに、この前記ロータは中空であっても良い。4個の前記軸は第一の前記ガイドレール、第二の前記ガイドレール、第三の前記ガイドレール及び少なくとも1個の前記土台のうち、いずれに固定されても良い。さらにこれらの前記軸が前記土台に固定される場合、これらの前記軸はスペーサを介してこれらの前記土台に取り付けられていても良い。ただし、2組の前記軸を結んだ2本の回転軸は直交し、さらに、それぞれ前記ロータの中心を通るものとする。前記軸受けにはボールベアリングを用いることもできる。第一の前記ガイドレールは2個の前記軸を中心に回転するので、前記指示棒の向きがこの前記ガイドレールの向きと一致する。したがって、この前記ガイドレールの前記向きに応じて、前記ロータはこれらの前記軸を中心に回転する。第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールは、それぞれ同じ2個の前記軸を中心に回転する。しかしながら、これらの前記軸の各々には2個の前記軸受けが取り付けられるので、これらの前記ガイドレールはそれぞれ独立に回転することができる。さらにこのとき、これらの前記ガイドレールは入れ子状になつても良いし、又は互い違いになつても良い。また、これらの前記ガイドレールの両端は、各々の前記ガイドレールのうち円弧状の部分と前記土台が直交するように形成される。これにより、これらの前記ガイドレールがこれらの前記軸を通る回転軸を中心にして特定の角度を成す場合、これらの前記ガイドレールの間隔が場所に因らず一定となる。前記指示棒には少なくとも2個の前記スライダが向い合って取り付けられているか、又は連結されており、これらの前記スライダは、それぞれこれらの前記ガイドレールに沿ってスライドするので、これらの前記ガイドレールの前記間隔が長くなると、これらの前記スライダとこれらの前記ガイドレールが成す角度は90度に近づき、反対に、これらの前記ガイドレールの前記間隔が短くなると、これらの前記スライダとこれらの前記ガイドレールが成す角度は0度に近づく。したがって、これらの前記ガイドレールの前記間隔を変えることにより、前記指示棒を中心とする前記ロータの回転角度を変更することができる。さらに、これらの前記ガイドレールの前記間隔の中央にこの前記指示棒が位置するように、これらの前記スライダの位置を調整することにより、この前記指示棒の向

きがこれらの前記ガイドレールの前記間隔の前記中央の前記向きと一致するので、この前記向きに応じて、前記ロータは、これらの前記ガイドレールを支える2個の前記軸を中心に回転する。本発明は全ての前記土台を移動させることなく前記ロータを3自由度で回転させることができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0012】

請求項5の発明は、請求項4記載の3自由度回転システムにおいて、第一の前記ガイドレールにスリットが開けられることにより、前記指示棒がこの前記スリットを通ることを特徴とする3自由度回転システムである。第一の前記ガイドレールは、1枚の板から切り出されても良いし、少なくとも2本のワイヤを組み合せて構成されても良い。第一の前記ガイドレールは2個の前記軸を中心に回転するので、この前記ガイドレールに開けられた前記スリットを前記指示棒が通ることにより、この前記指示棒の向きがこの前記ガイドレールの向きと一致する。したがって、この前記ガイドレールの向きを検出することにより、この前記ガイドレールを支える2個の前記軸を中心としたこの前記指示棒の回転角度が正確に求められる。本発明は余計な手間を掛けずに前記指示棒の向きを決定することができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0013】

請求項6の発明は、請求項4又は5記載の3自由度回転システムに対して、第四のガイドレール及び第五のガイドレールが前記指示棒に取り付けられたことと、2個の前記スライドが、それぞれこれらの前記ガイドレールをスライドすることと、を特徴とする3自由度回転システムである。第四の前記ガイドレール及び第五の前記ガイドレールは、棒状であっても良いし、スリットを備えても良い。特に、これらの前記ガイドレールがこの前記スリットを備えた場合、これらの前記ガイドレールは、1枚の板から切り出されても良いし、少なくとも2本のワイヤを組み合せて構成されても良い。さらに、これらの前記ガイドレールが組み合わさせて、傘状になることにより、これらの前記ガイドレールは強度を増すことができる。これらの前記ガイドレールは前記指示棒を中心に回転するので、これらの前記ガイドレールに沿って少なくとも2個の前記スライダがスライドするこ

とにより、この指示棒の回転方向はこの前記指示棒から見た、少なくとも1個の前記スライダの方向と一致する。したがって、この前記指示棒の向きと、これらの前記ガイドレールの向きを検出することにより、この前記指示棒の回転方向が正確に求められる。本発明は全ての前記土台を移動させることなく前記ロータを3自由度で回転させることができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0014】

請求項7の発明は、球体の一部又は全部を含むロータと、指示棒と、少なくとも2個のスライダと、少なくとも1個の土台と、4個の軸と、6個の軸受けと、第一～第三及び第六の4個のガイドレールと、を含む3自由度回転システムであって、前記ロータが前記指示棒を備えたことと、2個の前記軸及び2個の前記軸受けを用いて、第一の前記ガイドレール及び第六の前記ガイドレールが前記土台に取り付けられることと、残りの2個の前記軸及び残りの4個の前記軸受けを用いて、第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールが前記土台に取り付けられることと、少なくとも2個の前記スライダが前記指示棒に取り付けられたか、又は連結されたことと、を特徴とし、少なくとも2個の前記スライダを、それぞれ第一の前記ガイドレール及び第六の前記ガイドレールに沿ってスライドさせながら、前記ロータがこれらの前記ガイドレールを支える2個の前記軸を中心にして回転することと、少なくとも2個の前記スライダを、それぞれ第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールに沿ってスライドさせながら、前記ロータが前記指示棒を中心にして回転することと、を特徴とする3自由度回転システムである。

【0015】

本発明は、前記ロータが3自由度で回転する3自由度回転システムの実施形態である。本発明では、第一の前記ガイドレール、第二の前記ガイドレール、第三の前記ガイドレール及び第六の前記ガイドレールは、主に前記ロータの中心に対して円弧状に形成され、これらの前記ガイドレールの回転に応じて前記ロータが

回転すると共に、この前記ロータの回転に応じてこれらの前記ガイドレールが回転する。ただし、第一の前記ガイドレールと第六の前記ガイドレールは結合されているか、又は元々一つの材料から作られているものとする。これらの前記ガイドレールの各々は、棒状であっても良いし、スリットを備えても良い。特に、これらの前記ガイドレールの各々がこの前記スリットを備えた場合、この前記ガイドレールは、1枚の板から切り出されても良いし、少なくとも2本のワイヤを組み合せて構成されても良い。前記指示棒の延長線上に前記ロータの中心を通る向きで、この前記指示棒はこの前記ロータに取り付けられる。このとき、この前記指示棒はパイプ状であっても良い。さらに、この前記ロータは中空であっても良い。4個の前記軸は第一の前記ガイドレール、第二の前記ガイドレール、第三の前記ガイドレール及び少なくとも1個の前記土台のうち、いずれに固定されても良い。さらにこれらの前記軸が前記土台に固定される場合、これらの前記軸はスペーサを介してこれらの前記土台に取り付けられていても良い。ただし、2組の前記軸を結んだ2本の回転軸は直交し、さらに、それぞれ前記ロータの中心を通るものとする。前記軸受けにはボールベアリングを用いることもできる。第一の前記ガイドレール及び第六の前記ガイドレールは、2個の前記軸を中心に一緒に回転するので、これらの前記ガイドレールの間隔の中央にこの前記指示棒が位置するように、これらの前記ガイドレールの位置を調整することにより、この前記指示棒の向きがこれらの前記ガイドレールの前記間隔の前記中央の前記向きと一致する。したがって、この前記向きに応じて、前記ロータはこれらの前記軸を中心回転する。第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールは、それぞれ同じ2個の前記軸を中心回転する。しかしながら、これらの前記軸の各々には2個の前記軸受けが取り付けられるので、これらの前記ガイドレールはそれぞれ独立に回転することができる。さらにこのとき、これらの前記ガイドレールは入れ子状になつても良いし、又は互い違いになつても良い。また、これらの前記ガイドレールの両端は、各々の前記ガイドレールのうち円弧状の部分と前記土台が直交するように形成される。これにより、これらの前記ガイドレールがこれらの前記軸を通る回転軸を中心にして特定の角度を成す場合、これらの前記ガイドレールの間隔が場所に因らず一定となる。前記指示棒には少なくとも2個の前記

スライダが向い合って取り付けられているか、又は連結されており、これらの前記スライダは、それぞれこれらの前記ガイドレールに沿ってスライドするので、これらの前記ガイドレールの前記間隔が長くなると、これらの前記スライダとこれらの前記ガイドレールが成す角度は90度に近づき、反対に、これらの前記ガイドレールの前記間隔が短くなると、これらの前記スライダとこれらの前記ガイドレールが成す角度は0度に近づく。したがって、これらの前記ガイドレールの前記間隔を変えることにより、前記指示棒を中心とする前記ロータの回転角度を変更することができる。さらに、これらの前記ガイドレールの前記間隔の中央にこの前記指示棒が位置するように、これらの前記スライダの位置を調整することにより、この前記指示棒の向きがこれらの前記ガイドレールの前記間隔の前記中央の前記向きと一致するので、この前記向きに応じて、前記ロータは、これらの前記ガイドレールを支える2個の前記軸を中心に回転する。本発明は全ての前記土台を移動させることなく前記ロータを3自由度で回転させることができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0016】

請求項8の発明は、請求項7記載の3自由度回転システムにおいて、第一の前記ガイドレール及び第六の前記ガイドレールにスリットが開けられることにより、少なくとも2個の前記スライダが、それぞれこれらの前記スリットを通ることを特徴とする3自由度回転システムである。第一の前記ガイドレール及び第六の前記ガイドレールは、それぞれ1枚の板から切り出されても良いし、少なくとも2本のワイヤを組み合せて構成されても良い。ただし、これらのガイドレールは2個の前記軸を中心に一緒に回転するものとする。これらの前記ガイドレールはこれらの前記軸を中心に回転するので、少なくとも2個の前記スライダが、それぞれこれらの前記ガイドレールに開けられた前記スリットを通り、さらにこれらの前記スライダの中央に前記指示棒が位置することにより、この前記指示棒の向きがこれらの前記ガイドレールの向きと一致する。したがって、これらの前記ガイドレールの向きを検出することにより、これらの前記ガイドレールを支える2個の前記軸を中心としたこの前記指示棒の回転角度が正確に求められる。本発明は余計な手間を掛けずに前記指示棒の向きを決定することができるので、3自由

度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0017】

請求項9の発明は、請求項7又は8記載の3自由度回転システムに対して、第四のガイドレール及び第五のガイドレールが前記指示棒に取り付けられたことと、2個の前記スライドが、それぞれこれらの前記ガイドレールをスライドすることと、を特徴とする3自由度回転システムである。第四の前記ガイドレール及び第五の前記ガイドレールは、棒状であっても良いし、スリットを備えても良い。特に、これらの前記ガイドレールがこの前記スリットを備えた場合、これらの前記ガイドレールは、1枚の板から切り出されても良いし、少なくとも2本のワイヤを組み合せて構成されても良い。さらに、これらの前記ガイドレールが組み合わさせて、傘状になることにより、これらの前記ガイドレールは強度を増すことができる。これらの前記ガイドレールは前記指示棒を中心に回転するので、これらの前記ガイドレールに沿って少なくとも2個の前記スライダがスライドすることにより、この指示棒の回転方向はこの前記指示棒から見た、少なくとも1個の前記スライダの方向と一致する。したがって、この前記指示棒の向きと、これらの前記ガイドレールの向きを検出することにより、この前記指示棒の回転方向が正確に求められる。本発明は全ての前記土台を移動させることなく前記ロータを3自由度で回転させることができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0018】

請求項10の発明は、請求項1～9のうちいずれか1項に記載の3自由度回転システムにおいて、前記指示棒がパイプであることと、前記指示棒の中を少なくとも1本のワイヤが通ることと、を特徴とする3自由度回転システムである。本発明では、前記ロータは前記球体であるか、又はこの前記球体の一部であり、さらにこの前記球体の内部は中空であっても良い。前記ロータには電子部品か機械部品が取り付けられ、少なくとも1本の前記ワイヤが、この前記電子部品及びこの前記機械部品に接続される。このとき、この前記電子部品に接続されたこれらの前記ワイヤのうち、少なくとも1本は電線である。これにより、これらの前記ワイヤは、全ての前記ガイドレールに絡まることなく、この前記ロータから外部

に取り出すことができる。本発明は、前記ロータの向きに関係なく、全ての前記ワイヤをこの前記ロータから取り出すことができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0019】

請求項11の発明は、請求項1～10のうちいずれか1項に記載の3自由度回転システムであって、全ての前記軸が2個づつ向い合うように少なくとも1個の前記土台に取り付けられることを特徴とする3自由度回転システムである。4個の前記軸は前記土台に埋め込まれていても良いし、少なくとも1個の前記土台から切り出されていても良いし、又はスペーサを介して取り付けられていても良い。ただし、2組の前記軸を結んだ2本の回転軸は直交し、さらに、それぞれ前記ロータの中心を通るものとする。第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールの両端には、それぞれ1個の前記軸受けが取り付けられているか又は形成されており、それぞれ対応する2個の前記軸に接続されている。したがって、これらの前記ガイドレールはそれぞれ独立に回転することができる。第一の前記ガイドレール、第四の前記ガイドレール及び第五の前記ガイドレールのうち少なくとも1個の両端には、2個の前記軸受けが取り付けられているか又は形成されており、それぞれ対応する2個の前記軸受けに接続されている。本発明は全ての前記土台を移動させることなく前記ロータを3自由度で回転させることができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0020】

請求項12の発明は、請求項1～10のうちいずれか1項に記載の3自由度回転システムであって、4個の前記軸受けが2個づつ向い合うように少なくとも1個の前記土台に取り付けられることと、第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールの一端に備えられた2個の前記軸が、それぞれ前記土台に取り付けられた2個の前記軸受けに取り付けられることと、第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールの別の端に備えられた2個の前記軸受けが、それぞれ第三の前記ガイドレール及び第二の前記ガイドレールの前記軸に取り付けられることと、を特徴とする3自由度回転システムである。4個の前記軸受けは少なくとも1個の前記土台から形成されても良いし、スペーサを介して取り付けられて

いても良い。ただし、これらの前記軸受けに接続される2組の前記軸を結んだ2本の回転軸は直交し、さらに、それぞれ前記ロータの中心を通るものとする。第二の前記ガイドレール及び第三の前記ガイドレールの前記一端には、それぞれ1個の前記軸が取り付けられているか又は形成されており、それぞれ対応する2個の前記軸受けに接続されている。しかもそれぞれの前記ガイドレールの両端のうち前記軸がない方には前記軸受けが取り付けられているか又は形成されており、対応する前記軸が貫通することにより、これらの前記ガイドレールはそれぞれ独立に回転することができる。第一の前記ガイドレール、第四の前記ガイドレール及び第五の前記ガイドレールのうち少なくとも1個の両端には、2個の前記軸が取り付けられているか又は形成されており、それぞれ対応する2個の前記軸受けに接続されている。本発明は全ての前記土台を移動させることなく前記ロータを3自由度で回転させることができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0021】

請求項13の発明は、請求項1～10のうちいずれか1項に記載の3自由度回転システムであって、4個の前記軸受けが2個づつ向い合うように少なくとも1個の前記土台に取り付けられることと、第二の前記ガイドレールの両端に備えられた2個の前記軸が、それぞれ前記土台に取り付けられた2個の前記軸受けに取り付けられることと、第三の前記ガイドレールの両端に備えられた2個の前記軸受けが、それぞれ第二の前記ガイドレールの前記軸に取り付けられることと、を特徴とする3自由度回転システムである。4個の前記軸受けは少なくとも1個の前記土台から形成されても良いし、スペーサを介して取り付けられていても良い。ただし、これらの前記軸受けに接続される2組の前記軸を結んだ2本の回転軸は直交し、さらに、それぞれ前記ロータの中心を通るものとする。第二の前記ガイドレールの前記両端には、それぞれ1個の前記軸が取り付けられているか又は形成されており、それぞれ対応する2個の前記軸受けに接続されている。また第三の前記ガイドレールの前記両端には、それぞれ1個の前記軸受けが取り付けられているか又は形成されており、対応する前記軸が貫通することにより、これらの前記ガイドレールはそれぞれ独立に回転することができる。第一の前記ガイド

レール、第四の前記ガイドレール及び第五の前記ガイドレールのうち少なくとも1個の両端には、2個の前記軸が取り付けられているか又は形成されており、それぞれ対応する2個の前記軸受けに接続されている。本発明は全ての前記土台を移動させることなく前記ロータを3自由度で回転させることができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0022】

請求項14の発明は、請求項1～13のうちいずれか1項に記載の3自由度回転システムに対して、少なくとも1個のエンコーダが、前記ガイドレール、前記軸及び前記軸受けのうち少なくとも1つの回転角度を検出することにより、前記ロータの向きを検出することを特徴とする3自由度回転システムである。前記エンコーダは、前記ガイドレール、前記軸及び前記軸受けのうち少なくとも1個の前記回転角度を検出することにより、対応する前記ガイドレールの前記回転角度を検出することができる。このとき、前記エンコーダは少なくとも1個の前記土台に直接固定されても良いし、スペーサ及び筐体を介してこれらの前記土台と接続されても良い。本発明は、3個の前記エンコーダを用いた場合でも、これらの前記エンコーダを移動させることなく前記ロータの向きを検出することができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0023】

請求項15の発明は、請求項14記載の3自由度回転システムに対して、少なくとも1個の前記エンコーダが複数の歯車を介して、前記ガイドレール、前記軸及び前記軸受けのうち少なくとも1個に連結することにより、前記ロータの前記向きを検出することを特徴とする3自由度回転システムである。複数の前記歯車には、平歯車、かさ歯車、円筒ギア及びウォームギアなどが用いられる。これらの前記歯車を組み合せることにより、前記ガイドレールの前記回転角度を高精度に検出することができる。ただし、これらの前記歯車のうち少なくとも1個の中心は、この前記ガイドレールに対応する前記軸と重なるように取り付けられるものとする。本発明は、3個の前記エンコーダを用いた場合でも、これらの前記エンコーダを移動させることなく前記ロータの向きを高精度に検出することができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0024】

請求項16の発明は、請求項14又は請求項15記載の3自由度回転システムに対して、少なくとも1個の前記エンコーダの各々が1個のアクチュエータを備えたことを特徴とする3自由度回転システムである。1個の前記エンコーダと1個の前記アクチュエータが同じ回転子を共有することにより、この前記エンコーダが検出した前記ガイドレールの前記回転角度に応じて、前記アクチュエータはこの前記ガイドレールの前記回転角度を変更することができる。本発明は、3個の前記エンコーダ及び3個の前記アクチュエータを用いた場合でも、これらの前記エンコーダ及びこれらの前記アクチュエータを移動させることなく前記ロータの向きを高精度に検出することができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0025】

請求項17の発明は、請求項1～13のうちいずれか1項に記載の3自由度回転システムに対して、少なくとも1個のアクチュエータが、前記ガイドレール、前記軸及び前記軸受けのうち少なくとも1個を回転させることにより、前記ロータを回転させることを特徴とする3自由度回転システムである。前記アクチュエータは、前記ガイドレール、前記軸及び前記軸受けのうち少なくとも1個を前記軸を中心に回転させることにより、対応する前記ガイドレールを回転させることができる。このとき、前記アクチュエータは少なくとも1個の前記土台に直接固定されても良いし、スペーサ及び筐体を介してこれらの前記土台と接続されても良い。本発明は、3個の前記アクチュエータを用いた場合でも、これらの前記アクチュエータを移動させることなく前記ロータを3自由度で回転させることができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0026】

請求項18の発明は、請求項17記載の3自由度回転システムに対して、少なくとも1個の前記アクチュエータが複数の歯車を介して、前記ガイドレール、前記軸及び前記軸受けのうち少なくとも1個に連結することにより、前記ロータを回転させることを特徴とする3自由度回転システムである。複数の前記歯車には、平歯車、かさ歯車、円筒ギア及びウォームギアなどが用いられる。これらの前

記歯車を組み合せることにより、前記アクチュエータは小さなトルクで、しかも前記ガイドレールを高精度に回転させることができる。ただし、これらの前記歯車のうち少なくとも1個の中心は、この前記ガイドレールに対応する前記軸と重なるように取り付けられるものとする。本発明は、3個の前記アクチュエータを用いた場合でも、これらの前記アクチュエータを移動させることなく前記ロータの向きを高精度に回転させることができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0027】

請求項19の発明は、請求項14、15又は16記載の3自由度回転システムに対して、少なくとも1個の前記エンコーダが、コンピュータシステムに接続されることにより、前記コンピュータシステムが前記ロータの回転角度を計算することを特徴とする3自由度回転システムである。前記コンピュータシステムは、少なくとも1個の前記エンコーダから出力される、前記ガイドレール、前記軸及び前記軸受けのうち少なくとも1つの回転角度に対応した電気信号を入力する。これにより、前記エンコーダの前記電気信号が、前記ロータの前記回転角度に対して比例しなくとも、前記コンピュータシステムは、数式及び表を用いて、この前記電気信号からこの前記回転角度を計算することができる。本発明は、前記指示棒の位置に応じて発生する、前記エンコーダの前記電気信号と前記ロータの前記回転角度の間のずれを補正することができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0028】

請求項20の発明は、請求項16、17又は18記載の3自由度回転システムに対して、少なくとも1個の前記アクチュエータが、コンピュータシステムに接続されることにより、前記コンピュータシステムが前記ロータを回転させることを特徴とする3自由度回転システムである。少なくとも1個の前記アクチュエータは、前記コンピュータシステムが出力する電気信号を入力する。これにより、前記コンピュータシステムの前記電気信号が、前記ロータの前記回転角度に対して比例しなくとも、前記コンピュータシステムは、数式及び表を用いて、この前記回転角度を計算する。本発明は、前記指示棒の位置に応じて発生する、前記コ

ンピュータシステムの前記電気信号と前記ロータの前記回転角度の間のずれを補正することができるので、3自由度回転システムに関する諸問題が好適に解決される。

【0029】

請求項21の発明は、請求項20記載の3自由度回転システムに対して、前記指示棒と反対方向を撮影するカメラが前記ロータに埋め込まれたことを特徴とする人工眼球である。前記カメラのレンズが前記指示棒と反対方向に向き、しかもこの前記レンズの前記光軸が前記指示棒を通るように、この前記カメラは前記ロータに埋め込まれる。さらに、この前記カメラの電線は、パイプ状の前記指示棒の中を通って外部に取り出される。したがって、この前記カメラは外部からの指示により広範囲を撮影することができる。本発明は、前記コンピュータシステムを用いて、前記カメラの前記光軸の向きを制御することができるので、人工眼球に関する諸問題が好適に解決される。

【0030】

請求項22の発明は、請求項21記載の人工眼球において、前記コンピュータシステムが、前記カメラによって撮影された画像を記憶することと、前記画像の各画素の順番を入れ替えて出力することと、により、前記画像が回転することを特徴とする人工眼球である。前記コンピュータシステムは、3自由度回転システムを用いることにより、前記カメラの光軸を中心にして約90度まで前記画像を回転させることができる。さらに、この前記コンピュータシステムは、この前記画像の各画素の順番を変えることにより、アフィン変換をすることなく、この前記画像を90度単位で360度回転させることができる。したがって、この前記コンピュータシステムは、特別な画像処理システムを用いることなく、この前記画像をほぼ360度回転させることができる。本発明は、この特別な前記画像処理システムを用いることなく、前記カメラが撮影した前記画像を任意の角度で回転させることができるので、人工眼球に関する諸問題が好適に解決される。

【0031】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の第一ガイドレール11、第二ガイドレール12及び第三ガイド

レール13を利用した3自由度回転システム(3 degree-of-freedom rotation system)の実施形態を挙げ、図面を参照して説明する。

【0032】

まず、球状のロータ1が回転軸6を中心に回転する3自由度回転システムの骨格が、図1及び2に示されている。図1から明らかなように、このロータ1の中心がこの回転軸6上に位置するように、このロータ1が土台2の中央に配置され、2個の軸4がこの回転軸6上で向い合うように、この土台2に取り付けられている。このとき、この土台2の中心部分は円形に形成され、このロータ1が自由に回転できるようになっている。ただし、この土台2の外形は任意で良い。第一ガイドレール11の両端には、それぞれ軸受け5が取り付けられているか、又は形成されており、この第一ガイドレール11がこのロータ1の表面に沿って円弧状に湾曲するように、これらの軸受け5が、それぞれ対応する軸4に取り付けられている。そのため、この第一ガイドレール11は、この回転軸6を中心に回転することができる。なお、これらの軸受け5にボールベアリングが用いられても良い。

【0033】

さらに、図2から明らかなように、指示棒3の延長線がこのロータ1の中心を通るように、この指示棒3がこのロータ1に取り付けられているか、又は形成されている。また、この第一ガイドレール11にはスリット21が開けられており、この指示棒3がこのスリット21の中をスライドすることができる。したがって、このロータ1がこの回転軸6を中心に回転した場合、この指示棒3がこの第一ガイドレール11を押すことにより、この第一ガイドレール11も、このロータ1と同じ回転角度だけ、この回転軸6を中心に回転する。反対に、この第一ガイドレール11がこの回転軸6を中心に回転した場合、この第一ガイドレール11がこの指示棒3を押すことにより、このロータ1も、この第一ガイドレール11と同じ回転角度だけ、この回転軸6を中心に回転する。

【0034】

しかしながら、このロータ1がこのスリット21に沿って回転した場合、この指示棒3がこのスリット21の中をスライドするため、この第一ガイドレール1

1は回転しない。したがって、この指示棒3がこのスリット21の末端に到達するまで、このロータ1は回転することができる。さらに、このロータ1がこの指示棒3を中心に回転した場合、この指示棒3がこの第一ガイドレール11に力を加えないため、この第一ガイドレール11は回転しない。したがって、このロータ1は、この指示棒3を中心にして無限に回転することができる。

【0035】

ところで、図1及び2では、土台2が丁度ロータ1の中央に配置されていたが、これではこのロータ1は不安定になり、この土台2から簡単に外れてしまう。そこで図3に示すように、この土台2の位置を回軸6からずらし、さらに、各々の軸4をスペーサ7によってこの土台2に固定することにより、この土台2がこのロータ1を支えることができる。加えて、この土台2が指示棒3の邪魔にならないので、第一ガイドレール11は180度以上回転することができる。ただし、この土台2の中心部分はこのロータ1の接触面に合わせて円形に形成され、さらにこのロータ1とこの土台2の間の摩擦が極力小さくなるように、それぞれの接触面は加工されるものとする。このとき、この接触面にポールベアリングが取り付けられても良い。

【0036】

もっとも、このままではこのロータ1はこの土台2の中で飛び跳ねてしまうので、図4に示すように、このロータ1を2個の土台2に挟むことにより、このロータ1は安定することができる。また、このようにすれば、3自由度回転システムの組み立ても容易となる。

【0037】

さて、ここまで、1個の第一ガイドレール11を用いた3自由度回転システムについて説明してきた。しかしながら、このシステムでは、ロータ1の3つの回軸6のうち、1つの回軸6を中心とした回転角度しか検出することはできない。ただし、第二ガイドレール12の回軸6が第一ガイドレール11の回軸6と直交するように、この第二ガイドレール12を土台2に取り付ければ、ロータ1の3つの回軸6のうち、2つを中心とした回転角度を検出できることは自明である。そこで以下では、第三ガイドレール13を用いて、ロータ1の3つ

の回転軸6のうち、残りの1つを中心とした回転角度を検出する方法について説明する。

【0038】

まず、図5に示すように、末端が外側に曲げられたスライダ22を指示棒3に取り付ける。このとき、このスライダ22のうち、この指示棒3に取り付けられた部分は任意の断面を有すると共に、これらの部分をロータ1の表面に沿って円弧状に湾曲させておくと良い。一方で、このスライダ22の末端は棒状である。次に、図6に示すように、第三ガイドレール13のスリット21にこのスライダ22を通した後で、第二ガイドレール12と同じ回転軸6に取り付ける。なお、この土台2とこのスリット21が直交するように、この第三ガイドレール13が直角に形成されることが望ましい。さらに、このスリット21は、このスライダ22が滑らかにスライドするように、外側に向けて傾けられていると良い。最後に、これらのガイドレールは、入れ子状になるように、この土台2に取り付けられても良いし、また互い違いになるように、この土台2に取り付けられても良い。

【0039】

さて、図6に示すように、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13が平行になる場合、スライダ22が、この第三ガイドレール13のスリット21の中をスライドすることにより、指示棒3もこれらのガイドレールに平行して移動することができる。しかもこれらのガイドレールの間隔が一定であるため、この指示棒3はその延長線に対して回転することはない。そこで、この間隔が一定のままで、これらのガイドレールが2個の軸4を通る回転軸6を中心に回転する場合を考える。このとき、このロータ1がこの回転軸6を中心に回転すれば、この指示棒3が第二ガイドレール12を押したり引いたりすることにより、このガイドレールもこのロータ1と同じ回転角度だけ、この回転軸6を中心に回転する。反対に、このガイドレールがこの回転軸6を中心に回転した場合、このガイドレールがこの指示棒3を押したり引いたりすることにより、このロータ1も、このガイドレールと同じ回転角度だけ、この回転軸6を中心に回転する。

【0040】

ここで、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13が独立して回転する

場合を考える。このとき、これらのガイドレールの間隔は広くなったり狭くなったりする。そこで、スライダ22の剛性により、これらのガイドレールの間隔が広くなった場合、このスライダ22と、これらのガイドレールと、が成す角度が90度に近づく方向に、指示棒3が回転する。反対に、これらのガイドレールの間隔が狭くなったりする場合、このスライダ22と、これらのガイドレールと、が成す角度が0度に近づく方向に、この指示棒3が回転する。したがって、ロータ1がこの指示棒3の延長線に対して回転した場合、回転方向に応じて、これらのガイドレールが成す角度が大きくなったり小さくなったりする。また、これらのガイドレールが成す角度を大きしたり、小さくすることにより、このロータ1をこの指示棒3の延長線に対して回転させることもできる。このとき、このロータ1は、これらのガイドレールに対して0度～180度の範囲で回転することができる。しかしながら、これらのガイドレールの回転角度の差分だけを用いた場合、0度～90度の範囲でしか回転角度を特定することができない。ただし、これらのガイドレールが共に図2に示すような形状であり、これらのガイドレールを入れ子状に土台2に取り付けられ、さらに外側のガイドレールが指示棒3を跨ぐことができる場合に限り、0度～180度の範囲で回転角度を特定することができる。

【0041】

さて、ここで、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13が独立に回転する場合、これらのガイドレールの回転角度の差分が一定であっても、指示棒3の位置に応じて、これらのガイドレールの間隔が変化するという問題が起る。コンピュータシステムなどを用いて、これらの変化を補正することができれば特に問題はないが、さもなくば、何らかの補正手段が必要になる。そこで、図7に示すように、これらのガイドレールのスリット21が、土台2と平行になるように、コの字形に折り曲げられた第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13が用いられる。これらのガイドレールをこのように曲げることにより、これらのガイドレールが回転軸6を中心にして独立に回転しても、これらのガイドレールは、この回転軸6を中心とする円弧に沿って平行移動する。したがって、これらのガイドレールの回転角度の差分が一定であれば、この指示棒3の位置に關係なく

これらのガイドレールの間隔も一定となる。ただし、この指示棒3の移動範囲は狭くなる。

【0042】

なお、ここまででは、図5に示すような、外側に曲げられたスライダ22を用いた場合について説明したが、代りに、図8に示すような、内側に曲げられたスライダ22を用いても良い。この場合、このスライダ22は、第三ガイドレール13の外側から、これらのスリット21を通るものとする。また、図9に示すように、スライダ22の末端に止め具を取り付けることにより、このスライダ22がこの第三ガイドレール13のスリット21から外れることを防ぐこともできる。

【0043】

そこで、図10及び11に示すように、請求項1記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、直交する第一ガイドレール11と、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13と、有する。特に、請求項11記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、全ての軸4が土台2に取り付けられている。なお、図10では、この第二ガイドレール12及びこの第三ガイドレール13が互い違いにこの土台2に取り付けられている。また、図11では、これらのガイドレールが入れ子状にこの土台2に取り付けられている。図10及び11では、図21に示すようなスライダ22が用いられているので、この第二ガイドレール12及びこの第三ガイドレール13の内側に第一ガイドレール11が取り付けられている。この理由は、これらのスライダ22の末端がこの第一ガイドレール11に引っ掛かるのを防ぐためである。したがって、図25に示すようなスライダ22が用いられた場合、この第二ガイドレール12及びこの第三ガイドレール13の外側に第一ガイドレール11を取り付けた方が良い。さらに、図10及び11に示すように、この第二ガイドレール12及びこの第三ガイドレール13が平行になるときに、このスライダ22がこれらのガイドレールに対して45度傾くように、これらのガイドレールが土台2に取り付けられたものとする。このとき、これらのガイドレールの回転角度の差分から、指示棒3の延長線を中心としたロータ1の回転角度を簡単に計算することができる。

【0044】

なお、ここまででは、4個の軸4が土台2に埋め込まれた場合か、又はこの土台2から切り出された場合について説明してきた。しかしながら、これらの軸4のうち少なくとも1個が、第一ガイドレール11、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13のうちのいずれか1端に取り付けられたか、又は形成されても良い。この場合、この土台2に取り付けられるべき少なくとも1個の軸4の位置には、少なくとも1個の軸受け5が取り付けられる。ここで、この土台2に取り付けられた軸受け5にボールベアリングを用いることにより、これらのガイドレールのうち、これらの軸4が取り付けられたものは、土台2から外れ難くなると共に、3自由度回転システムの組み立てが容易となる。特に、請求項12記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13が互い違いになっているときに効果を発揮し、一方で、請求項13記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13が入れ子状になっているときに効果を発揮する。

【0045】

さて、請求項1記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、少ない部品点数でロータ1を回転させることができるけれども、スライダ22の形状が複雑であるという問題がある。したがって、この3自由度回転システムがこのロータ1を安定的に回転させるためには、高い精度で加工されたスライダ22が必要となり、結果としてこの3自由度回転システムは高価となる。そこで以下では、複雑な形をしたこのスライダ22を用いない3自由度回転システムについて説明する。

【0046】

まず、図12に示すように、ロータ1の表面に沿って円弧状に湾曲された第四ガイドレール14が指示棒3に取り付けられたものとする。このガイドレールにはスリット21が開けられ、このスリット21の中をスライダ22がスライドする。ただし、このスライダ22の両端は膨らむように加工されているか、又は図13に示すように、この両端にストッパー23が取り付けられている。これにより、このスライダ22はこのスリット21から外れなくなる。

【0047】

そこで、図12に示すように、請求項3記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、第三ガイドレール13及び第四ガイドレール14の交点にスライダ22が取り付けられる。このとき、このスライダ22の延長線がロータ1の中心を通るように、これらのガイドレールの傾きが調節されるならば、このスライダ22はこれらのガイドレールに対して常に垂直になるので、このスライダ22はこれらのガイドレールのスリット21の中を滑らかにスライドすることができる。したがって、第一ガイドレール11が、対応する2個の軸4に対して回転することにより、このスライダ22はこの第三ガイドレール13のスリット21の中をスライドするので、このロータ1もこれらの軸4に対して回転することができる。また、この第二ガイドレール12が、対応する2個の軸4に対して回転することにより、この第三ガイドレール13と一緒に回転するので、このロータ1もこれらの軸4に対して回転することができる。さらに、この第二ガイドレール12及びこの第三ガイドレール13の間隔を変えることにより、このスライダ22はこの第四ガイドレール14のスリット21の中をスライドするので、このロータ1は指示棒3に対して回転することができる。

【0048】

ところで、このスライダ22の場所では、これらのスリット21は二重に重なるので、これらのガイドレールのうち少なくとも1個が、それぞれの軸4を中心に回転する場合、このスライダ22の一部にだけ負荷が掛る。したがって、これらのガイドレールが撓む可能性がある。そこで、図14に示すように、第四ガイドレール14を傘状にすれば、この第四ガイドレール14は頑丈になる。勿論、この第四ガイドレール14の形状は傘の全部又は一部であっても良い。

【0049】

さて、ここまででは、全てのガイドレールにスリット21が開けられた場合について説明してきた。このとき、全てのスライダ22は、これらのガイドレールのスリット21の中をスライドすることになる。しかしながら、これらのスリット21がなくても、これらのスライダ22はこれらのガイドレールに沿ってスライドすることができる。そこで以下では、これらのガイドレールのうち少なくとも

1個が棒状である場合について説明する。

【0050】

例えば、図15に示すように、第四ガイドレール14が棒状であるとする。このとき、図16に示すように、スライダ22にパイプスライダ25を取り付けることにより、このパイプスライダ25はこの第四ガイドレール14に沿って滑らかにスライドすることができる。ただし、このパイプスライダ25は、この第四ガイドレール14に沿って湾曲しているものとする。したがって、このスライダ22も第三ガイドレール13のスリット21の中を滑らかにスライドすることができる。さらに、図17に示すように、第三ガイドレール13も棒状であるとする。このとき、図18に示すように、2個のパイプスライダ25を連結棒26によって接続すれば、これらのパイプスライダ25がこの連結棒26を中心にして自由に回転することにより、これらのパイプスライダ25はこれらのガイドレールに沿って滑らかにスライドすることができる。ただし、これらのパイプスライダ25は、それぞれこれらのガイドレールに沿って湾曲しているものとする。また、図19に示すように、第三ガイドレール13が棒状であり、第四ガイドレール14がスリット21を備えるものとする。このとき、図20に示すように、パイプスライダ25がこの第三ガイドレール13に沿ってスライドすることにより、このパイプスライダ25に取り付けられたスライダ22がこの第四ガイドレール14のスリット21の中を滑らかにスライドすることができる。ただし、このパイプスライダ25は、この第三ガイドレール13に沿って湾曲しているものとする。

【0051】

なお、図10～20から明らかなように、請求項10記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、パイプ状の指示棒3を用いることにより、少なくとも1本のワイヤを、全てのガイドレールに絡ませることなく、ロータ1から全てのワイヤを取り出すことができる。このとき、これらのワイヤの一部をコイル状にすることにより、これらのワイヤが全てのガイドレールに不必要的負荷を加えなくて済む。これにより、このロータ1に任意の部品を取り付けることができるので、3自由度回転システムの応用範囲が大きく広がる。

【0052】

この他に、請求項1記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、連結棒26又はペアリングを介して指示棒3の任意の場所に取り付けられたパイプスライダ25を棒状の第一ガイドレール11に沿ってスライドさせることもできる。ただし、このパイプスライダ25は、この第一ガイドレール11に沿って湾曲しているものとする。

【0053】

さて、ここまででは、1個のスライダ22又は少なくとも1個のパイプスライダ25が指示棒3に取り付けられているか、又はこの指示棒3に連結されている場合について説明してきた。しかしながら、このような場合、この指示棒3には1方向から力が加えられるので、この指示棒3は不安定になる。そこで以下では、この指示棒3に向い合う2方向から力が均等に加えられる方法について説明する。

【0054】

まず、図21に示すように、末端が外側に曲げられた、2個のスライダ22を指示棒3に取り付ける。このとき、各々のスライダ22のうち、この指示棒3に取り付けられた部分は任意の断面を有すると共に、これらの部分をロータ1の表面に沿って円弧状に湾曲させておくと良い。また、これらのスライダ22の末端は棒状であり、この指示棒3を中心にして、これらの末端が成す角度は、180度か、又はそれより僅かに小さい角度に設定されるものとする。次に、図22に示すように、この第二ガイドレール12のスリット21に1個のスライダ22を通した後で、図23に示すように、第一ガイドレール11と同様に第二ガイドレール12を土台2に取り付ける。なお、この土台2とこのスリット21が直交するように、この第二ガイドレール12が直角に形成されることが望ましい。さらに、このスリット21は、このスライダ22が滑らかにスライドするように、外側に向けて傾けられないと良い。最後に、図24に示すように、第三ガイドレール13をこの第二ガイドレール12と同様に、この土台2に取り付けるものとする。このとき、これらのガイドレールは、入れ子状になるように、この土台2に取り付けられても良いし、また互い違いになるように、この土台2に取り付けら

れても良い。

【0055】

さて、図24に示すように、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13が平行になる場合、2個のスライダ22が、それぞれこれらのガイドレールのスリット21の中をスライドすることにより、指示棒3もこれらのガイドレールに平行して移動することができる。しかもこれらのガイドレールの間隔が一定であるため、この指示棒3はその延長線に対して回転することはない。そこで、この間隔が一定のままで、これらのガイドレールが2個の軸4を通る回転軸6を中心に回転する場合を考える。このとき、このロータ1がこの回転軸6を中心に回転すれば、この指示棒3に取り付けられた2個のスライダ22がこれらのガイドレールを押したり引いたりすることにより、これらのガイドレールもこのロータ1と同じ回転角度だけ、この回転軸6を中心に回転する。反対に、これらのガイドレールがこの回転軸6を中心に回転した場合、これらのガイドレールがこれらのスライダ22を押したり引いたりすることにより、このロータ1も、これらのガイドレールと同じ回転角度だけ、この回転軸6を中心に回転する。

【0056】

ここで、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13が独立して回転する場合を考える。このとき、これらのガイドレールの間隔は広くなったり狭くなったりする。そこで、2個のスライダ22の剛性により、これらのガイドレールの間隔が広くなった場合、これらのスライダ22と、これらのガイドレールと、が成す角度が90度に近づく方向に、指示棒3が回転する。反対に、これらのガイドレールの間隔が狭くなったりした場合、これらのスライダ22と、これらのガイドレールと、が成す角度が0度に近づく方向に、この指示棒3が回転する。したがつて、ロータ1がこの指示棒3の延長線に対して回転した場合、回転方向に応じて、これらのガイドレールが成す角度が大きくなったり小さくなったりする。また、これらのガイドレールが成す角度を大きしたり、小さくすることにより、このロータ1をこの指示棒3の延長線に対して回転させることもできる。このとき、このロータ1は、これらのガイドレールに対して0度～180度の範囲で回転することができるが、これらのガイドレールの回転角度の差分だけを用いた場合、

0度～90度の範囲でしか回転角度を特定することができない。そこで、この指示棒3を中心として、これらのスライダ22の末端が成す角度を180度よりも僅かに小さくすることにより、これらのガイドレールの間隔が最大になったとしても、このロータ1が90度を越えて回転しないようにすることができる。

【0057】

さて、ここで、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13が独立に回転する場合、これらのガイドレールの回転角度の差分が一定であっても、指示棒3の位置に応じて、これらのガイドレールの間隔が変化するという問題が起る。コンピュータシステムなどを用いて、これらの変化を補正することができれば特に問題はないが、さもなくば、何らかの補正手段が必要になる。そこで、図7に示すように、これらのガイドレールのスリット21が、土台2と平行になるように、コの字形に折り曲げられた第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13が用いられる。これらのガイドレールをこのように曲げることにより、これらのガイドレールが回転軸6を中心にして独立に回転しても、これらのガイドレールは、この回転軸6を中心とする円弧に沿って平行移動する。したがって、これらのガイドレールの回転角度の差分が一定であれば、この指示棒3の位置に關係なくこれらのガイドレールの間隔も一定となる。ただし、この指示棒3の移動範囲は狭くなる。

【0058】

なお、ここまででは、図21に示すような、外側に曲げられた2個のスライダ22を用いた場合について説明したが、代りに、図25に示すような、内側に曲げられた2個のスライダ22を用いても良い。この場合、各々のスライダ22は、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13の外側から、これらのスリット21を通るものとする。

【0059】

そこで、図26及び27に示すように、請求項4記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、直交する第一ガイドレール11と、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13と、を有する。特に、請求項11記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、全ての軸4が土台2に取り付けられ

ている。なお、図26では、この第二ガイドレール12及びこの第三ガイドレール13が互い違いにこの土台2に取り付けられている。また、図27では、これらのガイドレールが入れ子状にこの土台2に取り付けられている。図26及び27では、図21に示すような2個のスライダ22が用いられているので、この第二ガイドレール12及びこの第三ガイドレール13の内側に第一ガイドレール11が取り付けられている。この理由は、これらのスライダ22の末端がこの第一ガイドレール11に引っ掛かるのを防ぐためである。したがって、図25に示すような2個のスライダ22が用いられた場合、この第二ガイドレール12及びこの第三ガイドレール13の外側に第一ガイドレール11を取り付けた方が良い。さらに、図26及び27に示すように、この第二ガイドレール12及びこの第三ガイドレール13が平行になるときに、これらのスライダ22がこれらのガイドレールに対して45度傾くように、これらのガイドレールが土台2に取り付けられたものとする。このとき、これらのガイドレールの回転角度の差分から、指示棒3の延長線を中心としたロータ1の回転角度を簡単に計算することができる。

【0060】

なお、ここまで、4個の軸4が土台2に埋め込まれた場合か、又はこの土台2から切り出された場合について説明してきた。しかしながら、これらの軸4のうち少なくとも1個が、第一ガイドレール11、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13のうちのいずれか1端に取り付けられたか、又は形成されても良い。この場合、この土台2に取り付けられるべき少なくとも1個の軸4の位置には、少なくとも1個の軸受け5が取り付けられる。ここで、この土台2に取り付けられた軸受け5にボールベアリングを用いることにより、これらのガイドレールのうち、これらの軸4が取り付けられたものは、土台2から外れ難くなると共に、3自由度回転システムの組み立てが容易となる。特に、請求項12記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13が互い違いになっているときに効果を発揮し、一方で、請求項13記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13が入れ子状になっているときに効果を発揮する。

【0061】

さて、請求項4記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、少ない部品点数でロータ1を回転させることができるけれども、次のような3つの問題がある。第一に、2個のスライダ22の形状が複雑である。第二に、これらのスライダ22が、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13と接触する面積が狭いので、これらのスライダ22がスリップし易い。第三に、指示棒3が第一ガイドレール11のスリット21の中でふらついてしまうので、このロータ1を安定させることができない。したがって、この3自由度回転システムがこのロータ1を安定的に回転させるためには、高い精度で加工された2個のスライダ22が必要となり、結果としてこの3自由度回転システムは高価となる。そこで以下では、複雑な形をしたこれらのスライダ22を用いない3自由度回転システムについて説明する。

【0062】

まず、図28に示すように、ロータ1の表面に沿って円弧状に湾曲された第四ガイドレール14及び第五ガイドレール15が指示棒3に取り付けられたものとする。このとき、これらのガイドレールは1枚の平板から作られても良いし、各々のガイドレールをこの指示棒3に取り付けても良い。これらのガイドレールには、それぞれスリット21が開けられ、各々のスリット21の中をスライダ22がスライドする。ただし、各々のスライダ22の両端は膨らむように加工されているか、又は、図28に示すように、これらの両端にストッパー23が取り付けられている。これにより、これらのスライダ22はこれらのスリット21から外れなくなる。次に、第一ガイドレール11及び第六ガイドレール16が各々の両端において軸受け5を共有し、しかも対応する軸4に取り付けられるものとする。このとき、これらのガイドレールは、図23に示すように、このロータ1の表面に沿って円弧状に湾曲される。さらに図22に示すように、これらのガイドレールのうち、円弧状に湾曲された部分が土台2に対して垂直になるように、これらのガイドレールは接着されるか、又は1枚の平板から加工される。したがって、これらのガイドレールは平行になる。

【0063】

そこで、図29に示すように、請求項7記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、第二ガイドレール12及び第五ガイドレール15の交点に第一ガイドレール11が重なるようにし、第三ガイドレール13及び第四ガイドレール14の交点に第六ガイドレール16が重なるようにし、さらに各々の交点にスライダ22が取り付けられる。勿論、この第二ガイドレール12及びこの第四ガイドレール14の交点と、この第三ガイドレール13及びこの第五ガイドレール15の交点と、に、それぞれスライダ22が取り付けられても良い。このとき、これらのスライダ22の延長線がロータ1の中心を通るように、これらのガイドレールの傾きが調節されるならば、これらのスライダ22はこれらのガイドレールに対して常に垂直になるので、これらのスライダ22はこれらのガイドレールのスリット21の中を滑らかにスライドすることができる。したがって、この第五ガイドレール15及びこの第四ガイドレール14が、対応する軸4に対して回転することにより、これらのスライダ22はそれぞれこの第二ガイドレール12のスリット21及びこの第三ガイドレール13のスリット21の中をスライドするので、このロータ1もこれらの軸4に対して回転することができる。また、この第二ガイドレール12及びこの第三ガイドレール13が、対応する軸4に対して回転することにより、これらのスライダ22はそれぞれこの第五ガイドレール15のスリット21及びこの第四ガイドレール14のスリット21の中をスライドするので、このロータ1もこれらの軸4に対して回転することができる。さらに、この第二ガイドレール12及びこの第三ガイドレール13の間隔を変えることにより、これらのスライダ22はそれぞれこの第五ガイドレール15及びこの第四ガイドレール14の中をスライドする。しかもこれらのスライダ22は、それぞれこの第一ガイドレール11のスリット21及びこの第六ガイドレール16のスリット21の中をスライドするので、このロータ1は指示棒3に対して回転することができる。

【0064】

ところで、各々のスライダ22の場所では、これらのスリット21は三重に重なるので、これらのガイドレールのうち少なくとも1個が、それぞれの軸4を中心回転する場合、これらのスライダ22の一部にだけ負荷が掛る。したがって

、これらのガイドレールが撓む可能性がある。そこで以下では、これらのガイドレールの撓みを抑制する方法について説明する。

【0065】

まず、図30に示すように、第四ガイドレール14及び第五ガイドレール15を傘状に形成する。これにより、これらのガイドレールの末端が撓むことがなくなる。この方法は、最も簡単であるが、残りのガイドレールの撓みも一緒に抑えることができ、極めて効果的である。

【0066】

次に、図31に示すように、請求項7記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、第二ガイドレール12及び第五ガイドレール15の交点に第一ガイドレール11が重なるようにし、第三ガイドレール13及び第四ガイドレール14の交点に第六ガイドレール16が重なるようにする。さらに、この第二ガイドレール12及びこの第一ガイドレール11の交点と、この第三ガイドレール13及びこの第一ガイドレール11の交点と、この第二ガイドレール12及びこの第六ガイドレール16の交点と、この第三ガイドレール13及びこの第六ガイドレール16の交点と、に、それぞれスライダ22が取り付けられる。このとき、これらのスライダ22の延長線がロータ1の中心を通るように、これらのガイドレールの傾きが調節され、さらに、この第二ガイドレール12のスリット21の中をスライドする2個のスライダ22の一端同士が1個の連結棒26によって連結される。同様に、この第三ガイドレール13のスリット21の中をスライドする2個のスライダ22の一端同士がもう1個の連結棒26によって連結される。これにより、この第一ガイドレール11及びこの第六ガイドレール16が撓まなくなり、これらのガイドレールのスリット21の平行が維持される。また、この第四ガイドレール14及びこの第五ガイドレール15が撓まなくなり、このロータ1が指示棒3に対して正確に回転する。

【0067】

この他に、図32に示すように、請求項7記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、第一ガイドレール11及び第六ガイドレール16をそれぞれ独立に回転させることができる。そこで第一ガイドレール11、第二ガイドレ

ール12、第三ガイドレール13及び第六ガイドレール16を細かく回転させることにより、この3自由度回転システムは、全てのガイドレールを撓ませることなくロータ1を3自由度で回転させることができる。反対に、このロータ1が3自由度で回転した場合、第一ガイドレール11、第二ガイドレール12、第三ガイドレール13及び第六ガイドレール16が独立して回転することにより、2個のスライダ22を介してこれらのガイドレールに加わる力を分散させることができる。

【0068】

さて、ここまででは、全てのガイドレールにスリット21が開けられた場合について説明してきた。このとき、全てのスライダ22は、これらのガイドレールのスリット21の中をスライドすることになる。しかしながら、これらのスリット21がなくても、これらのスライダ22はこれらのガイドレールに沿ってスライドすることができる。そこで以下では、これらのガイドレールのうち少なくとも1個が棒状である場合について説明する。

【0069】

例えば、図33に示すように、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13が棒状である場合、請求項7記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、これらのガイドレールに沿って、2個のスライダ22がスライドする。このとき、各々のスライダ22は1個のパイプスライダ25を備え、これらのガイドレールは、それぞれこれらのパイプスライダ25の中を通る。そこで、各々のパイプスライダ25の内側に少なくとも1個のポールを備えていれば、これらのパイプスライダ25は、それぞれこれらのガイドレールに沿って滑らかにスライドすることができる。ただし、これらのパイプスライダ25は、これらのガイドレールに合わせて円弧状に加工されているものとする。これにより、これらのガイドレールの間隔が長くなると、これらのスライダ22は、それぞれ第一ガイドレール11及び第六ガイドレール16に沿ってスライドする。したがって、これらのスライダ22は、それぞれ第五ガイドレール15及び第四ガイドレール14に沿ってスライドし、結果としてロータ1が時計回りに回転する。反対に、この第二ガイドレール12及びこの第三ガイドレール13の間隔が短くなると、こ

のロータ1は反時計回りに回転する。このように、これらのパイプスライダ25が用いられた場合、これらのパイプスライダ25は図31に示すような2個の連結棒26と同様の効果を發揮し、これらのガイドレールは撓まなくなる。この際に、これらの連結棒26が必要なくなるので、第四ガイドレール14及び第五ガイドレール15が傘状に加工され得る。

【0070】

さらに、図34に示すように、第一ガイドレール11、第二ガイドレール12、第三ガイドレール13及び第六ガイドレール16が棒状である場合、各々のスライダ22には2個のパイプスライダ25が直交するように取り付けられる。なお、これらのパイプスライダ25は、これらのガイドレールに合わせて円弧状に加工されているものとする。これにより、これらのガイドレールは撓まなくなり、しかも各々のスライダ22の延長線は常にロータ1の中心を通るようになる。勿論、第四ガイドレール14及び第五ガイドレール15が傘状に加工されれば、これらのガイドレールも撓まなくなる。

【0071】

ところで、第四ガイドレール14及び第五ガイドレール15が棒状である場合、どうなるであろうか。例えば、図35に示すように、第一～第六のガイドレールが棒状である場合、請求項7記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、それぞれ3個のパイプスライダ25を備えた2個のスライダ22を用いる。ただし、これらのパイプスライダ25が固定された場合、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13の間隔が変化しても、この第五ガイドレール15及びこの第四ガイドレール14の向きは一定であるので、ロータ1は回転することができない。そこで、図36に示すように、この第五ガイドレール15及びこの第四ガイドレール14を通す2個のパイプスライダ25が、それぞれ連結軸24によって残りのパイプスライダ25と連結されるものとする。このとき、この第一ガイドレール11及びこの第六ガイドレール16を通すこれらのパイプスライダ25は、それぞれこの連結軸24を中心にして、残りのパイプスライダ25と互いに回転することができるので、この第二ガイドレール12及びこの第三ガイドレール13の間隔が変化すれば、このロータ1は指示棒3を中心として回転

することができる。したがって、請求項7記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態において、第一ガイドレール11及び第六ガイドレール16のうち、少なくとも1個が棒状である場合、残りのガイドレールのうち1個でも棒状であれば、この連結棒26を用いて、複数のパイプスライダ25を連結すれば良い。

【0072】

なお、ここでは説明を簡単にするために、図33、34及び35に示すような3自由度回転システムについて説明したが、勿論、少なくとも1個のガイドレールが棒状である場合、これらのガイドレールの数だけパイプスライダ25を用いれば良い。このとき、各々のパイプスライダ25の内側に少なくとも1個のボールを備えていれば、これらのパイプスライダ25は、それぞれ対応するガイドレールに沿って滑らかにスライドすることができる。

【0073】

この他に、図26～35から明らかなように、請求項10記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、パイプ状の指示棒3を用いることにより、少なくとも1本のワイヤを、全てのガイドレールに絡ませることなく、ロータ1から全てのワイヤを取り出すことができる。このとき、これらのワイヤの一部をコイル状にすることにより、これらのワイヤが全てのガイドレールに不必要的負荷を加えなくて済む。これにより、このロータ1に任意の部品を取り付けることができるので、3自由度回転システムの応用範囲が大きく広がる。

【0074】

さて、ここまででは、スライダ22と、第一～第七のガイドレールと、の関係について説明してきた。以下では、主に図26に示した3自由度回転システムを用いて、ロータ1の回転角度の検出方法と、このロータ1の駆動方法について説明する。

【0075】

図37に示すように、請求項14記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、第一ガイドレール11、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13の各々に対して、少なくとも一端に少なくとも1個の軸4が取り付けられ

た場合、複数のエンコーダ31及び複数のアクチュエータなどがこれらの軸4に容易に取り付けられ得る。勿論、これらの軸4がこれらのガイドレールに直接取り付けられていない場合には、これらのエンコーダ31及びこれらのアクチュエータはこれらのガイドレールに直接取り付けられても良い。

【0076】

ところで、図37に示すように、第一ガイドレール11、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13の各々に対して、1個の軸4に1個のエンコーダ31が直接取り付けられた場合、このエンコーダ31はこの軸4の延長線上に配置されなければならない。さらに、このエンコーダ31を回転させるために、これらのガイドレールには大きな負荷が掛るので、これらのガイドレール、指示棒3及び2個のスライダ22の強度は大きくなければならない。しかしながら、これでは、3自由度回転システムは、大きく、しかも重くなってしまう。そこで、図38に示すように、これらのガイドレールの各々に対して、1個のガイドレール、1個の軸4及び1個の軸受け5のうち少なくとも1個に歯車32を取り付ける。このとき、この歯車32の回転軸がこの軸4の回転軸6と一致するようにこの歯車32は固定されるものとする。これにより、各々のエンコーダ31は任意の向きに設置され得る。さらにギア比を調整することにより、これらのエンコーダ31は少ないトルクで回転することができる。

【0077】

そこで、図39に示すように、請求項15記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、各々のエンコーダ31を任意の位置に配置することができる。なお、図39では、各々のガイドレールと、対応するエンコーダ31の間を、2個のかさ歯車が連結しているが、勿論、平歯車、円筒ギア及びウォームギアなどが用いられても良い。図39から明らかのように、ロータ1が3自由度で回転しても、いずれのエンコーダ31もこのロータ1と一緒に移動することはない。つまり、これらのエンコーダ31は、土台2及び筐体に容易に固定され得るので、本発明の利用者は3自由度回転システムを容易に設計することができる。さらに、請求項16記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、少なくとも1個のエンコーダ31の各々にアクチュエータを搭載する。これにより、

本発明は、このロータ1の3自由度の回転角度を検出するだけでなく、このロータ1を3自由度で回転させることもできる。したがって、このロータ1にカメラ41を搭載した移動カメラのように、撮影位置を特定しながら、任意の場所を撮影するような用途にも、本発明は適している。勿論、請求項17及び18記載の発明に対する実施形態のように、第一ガイドレール11、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13の各々にアクチュエータだけを連結することも可能である。特に、アクチュエータとしてステッピングモータが用いられた場合、これらのエンコーダ31を用いなくても、このロータ1の角度を細かく制御することができる。

【0078】

最後に、3自由度回転システムでは、ロータ1の回転角度を求めるために、第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13のそれぞれに接続された2個のエンコーダ31の回転角度の差分を計算したり、また、これらのガイドレールのスリット21の中を2個のスライダ22がスライドした場合に、指示棒3の位置に応じて回転角度を補正しなければならない。そこで、請求項19記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、コンピュータシステムを用いてこれらの計算を行う。さらに、少なくとも1個のアクチュエータを用いてこのロータ1を回転させる場合においても、各々のアクチュエータの回転角度を細かく制御する必要がある。そこで、請求項20記載の発明に対する3自由度回転システムの実施形態は、このコンピュータシステムを用いてこれらのアクチュエータの制御を行う。このように、コンピュータシステムを用いることにより、本発明の利用者は、3自由度回転システムを簡単に利用することができるようになる。

【0079】

なお、ここでは、3個のエンコーダ31及び3個のアクチュエータが用いられる場合について説明してきた。しかしながら、第四ガイドレール14及び第五ガイドレール15がそれぞれ独立に回転する場合、これらのガイドレール、これらのガイドレールを支える2個の軸4及びこれらの軸4に取り付けられた2個の軸受け5に、2個のエンコーダ31及び2個のアクチュエータが取り付けられる。このとき、これらのガイドレールが互い違いになるように、これらのガイドレー

ルがこれらの軸4に取り付けられると、これらのエンコーダ31及びアクチュエータの取り付けが容易になる。

【0080】

さて、ここまで3自由度回転システムについて説明してきた。そこで以下では、この3自由度回転システムの応用について説明する。

【0081】

図40に示すように、請求項21記載の発明に対する人工眼球の実施形態は、ロータ1にカメラ41が埋め込まれた3自由度回転システムである。ただし、図40では、このカメラ41は斜線によって表され、さらに第一ガイドレール11以外の全てのガイドレールは省略されている。このとき、このカメラ41のレンズ42は指示棒3と反対方向を向き、しかもこのレンズ42の光軸43がこの指示棒3を通るように、このカメラ41はこのロータ1に埋め込まれれば、コンピュータシステムがこの指示棒3の向きを検出することにより、このコンピュータシステムはこの光軸43の向きを容易に求めることができる。加えて、このカメラ41の複数の電線44がこの指示棒3の中を通ることにより、これらの電線44はいずれのガイドレールにも絡むことがないので、この指示棒3が土台2に妨げられるまで、このレンズ42の光軸43も移動することができる。したがって、この人工眼球は広範囲を撮影することができる。さらに、この土台2の位置をこのロータ1の中心からずらすことと、このロータ1を覆うようにこの土台2に半球状のカバー45を取り付けることと、により、このカバー45は、全てのガイドレールの動きを邪魔することなく、このロータ1をホコリや水分などから守ることができる。したがって、本発明の利用者は、携帯電話のような狭い空間にも人工眼球を容易に搭載することができる。

【0082】

さて、ここまで、3自由度回転システムが、指示棒3を中心にして約90度までロータ1を回転させる場合について説明してきた。しかしながら、これでは、このロータ1に埋め込まれたカメラ41も、このカメラ41の光軸43を中心にして約90度までしか回転することができない。そこで以下では、このカメラ41が撮影した画像を任意の角度で回転させる方法について説明する。

【0083】

まず、ロータ1に埋め込まれたカメラ41が撮影した画像を、一旦コンピュータシステムに記憶する。ただし、このコンピュータシステムのメモリには、この画像の各画素が順番に記憶されているものとする。このとき、これらの画素にガンマ補正のような各種画像処理を加えることもできる。次に、このコンピュータシステムは、この画像が90度単位で回転するように、これらの画素を順番に出力する。ただし、このメモリにはこれらの画素が順番に記憶されているので、このコンピュータシステムは、この画像の四隅のいずれかから一定の順番でこれらの画素を読み出せば良い。つまり、このコンピュータシステムはアフィン変換をする必要がない。したがって、このコンピュータシステムは、このメモリに対してこれらの画素を読み書きするだけで、この画像を90度単位で回転させることができる。そこで、このコンピュータシステムが、3自由度回転システムを用いて、カメラ41を約90度まで回転させることにより、結果として、カメラ41が撮影した画像をほぼ360度回転させることができる。この方法は、この画像を任意の角度に回転させても、消費電力は変わらない。したがって、携帯電話など低消費電力が求められる機器に対して最適である。

【0084】

以上、本実施形態を説明したが、本発明は上述の実施形態には限定されることはなく、当業者であれば種々なる態様を実施可能であり、本発明の技術的思想を逸脱しない範囲において本発明の構成を適宜改変できることは当然であり、このような改変も、本発明の技術的範囲に属するものである。

【0085】**【発明の効果】**

請求項1～13記載の発明によれば、ロータ1を3自由度で回転させてもこのロータ1の3つの回転角度を特定することができる。また反対に、第一～第七のガイドレールを適当に回転させることにより、指示棒3を、特定の向きに、しかもその指示棒3を中心として特定の回転角度になるように移動させることができるので、このロータ1を適当な向きに回転させることもできる。本発明では、これらのガイドレールが、それぞれ軸4と軸受け5を介して土台2に接続されてい

る。つまり、従来の3自由度移動システムのように、ロータ1を特定の方向に回転させるために、土台2自体を回転させる必要がない。したがって、本発明の製造者は、少ない部品で、単純で小さく構造で、しかも安価に3自由度の回転システムを製造することができる。

【0086】

請求項10記載の発明によれば、全てのワイヤを指示棒3の中を通すことにより、これらのワイヤを外部に取り出すことができる。しかもこれらのワイヤは電線44であっても良い。そこでロータ1にカメラ41を取り付けることにより、移動カメラ41の設計者は、これらの電線44を全てのガイドレールに絡ませることなく、容易に移動カメラや人工眼球を設計することができる。さらに、ジョイステイックの製造者が、ロータ1に対して垂直にリニアエンコーダを取り付けた場合、このジョイステイックの利用者は、このリニアエンコーダを前後にスライドさせるだけで、移動カメラのズームを制御することもできるようになる。

【0087】

請求項14、15及び19記載の発明によれば、3個のエンコーダ31の出力結果を組み合せることにより、ロータ1の3つの回転角度を検出することができる。したがって、本発明の利用者がトラックボールのようにロータ1を回転させた場合、本発明はロータ1の回転角度を検出することができる。また、本発明の利用者がジョイステイックのように指示棒3を回転させた場合、本発明は指示棒3の回転角度を検出することもできる。さらに従来の多自由度アクチュエータを用いてロータ1を回転させた場合にも、本発明は、ロータ1の回転角度を検出することができる。したがって、本発明を携帯電話のような小型情報端末に搭載することにより、この端末の設計者は、移動カメラを制御する小型軽量のユーザインターフェースを安価に実現することができる。また、ロータ1にカメラ41を組み込むことにより、本発明の利用者は、移動カメラや人工眼球として本発明を利用することができる。この際に、指示棒3をパイプ状にすることにより、カメラ41の信号線をロータ1から容易に取り出すことができるので、本発明は移動カメラや人工眼球に対して非常に有効である。

【0088】

請求項 16、19 及び 20 記載の発明によれば、3 個のエンコーダ 31 の出力結果を組み合せることにより、ロータ 1 の 3 つの回転角度を検出することができ、さらに、これらの回転角度に応じてロータ 1 を回転させることができる。したがって、ロータ 1 と土台 2 にそれぞれ支柱を取り付けることにより、本発明の利用者は、ロボットの関節として本発明を利用することができる。また、ロータ 1 にカメラ 41 を組み込むことにより、本発明の利用者は、移動カメラや人工眼球として本発明を利用することができる。この際に、指示棒 3 をパイプ状にすることにより、カメラ 41 の信号線をロータ 1 から容易に取り出すことができるので、本発明は移動カメラや人工眼球に対して非常に有効である。さらに、本発明を用いてジョイスティックが製造された場合、このジョイスティックの利用者が遠隔地から移動カメラを制御すると共に、この移動カメラの向きをこのジョイスティックに反映させることにより、この利用者はこの移動カメラの向きを実感できるといった双方向インターフェースを実現することができる。

【0089】

請求項 17、18 及び 20 記載の発明によれば、3 個のアクチュエータをそれぞれ独立に回転させることにより、これらの回転角度に応じてロータ 1 を回転させることができる。したがって、本発明の利用者は、雲台として本発明を利用することができる。また、ロータ 1 に光源を取り付けることにより、本発明の利用者は、サーチライトとして本発明を利用することができる。さらに、ロータ 1 に鏡を取り付けることにより、本発明の利用者は、電動バックミラー及び電動サイドミラーとして本発明を利用することができる。この他に、アクチュエータとしてステッピングモータを用い、さらにロータ 1 にカメラ 41 を組み込むことにより、本発明の利用者は、移動カメラや人工眼球として本発明を利用することができる。この際に、指示棒 3 をパイプ状にすることにより、カメラ 41 の信号線をロータ 1 から容易に取り出すことができるので、本発明は移動カメラや人工眼球に対して非常に有効である。

【0090】

請求項 21 記載の発明によれば、ロータ 1 の中にカメラ 41 を埋め込むことにより、人工眼球は、このロータ 1 の体積を増やすことなく、コンピュータシステ

ムを用いてこのカメラ41の光軸43の向きを3自由度で制御することができる。したがって、携帯電話の設計者は、小型化が求められる携帯電話にこの人工眼球を搭載することができる。

【0091】

請求項22記載の発明によれば、人工眼球は、アフィン変換など特別な画像処理システムを用いなくても、カメラ41が撮影した画像を任意の角度で回転させることができる。つまり、例えこの画像のサイズが大きくなつたとしても、この人工眼球は、この画像を任意の角度で回転させるために、余計な電力を消費しなくても良い。したがって、携帯電話の設計者は、低消費電力が求められる携帯電話にこの人工眼球を搭載することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

土台に取り付けられた第一ガイドレールの説明図である。

【図2】

第一ガイドレールのスリットを通る指示棒の説明図である。

【図3】

スペーサを介して土台に取り付けられた第一ガイドレールの説明図である。

【図4】

スペーサを介して2個の土台に挟まれたロータの説明図である。

【図5】

スライダの末端が外側に曲げられている場合の説明図である

【図6】

第三ガイドレールのスリットを通るスライダの説明図である。

【図7】

コの字形に曲げられた第三ガイドレールの説明図である。

【図8】

スライダの末端が内側に曲げられている場合の説明図である

【図9】

図5に対して、スライダの末端に止め具が取り付けられている場合の説明図で

ある

【図10】

第二ガイドレール及び第三ガイドレールが互い違いで土台に取り付けられた3自由度回転システムの説明図である。

【図11】

第二ガイドレールの外側になるように第三ガイドレールが土台に取り付けられた3自由度回転システムの説明図である。

【図12】

指示棒に取り付けられた第四ガイドレールのスリットに沿ってスライダがスライドする3自由度回転システムの説明図である。

【図13】

スリットを開けられた第四ガイドレールが指示棒に取り付けられた場合の説明図である。

【図14】

傘状の第四ガイドレールが指示棒に取り付けられた場合の説明図である。

【図15】

パイプスライダが棒状の第四ガイドレールをスライドする場合の説明図である。

【図16】

パイプスライダにスライダが取り付けられた場合の説明図である。

【図17】

図10に対して、2個のパイプスライダが、それぞれ棒状の第三ガイドレール及び第四ガイドレールに沿ってスライドする場合の説明図である。

【図18】

パイプスライダが、棒状の第四ガイドレールに沿ってスライドし、このパイプスライダに1個のパイプスライダが連結軸によって連結された場合の説明図である。

【図19】

パイプスライダが、棒状の第三ガイドレールに沿ってスライドし、このパイプ

スライダに取り付けられたスライダが第四ガイドレールに沿ってスライドする場合の説明図である。

【図20】

スライダにパイプスライダが取り付けられた場合の説明図である。

【図21】

2個のスライダの末端が外側に曲げられている場合の説明図である

【図22】

第二ガイドレールのスリットを通るスライダの説明図である。

【図23】

土台に取り付けられた第二ガイドレールの説明図である。

【図24】

第三ガイドレールのスリットを通るスライダの説明図である。

【図25】

2個のスライダの末端が内側に曲げられている場合の説明図である。

【図26】

第二ガイドレール及び第三ガイドレールが互い違いで土台に取り付けられた3自由度回転システムの説明図である。

【図27】

第二ガイドレールの外側になるように第三ガイドレールが土台に取り付けられた3自由度回転システムの説明図である。

【図28】

第四ガイドレール及び第五ガイドレールが指示棒に取り付けられている場合の説明図である。

【図29】

第一ガイドレール及び第六ガイドレールが一体となって土台に取り付けられた3自由度回転システムの説明図である。

【図30】

第四ガイドレール及び第五ガイドレールが傘状に形成された場合の説明図である。

【図31】

図29に対して、2対のスライダがそれぞれ連結棒によって連結された場合の説明図である。

【図32】

図29に対して、第一ガイドレール及び第六ガイドレールがそれぞれ個別に土台に取り付けられた場合の説明図である。

【図33】

図29に対して、2個のパイプスライダが、それぞれ棒状の第二ガイドレール及び第三ガイドレールに沿ってスライドする場合の説明図である。

【図34】

図33に対して、2個のパイプスライダが、それぞれ棒状の第一ガイドレール及び第六ガイドレールに沿ってスライドする場合の説明図である。

【図35】

図34に対して、2個のパイプスライダが、それぞれ棒状の第四ガイドレール及び第五ガイドレールに沿ってスライドする場合の説明図である。

【図36】

2個のパイプスライダが、それぞれ棒状の第四ガイドレール及び第五ガイドレールに沿ってスライドし、各々のパイプスライダに2個のパイプスライダが連結軸によって連結された場合の説明図である。

【図37】

図26に対して、第一ガイドレール、第二ガイドレール及び第三ガイドレールに直接エンコーダが接続された場合の説明図である。

【図38】

図26に対して、第一ガイドレール、第二ガイドレール及び第三ガイドレールに取り付けられた歯車の説明図である。

【図39】

図26に対して、第一ガイドレール、第二ガイドレール及び第三ガイドレールに取り付けられた歯車を介してエンコーダが接続された場合の説明図である。

【図40】

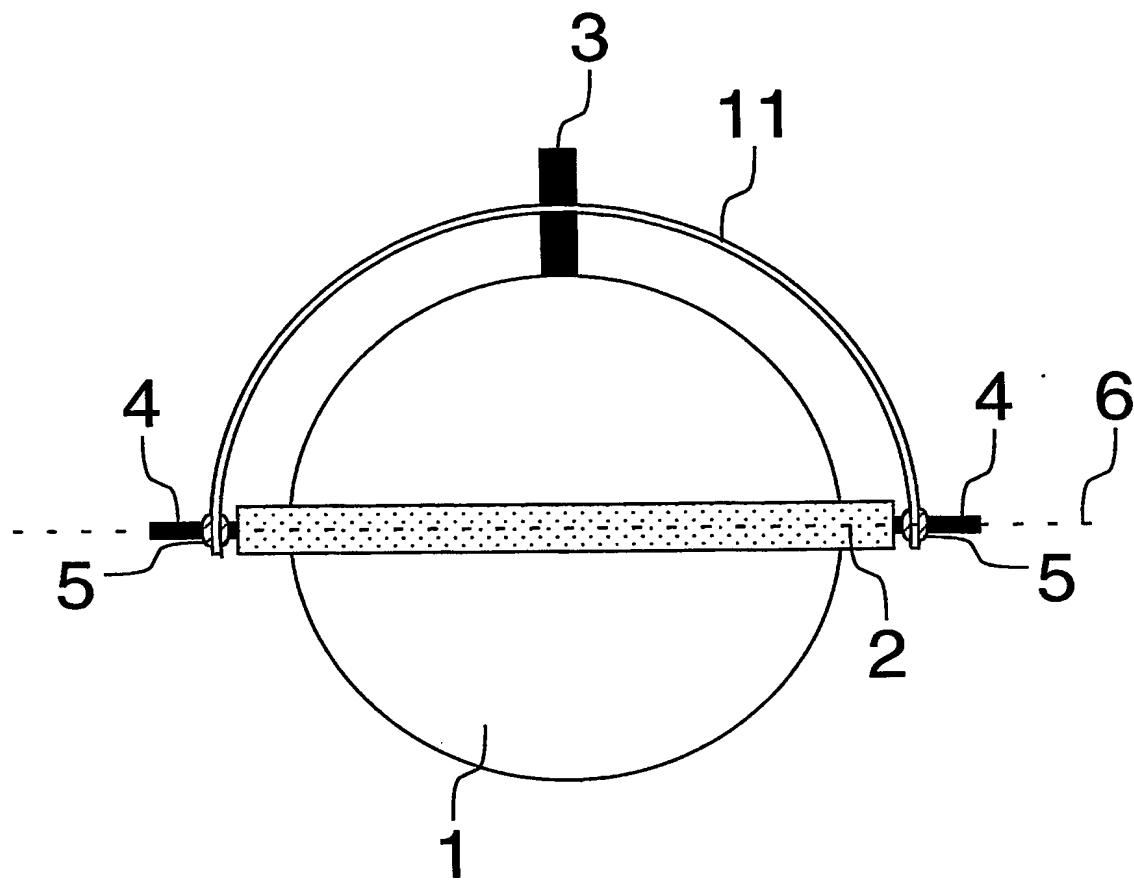
カメラがロータに埋め込まれた人工眼球の説明図である。

【符号の説明】

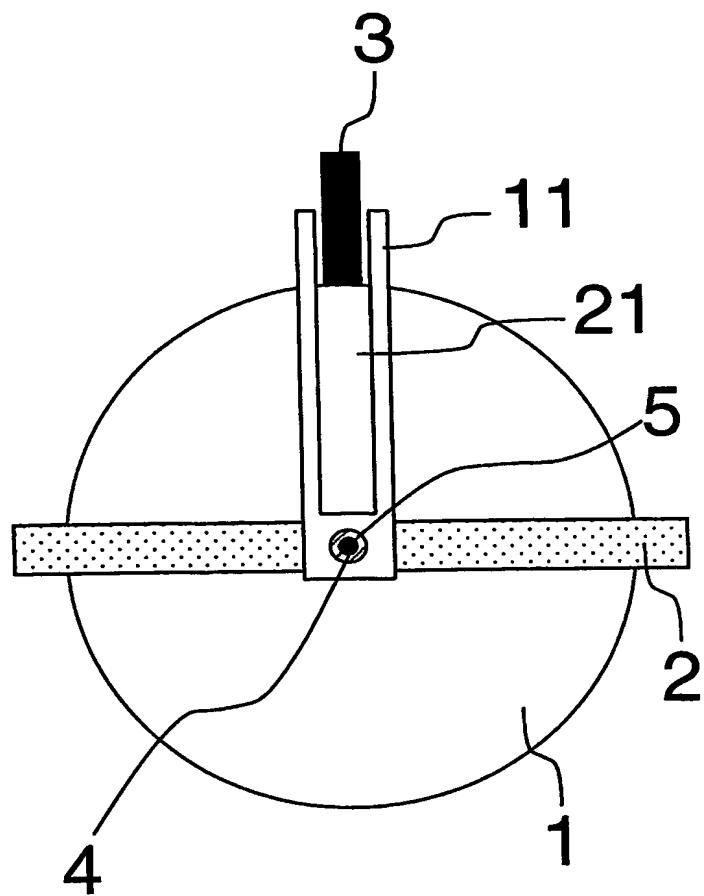
- 1 ロータ
- 2 土台
- 3 指示棒
- 4 軸
- 5 軸受け
- 6 回転軸
- 7 スペーサ
- 1 1 第一ガイドレール
- 1 2 第二ガイドレール
- 1 3 第三ガイドレール
- 1 4 第四ガイドレール
- 1 5 第五ガイドレール
- 1 6 第六ガイドレール
- 2 1 スリット
- 2 2 スライダ
- 2 3 ストップバー
- 2 4 連結軸
- 2 5 パイプスライダ
- 2 6 連結棒
- 3 1 エンコーダ
- 3 2 齒車
- 4 1 カメラ
- 4 2 レンズ
- 4 3 光軸
- 4 4 電線
- 4 5 カバー

【書類名】 図面

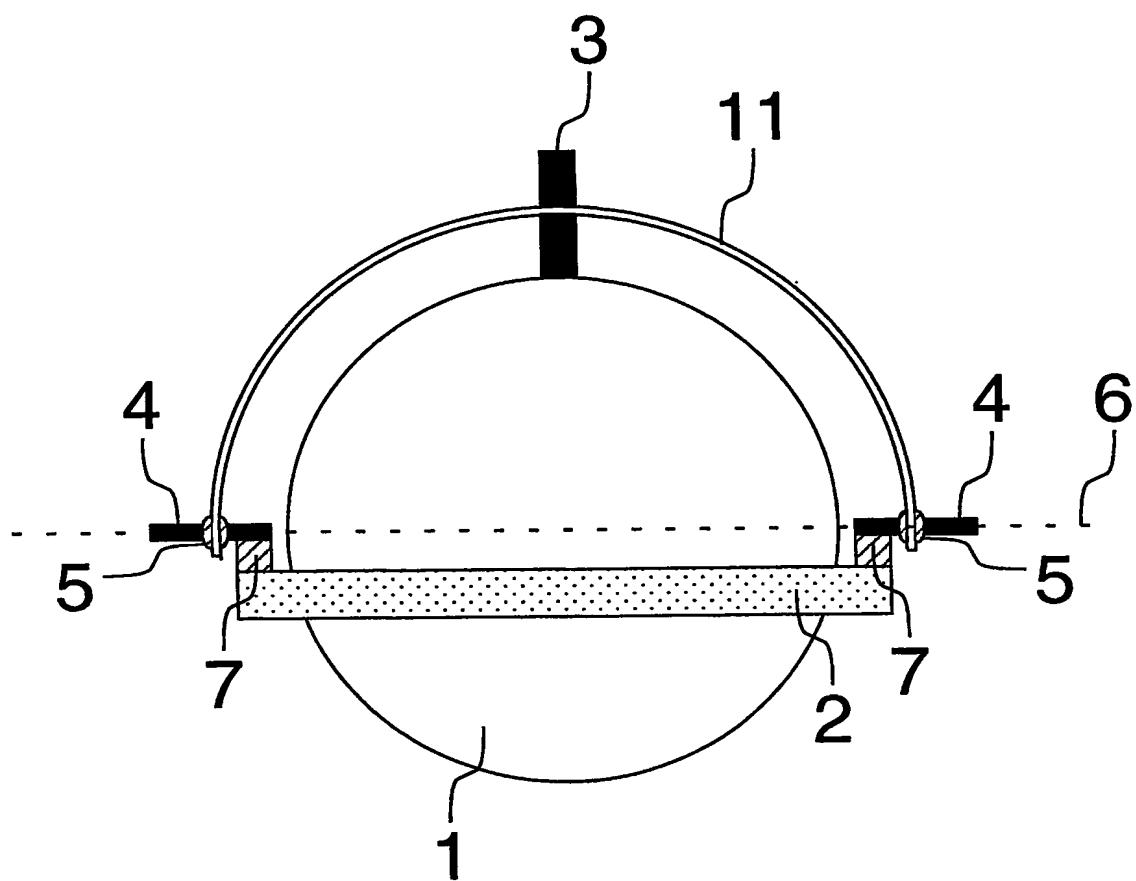
【図1】



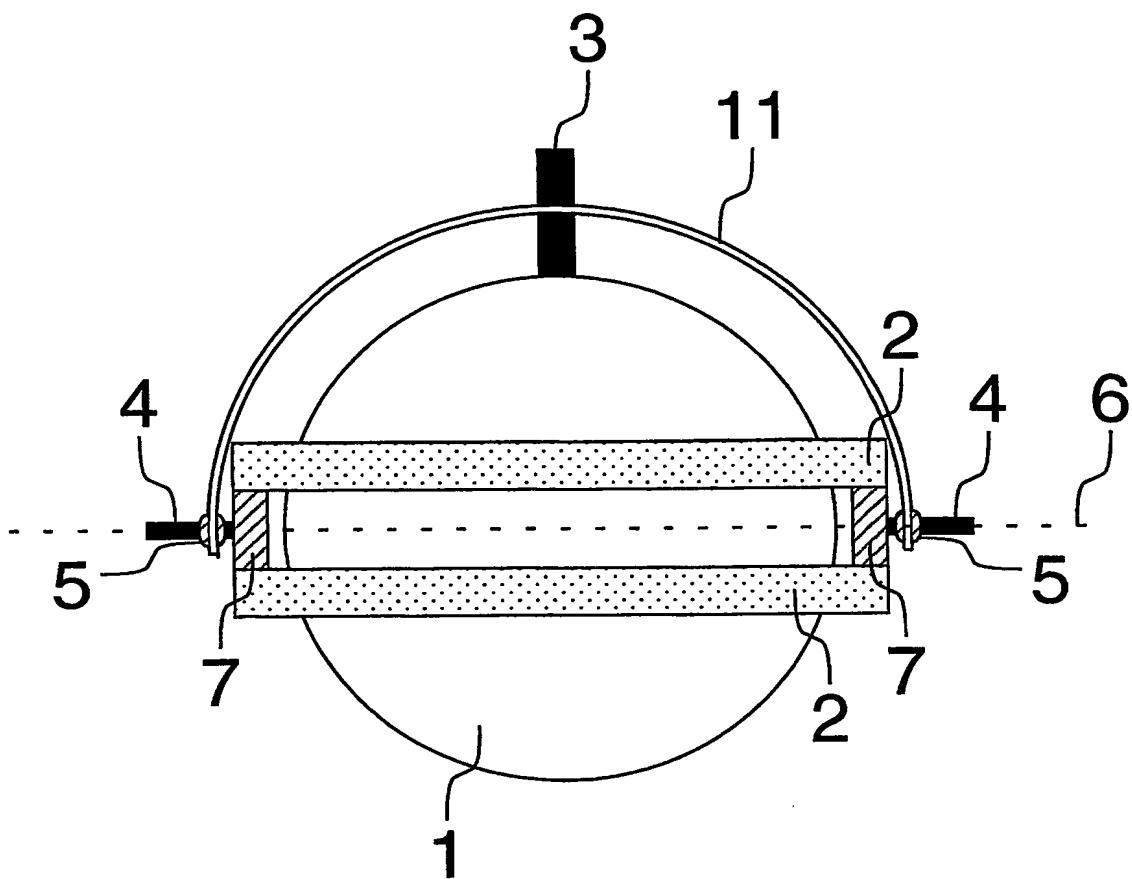
【図2】



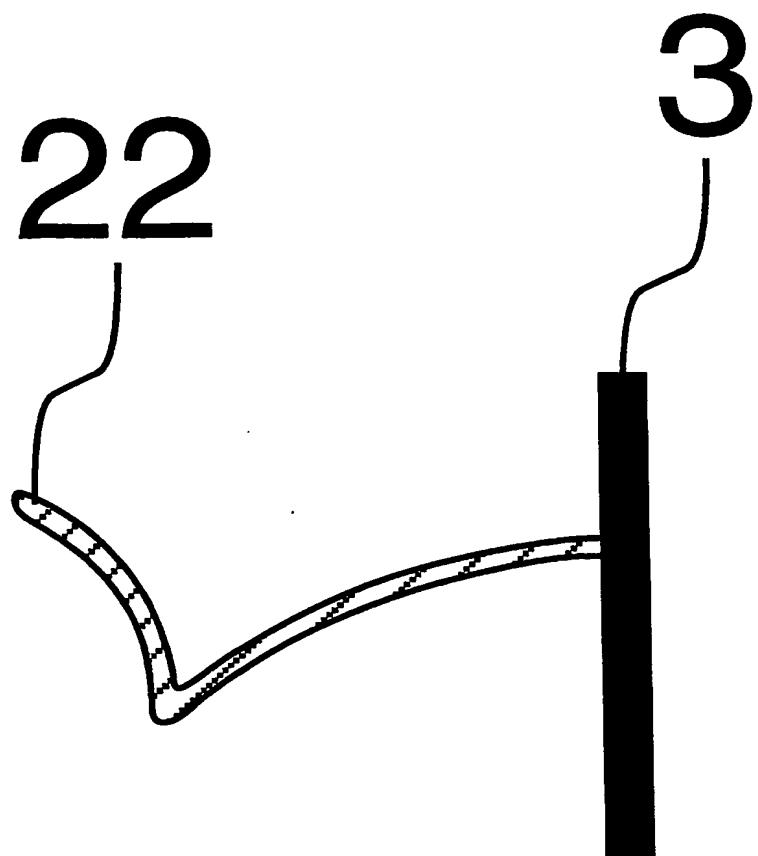
【図3】



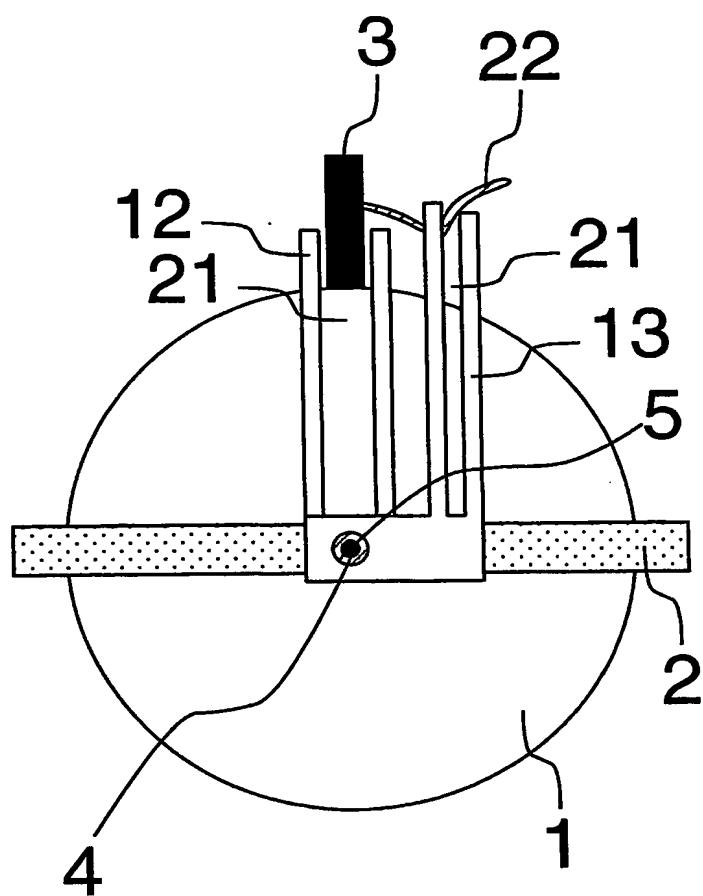
【図4】



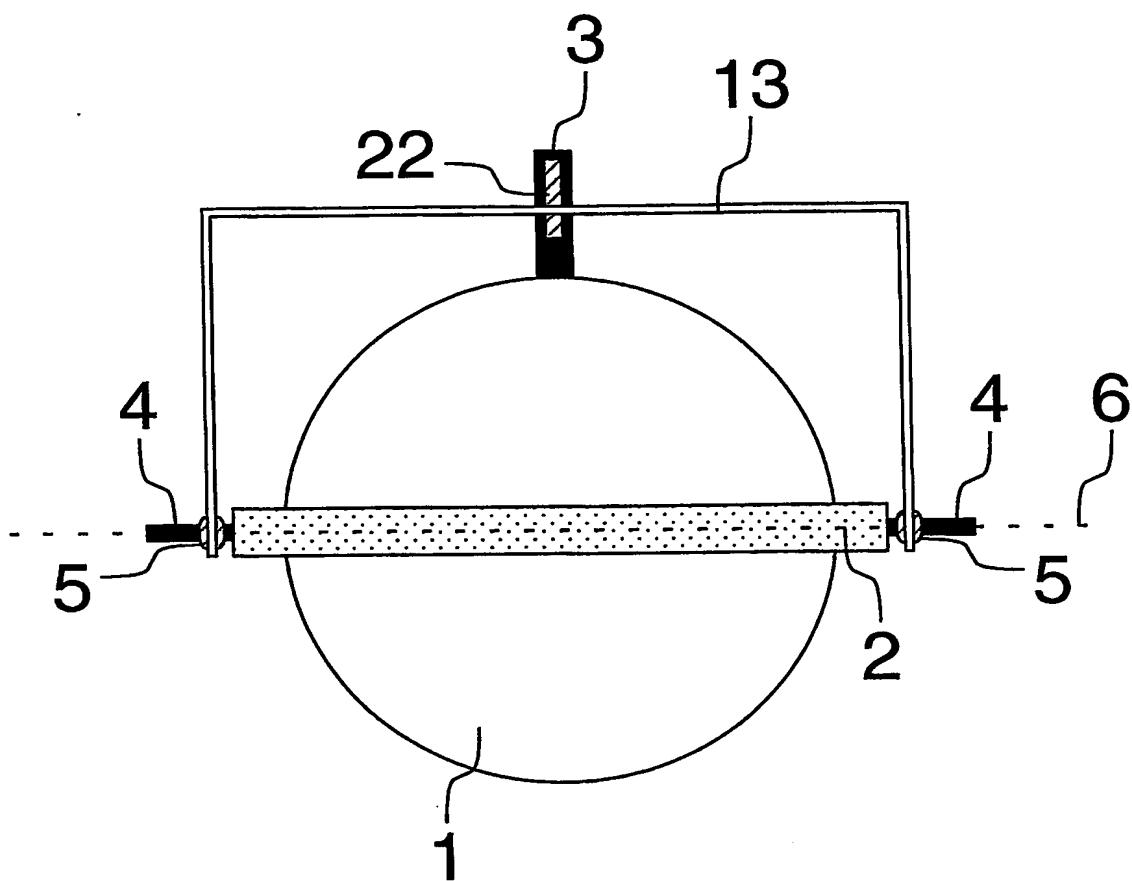
【図5】



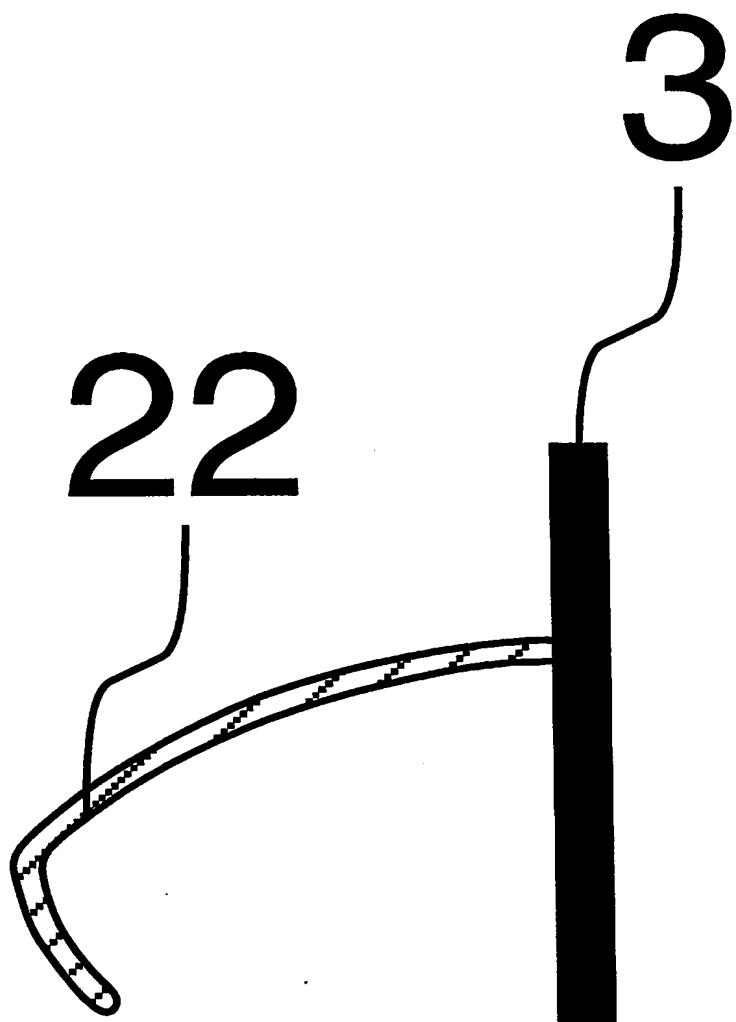
【図6】



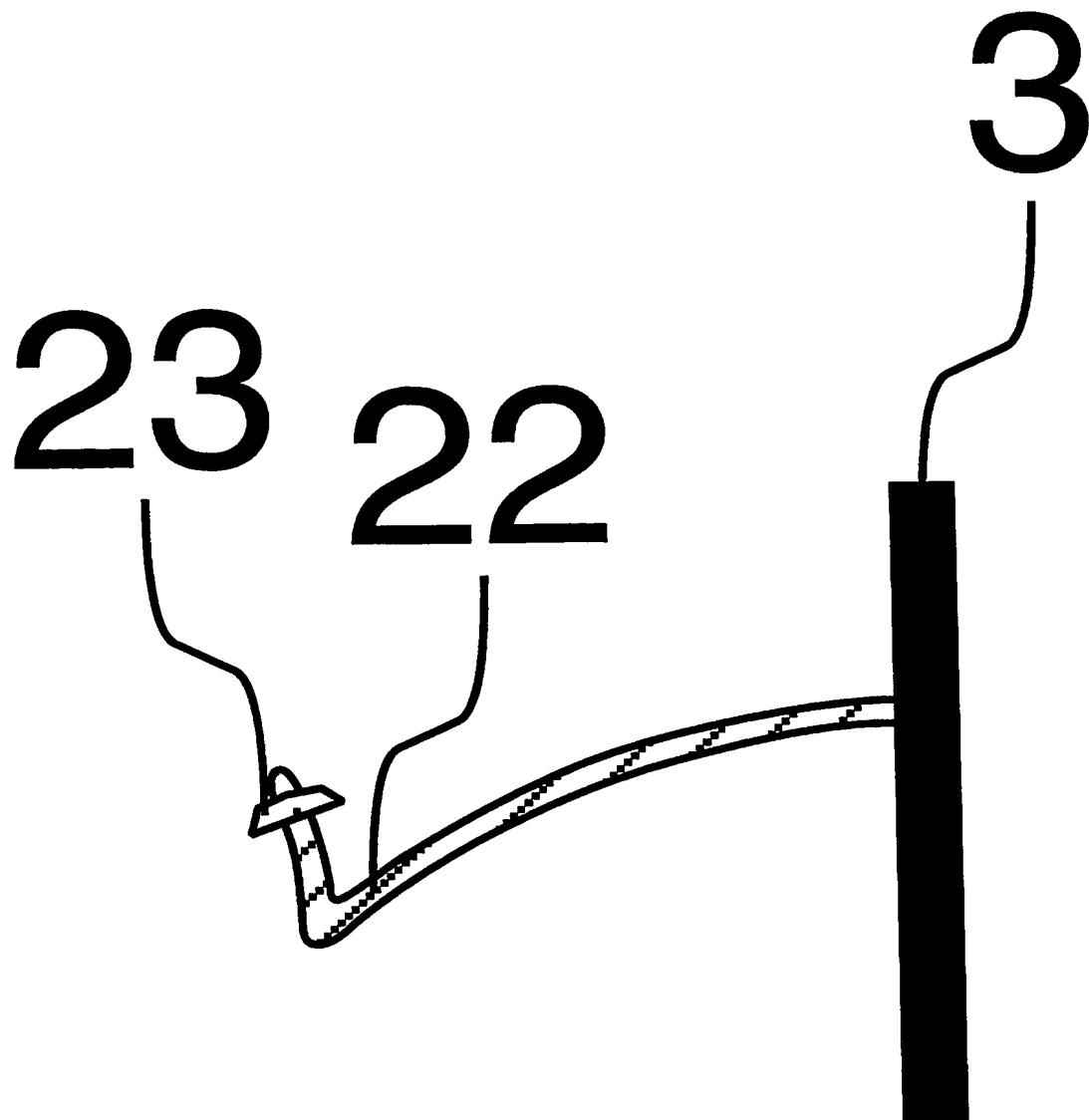
【図7】



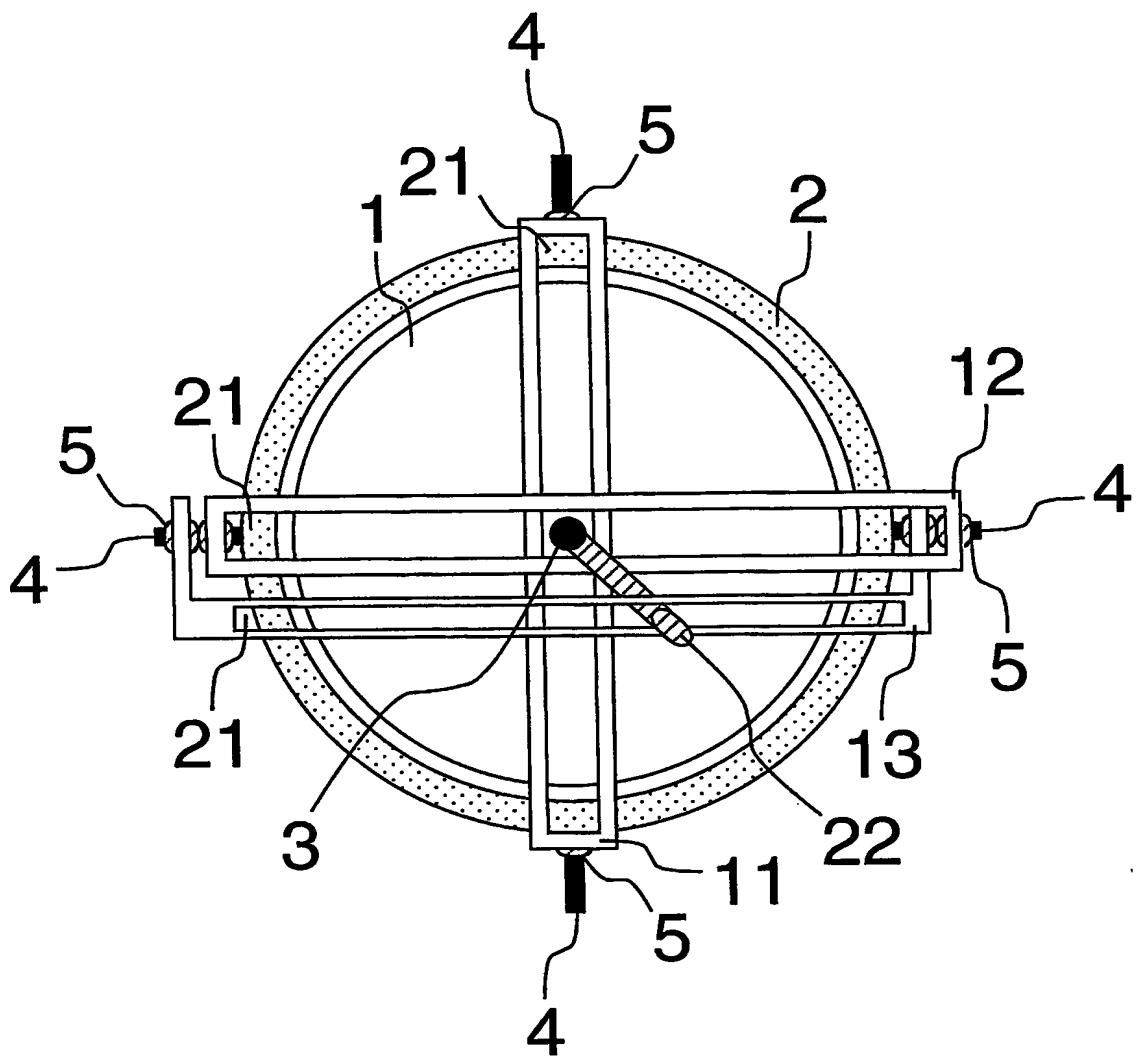
【図 8】



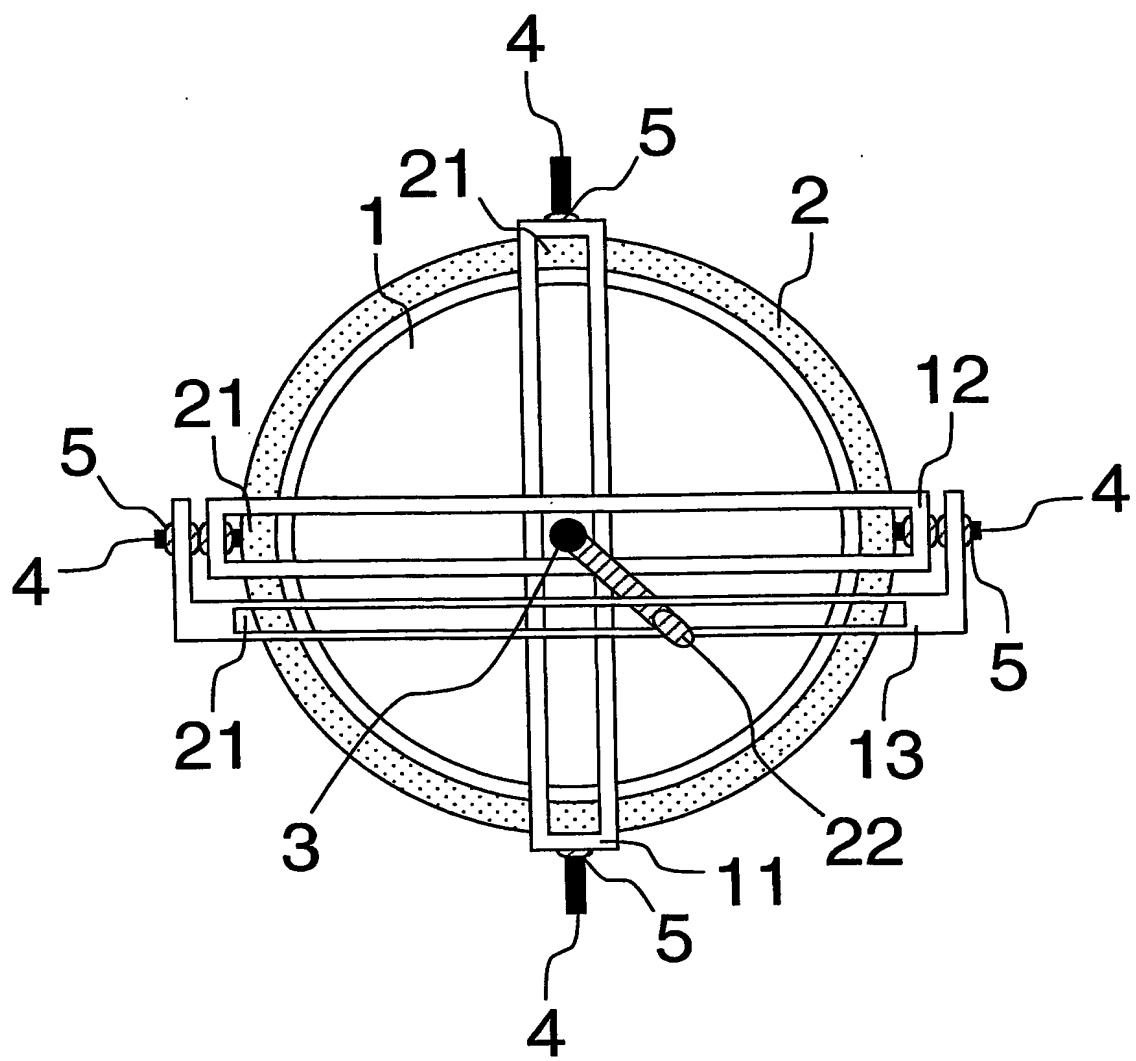
【図 9】



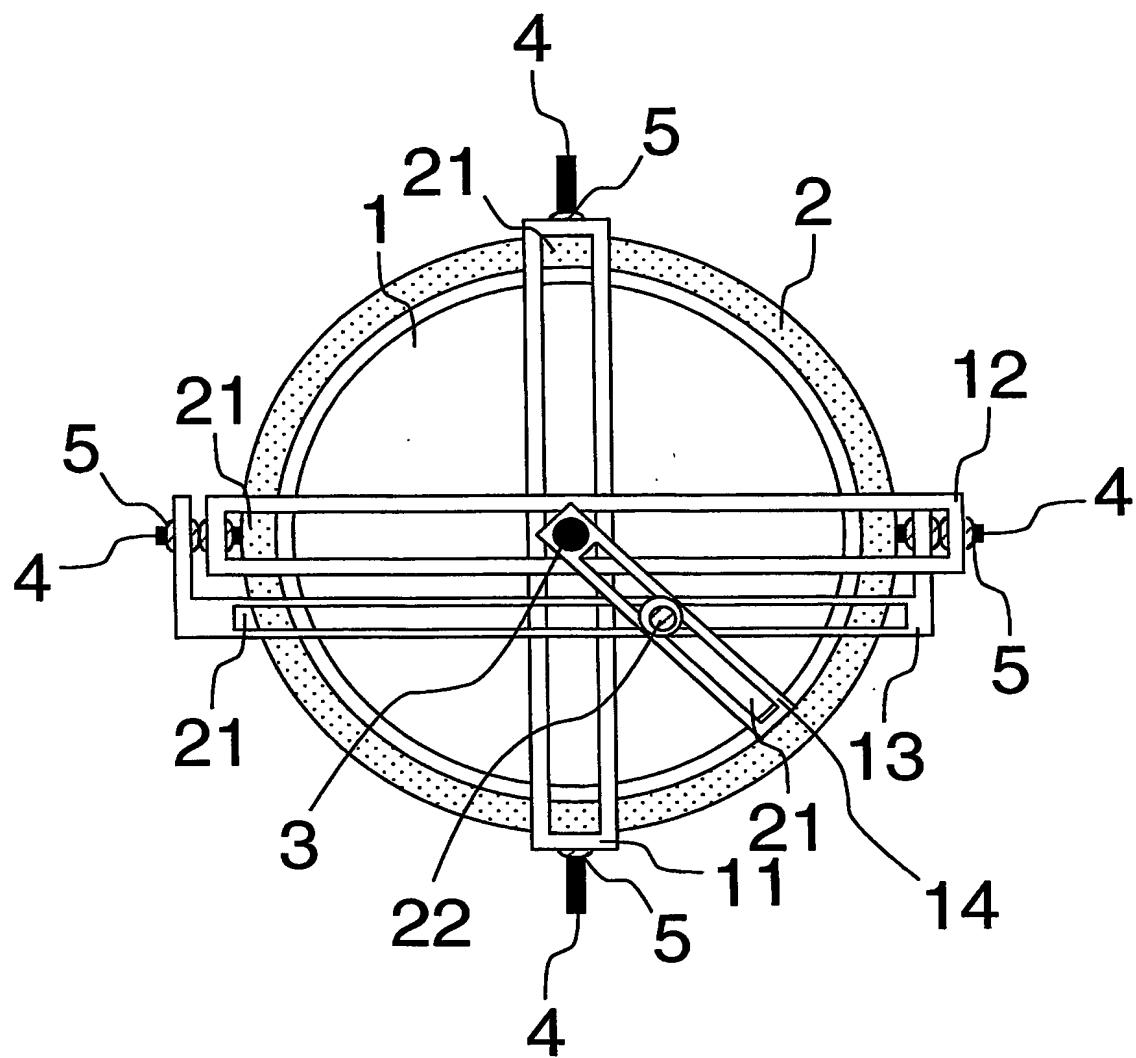
【図10】



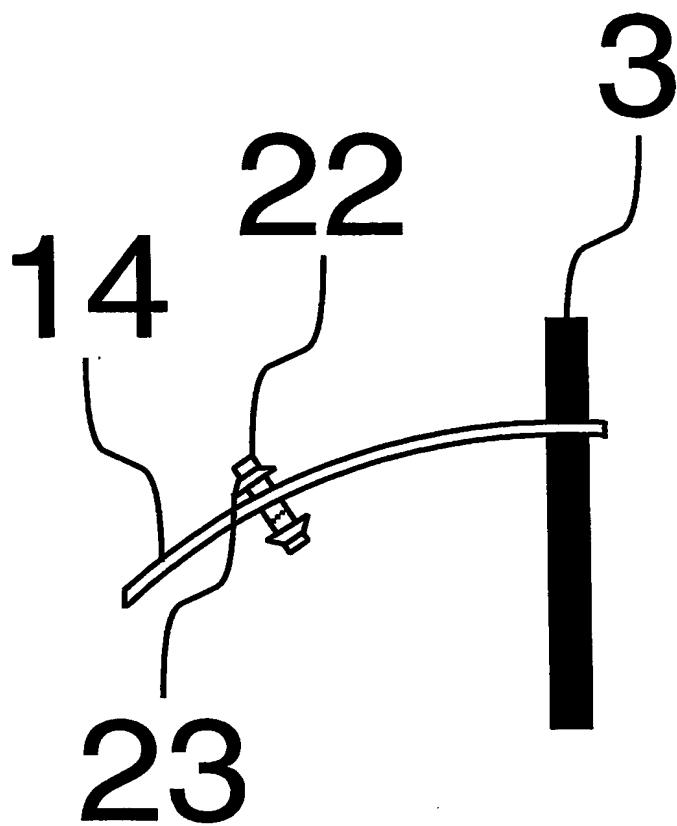
【図11】



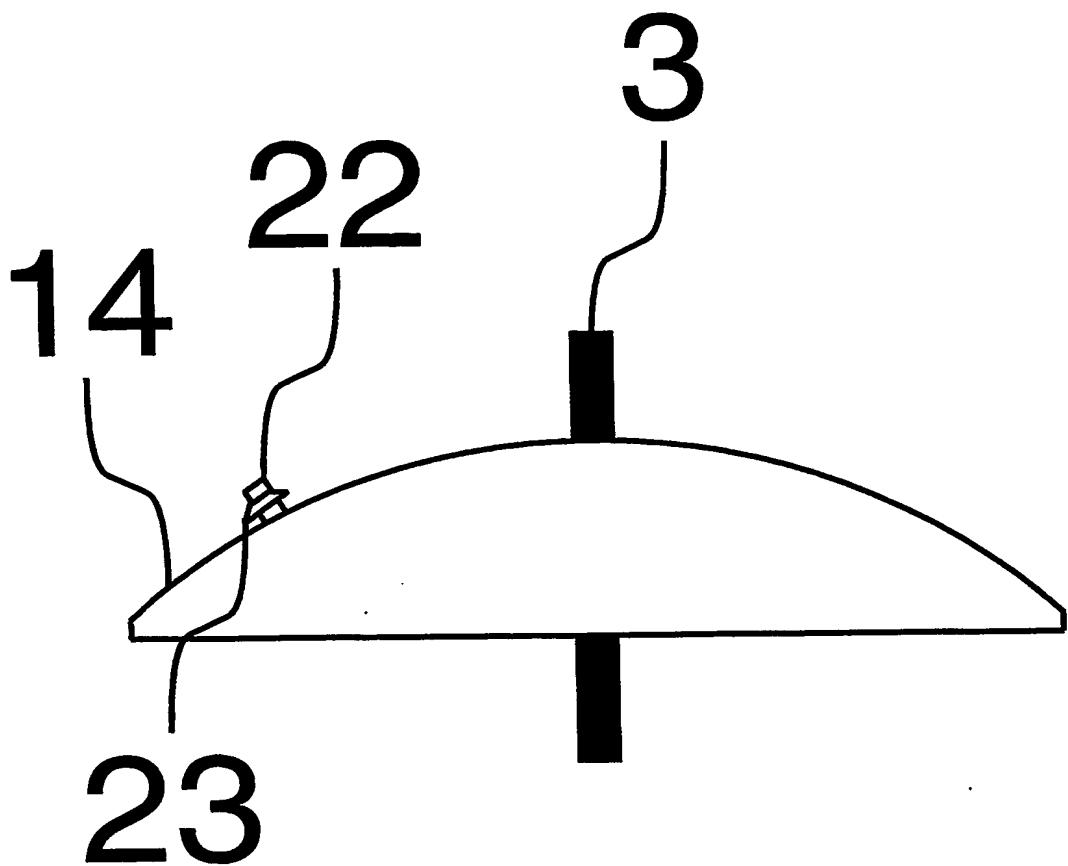
【図12】



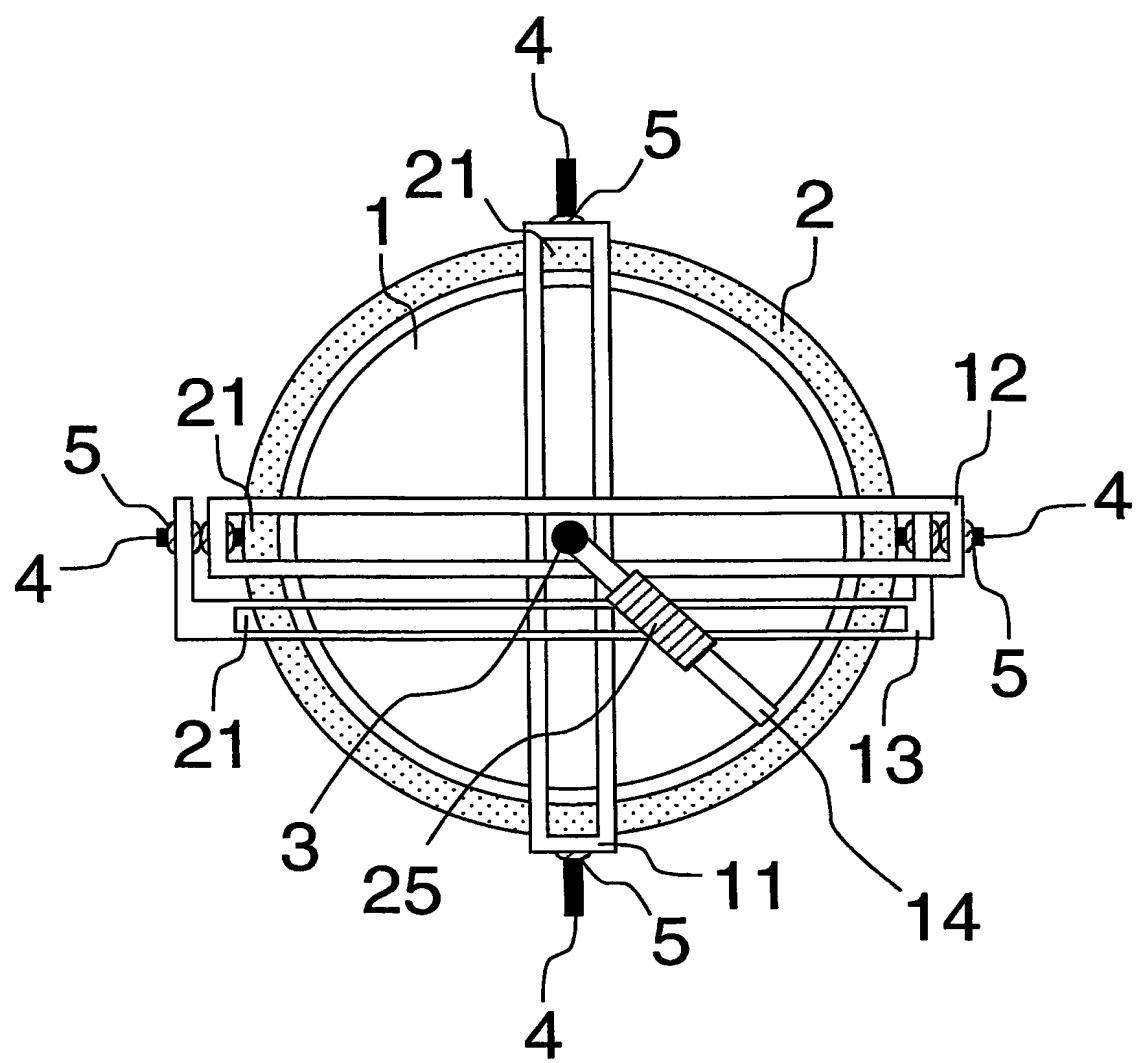
【図13】



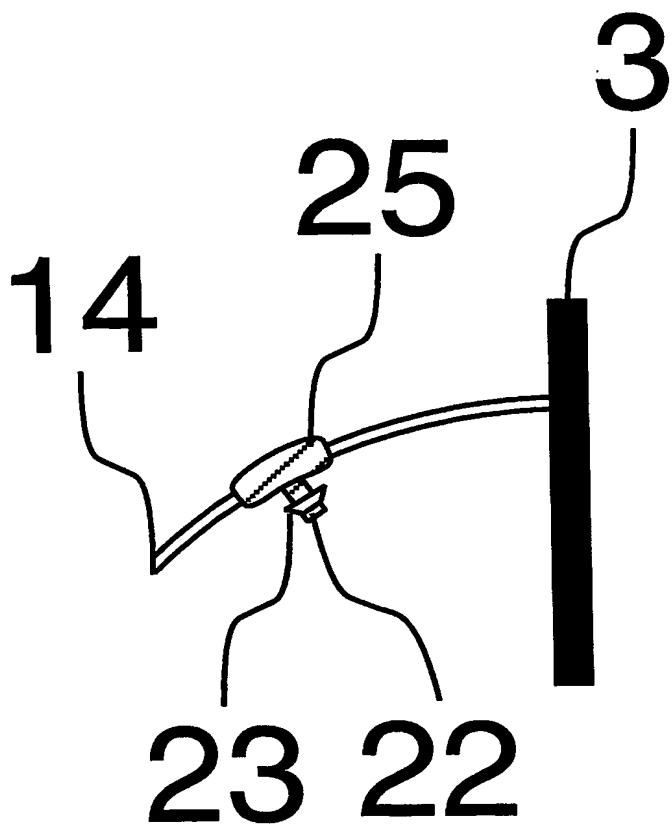
【図14】



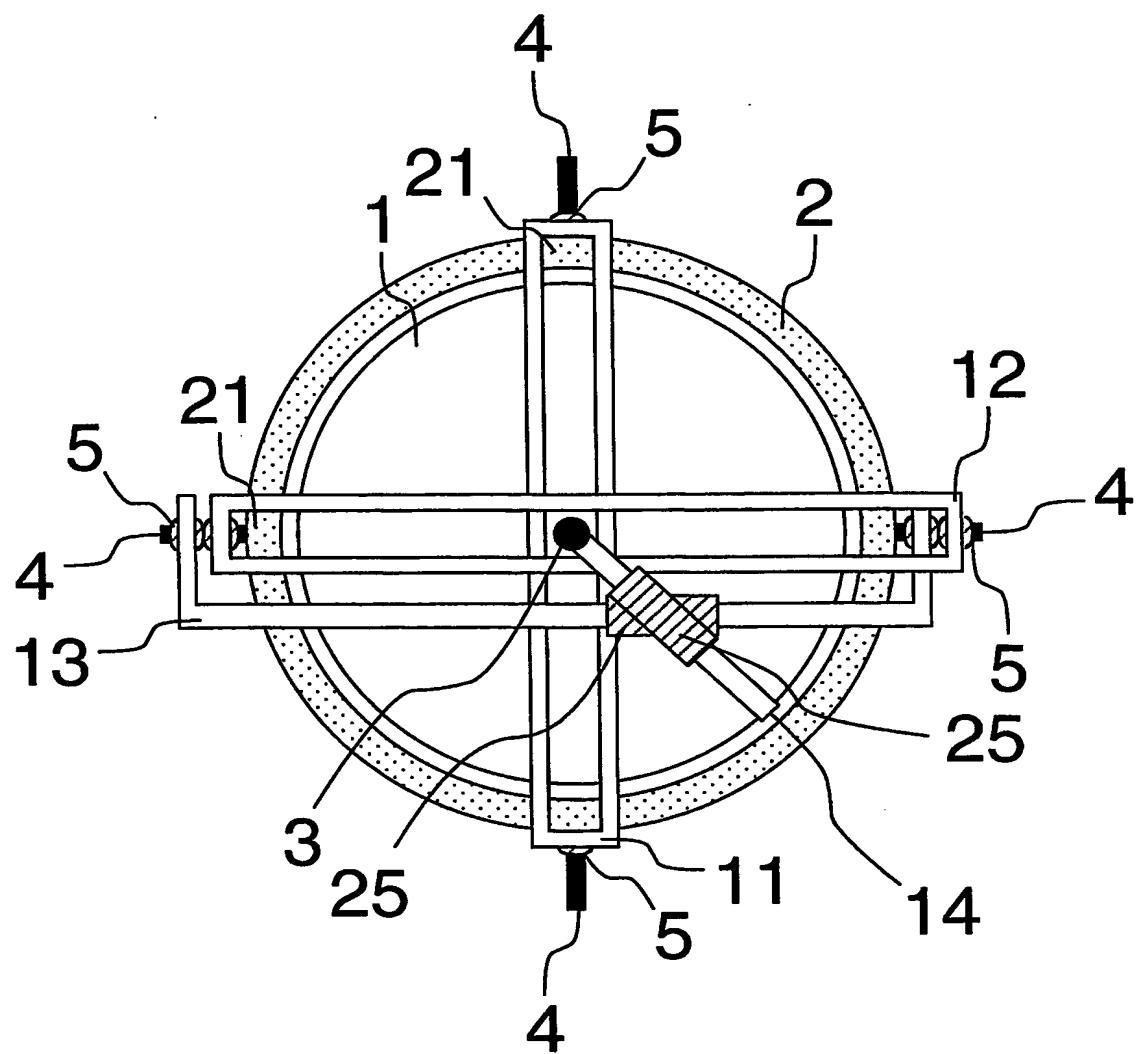
【図15】



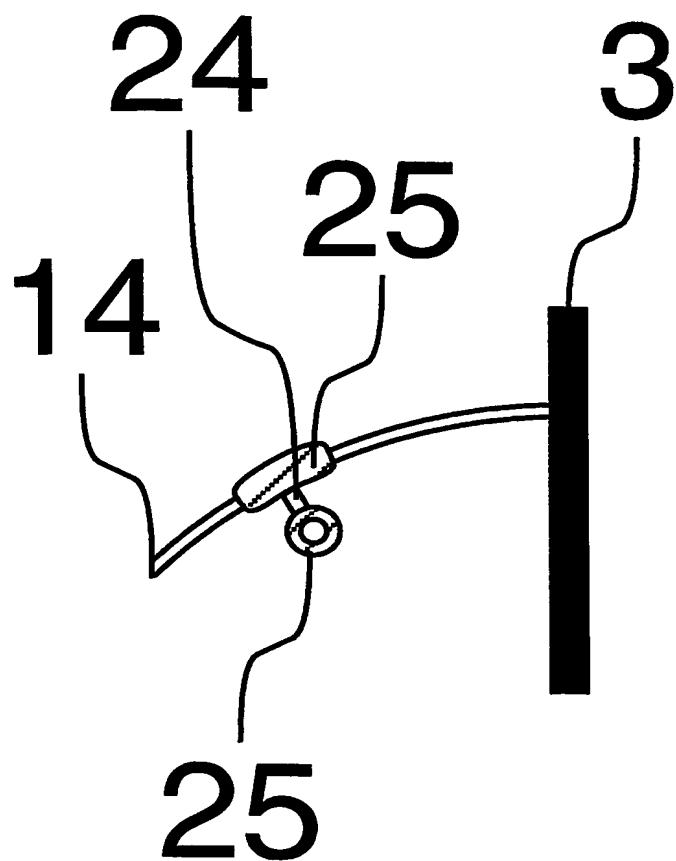
【図16】



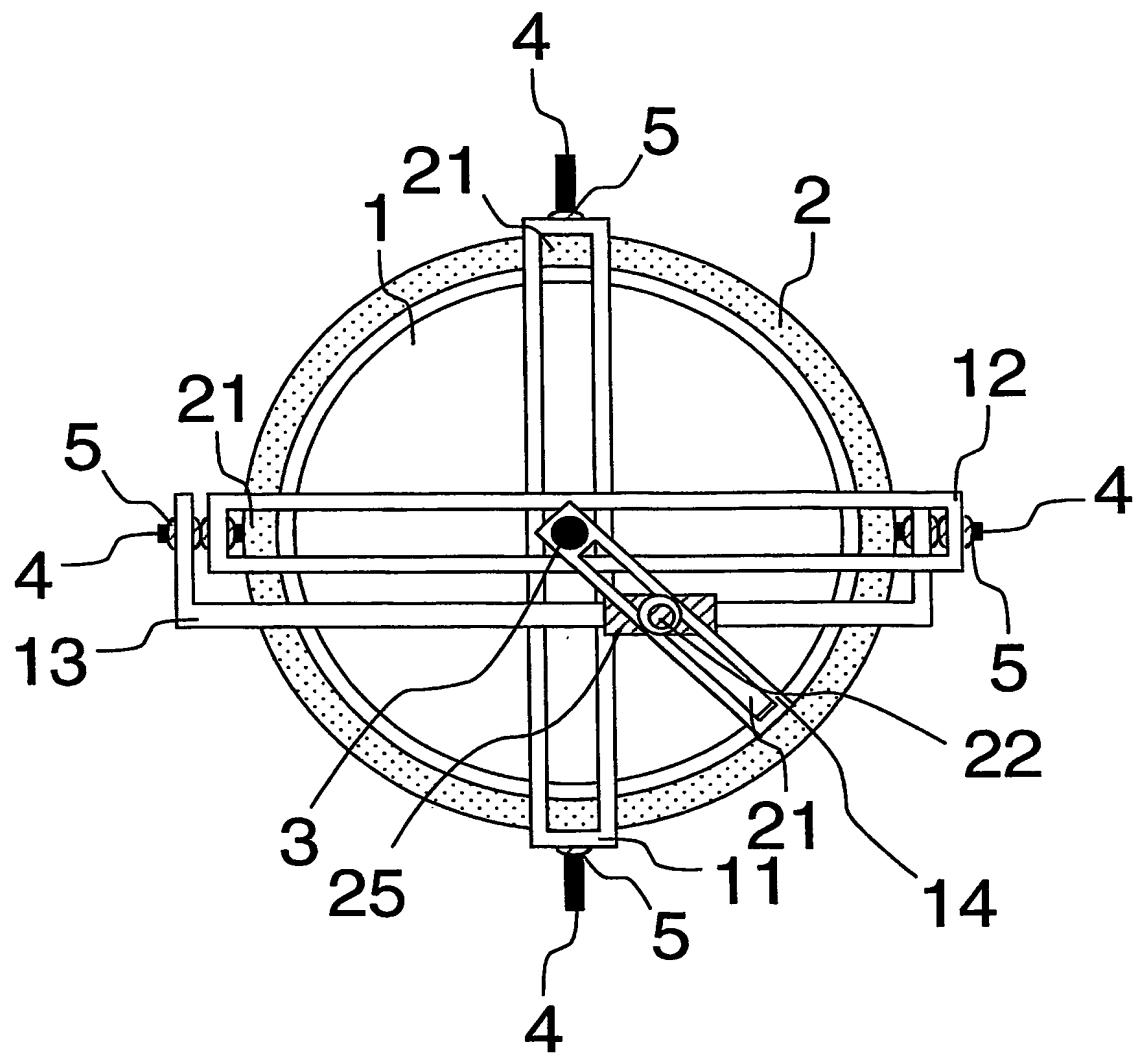
【図17】



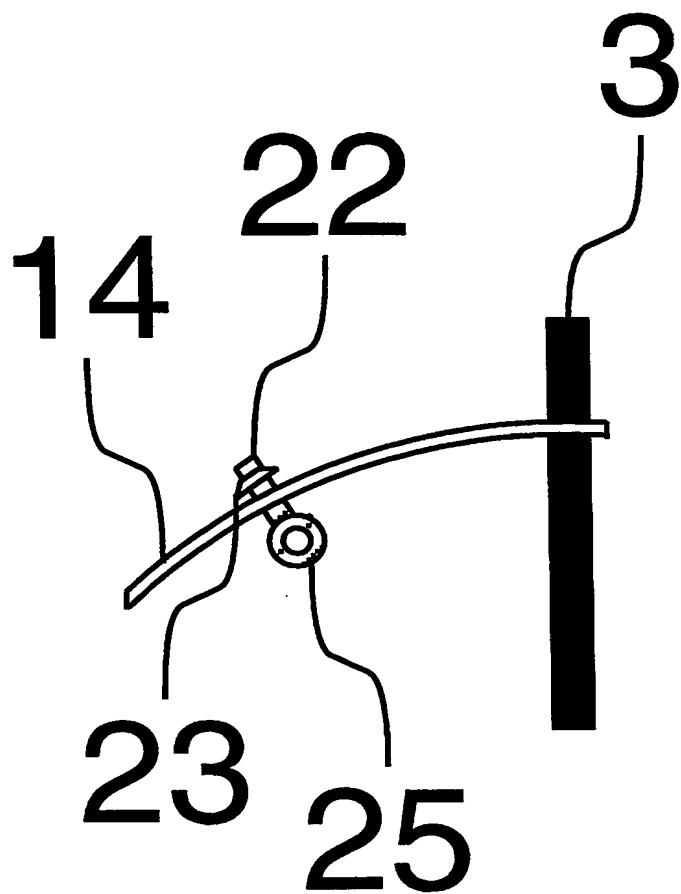
【図18】



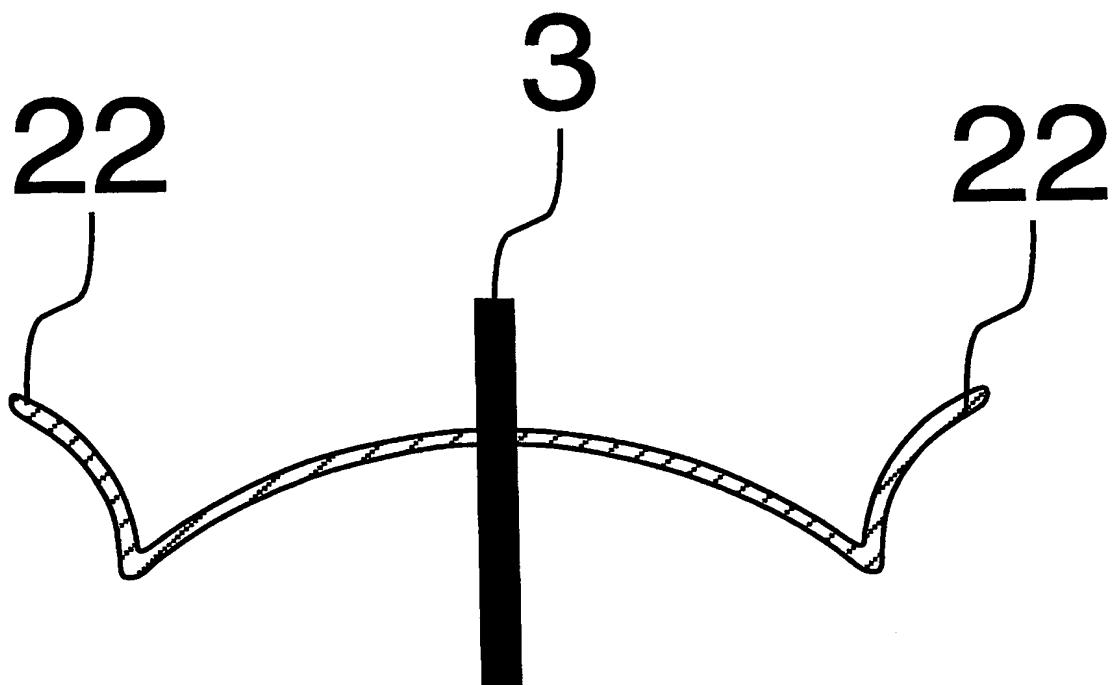
【図19】



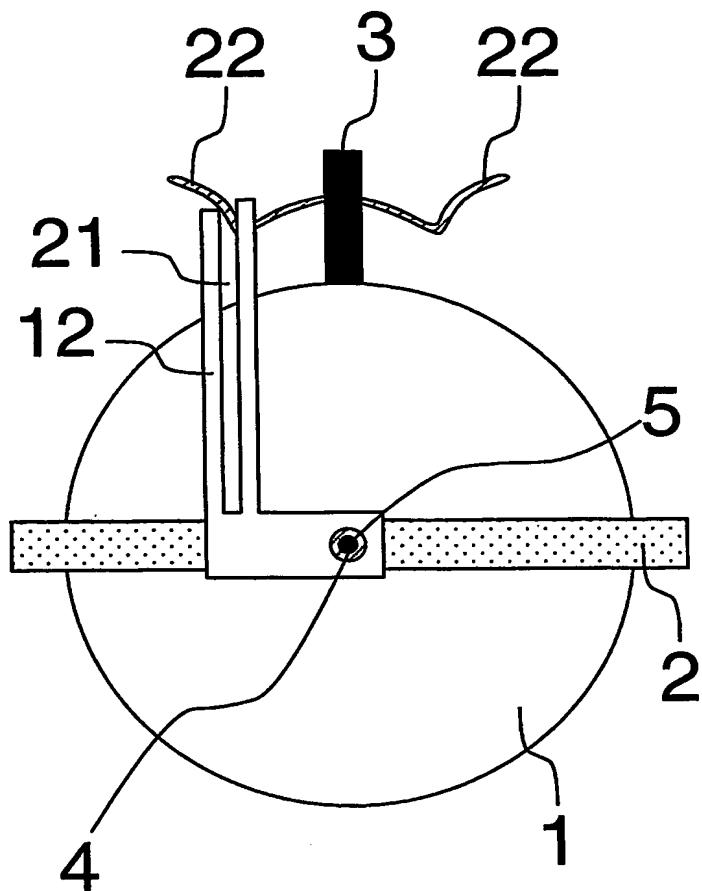
【図20】



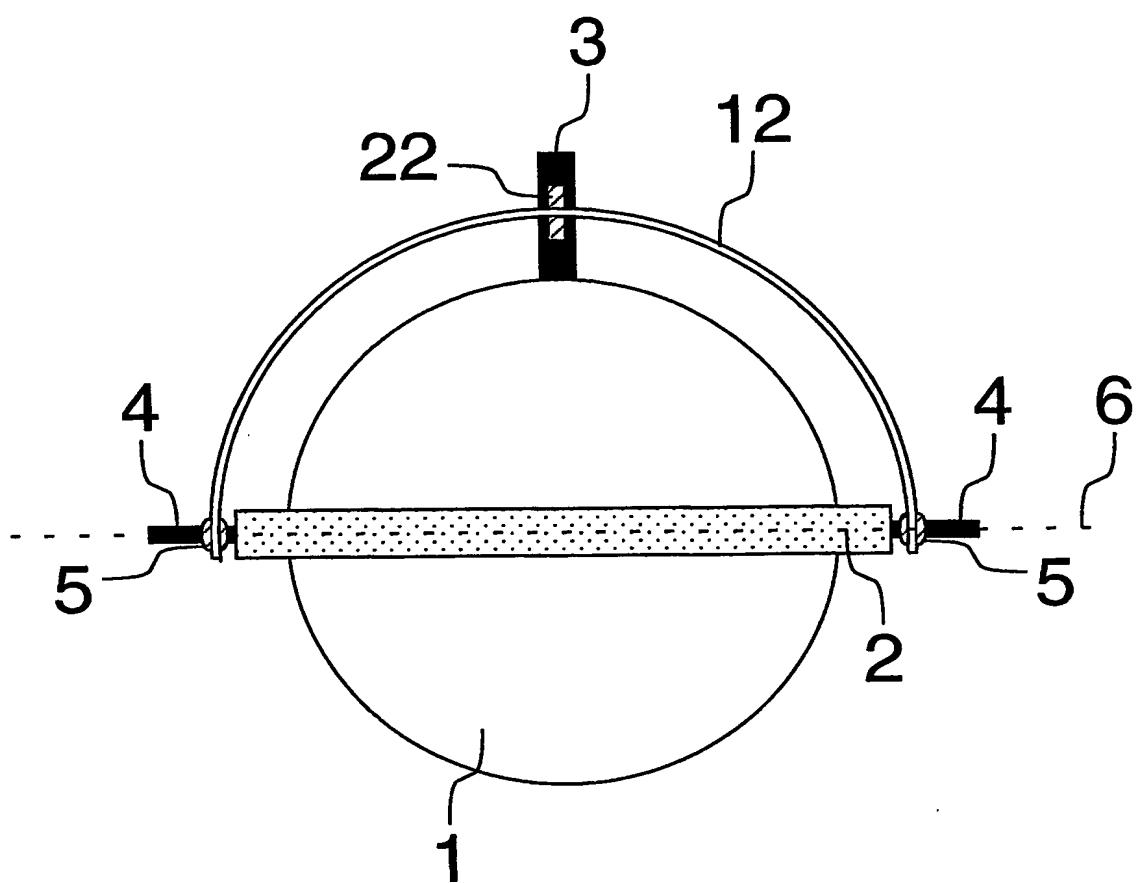
【図21】



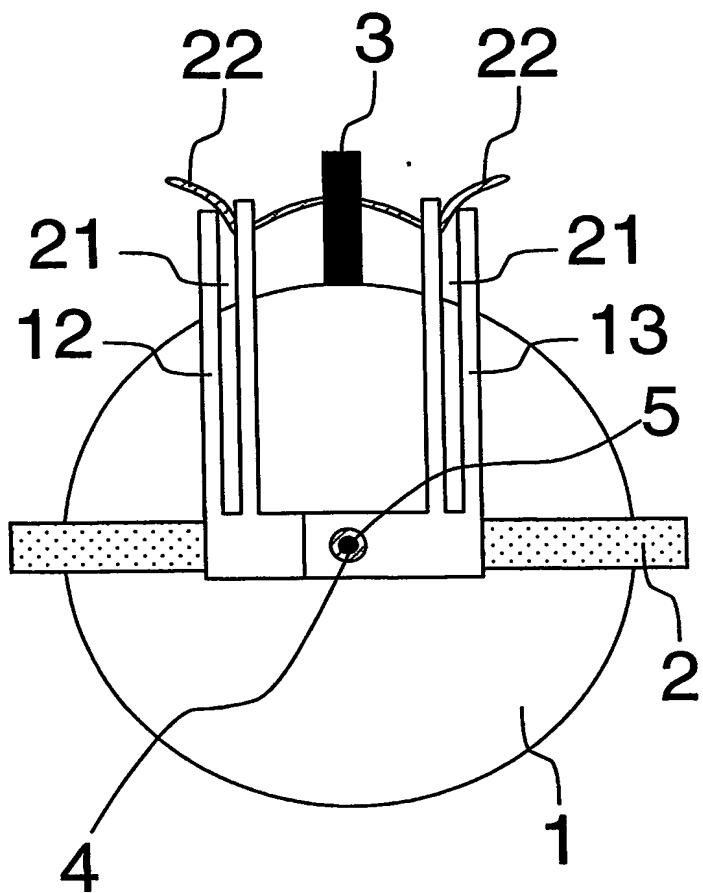
【図22】



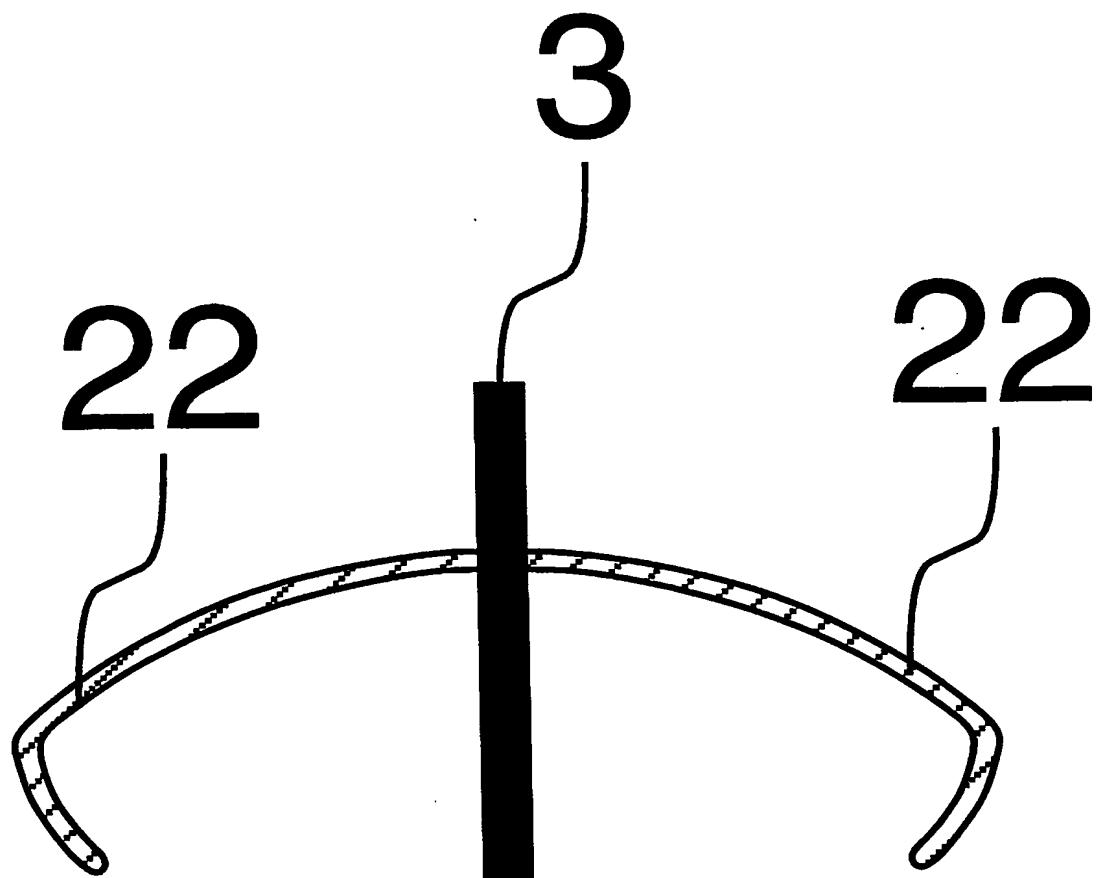
【図23】



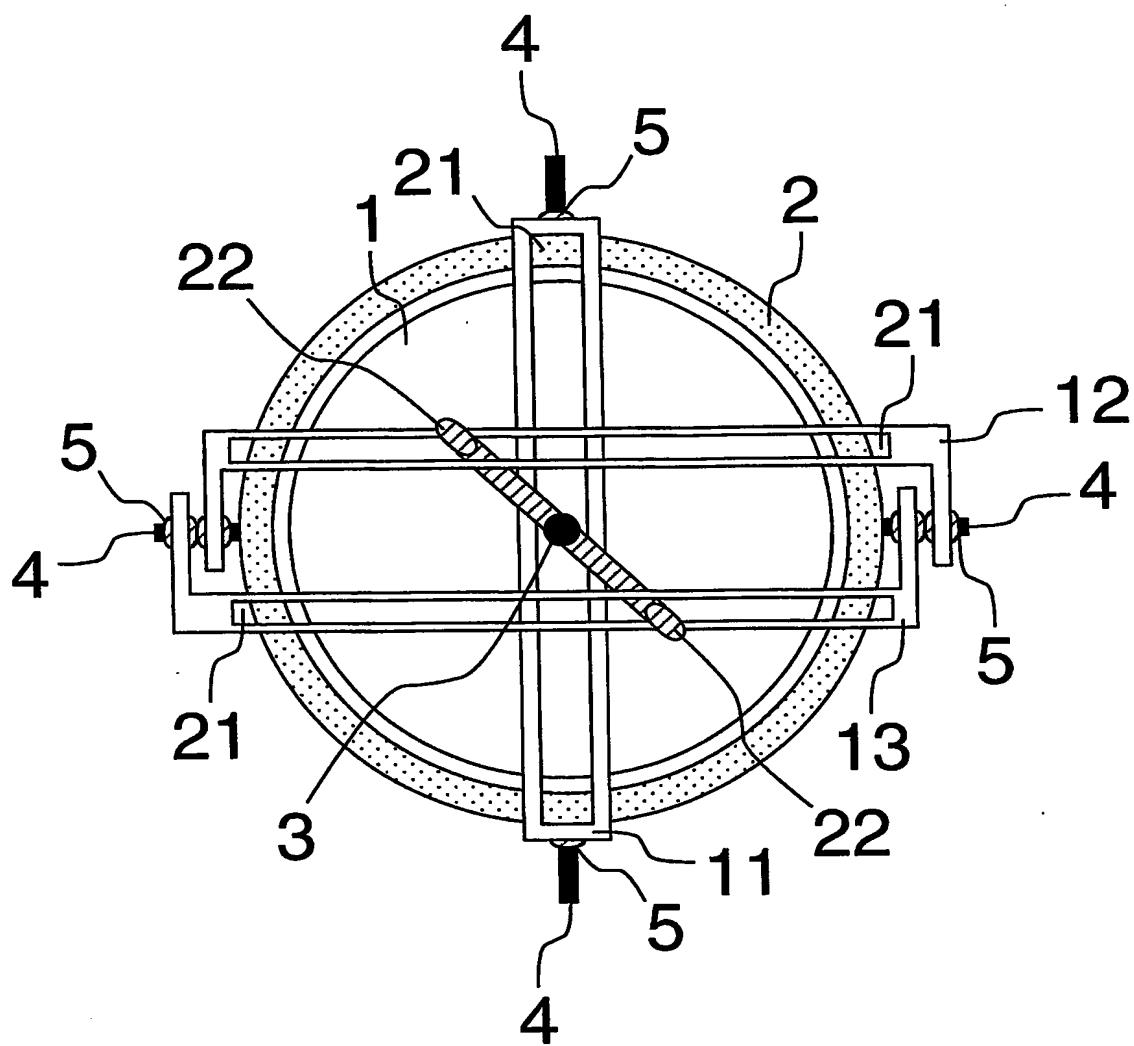
【図24】



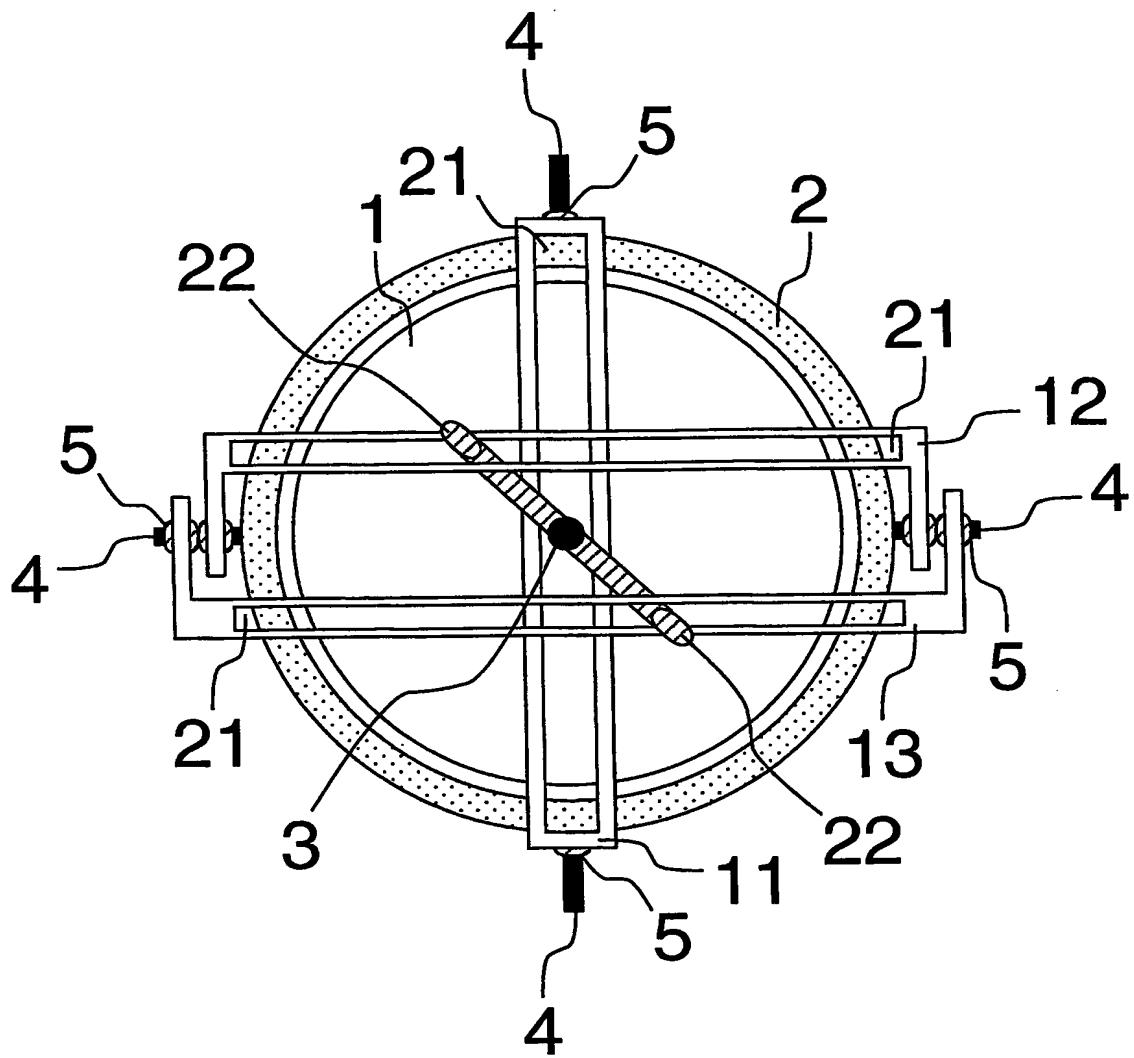
【図25】



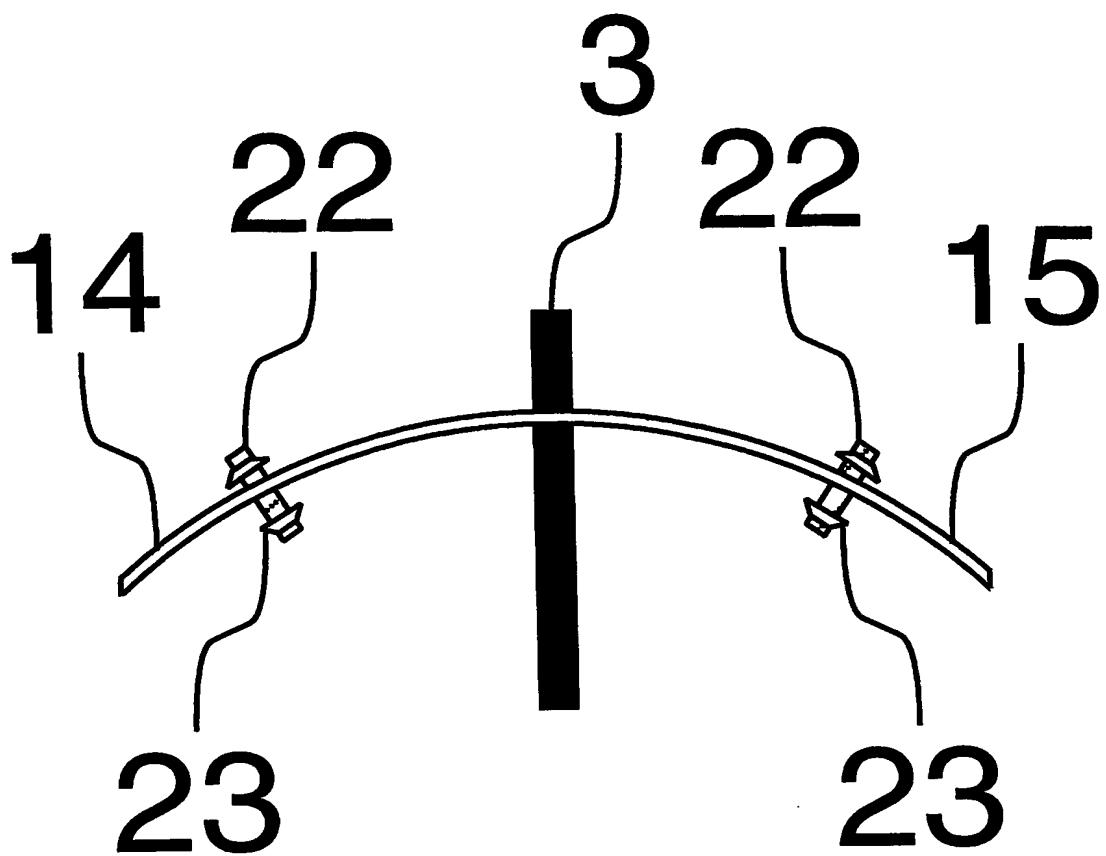
【図26】



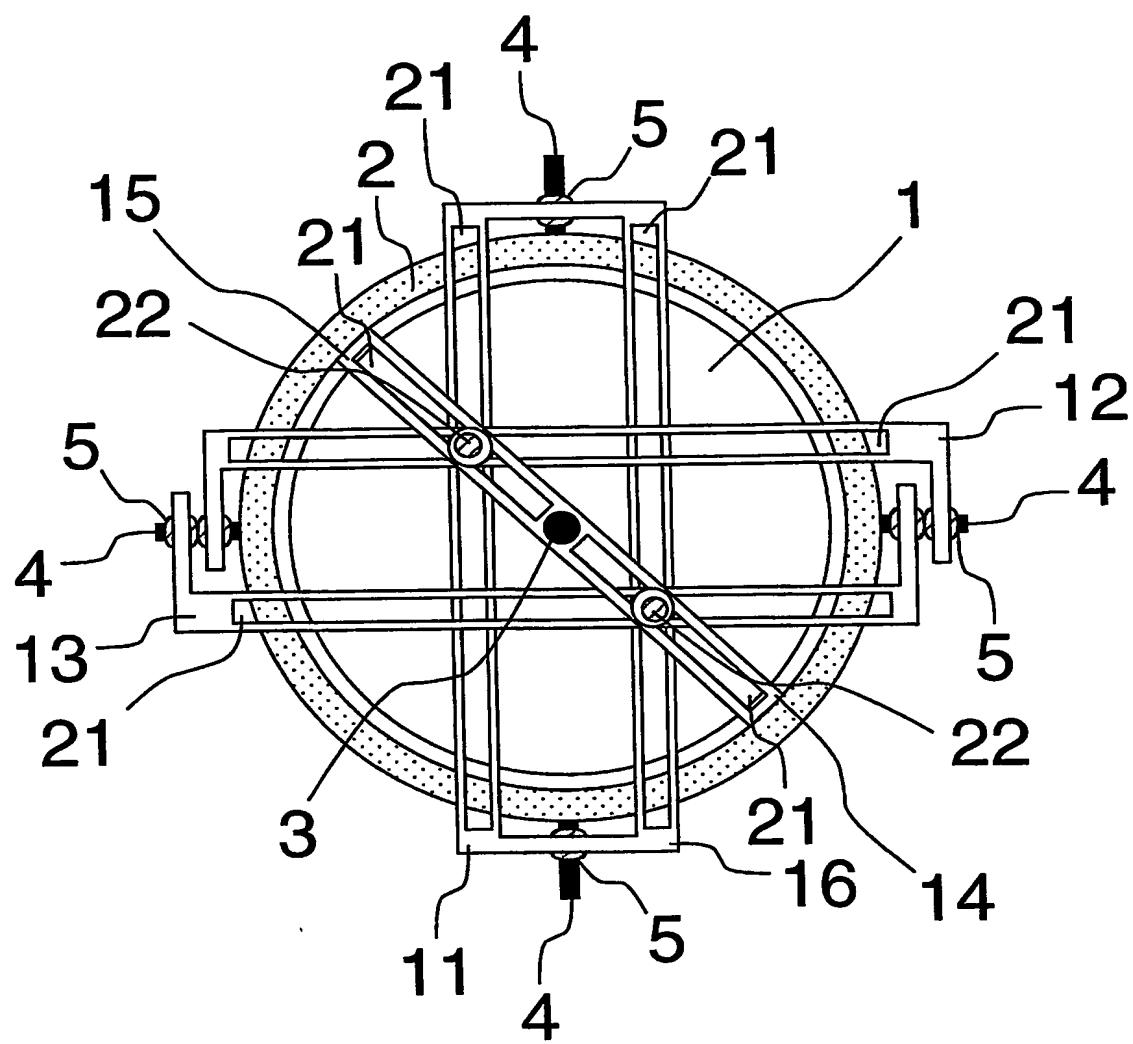
【図27】



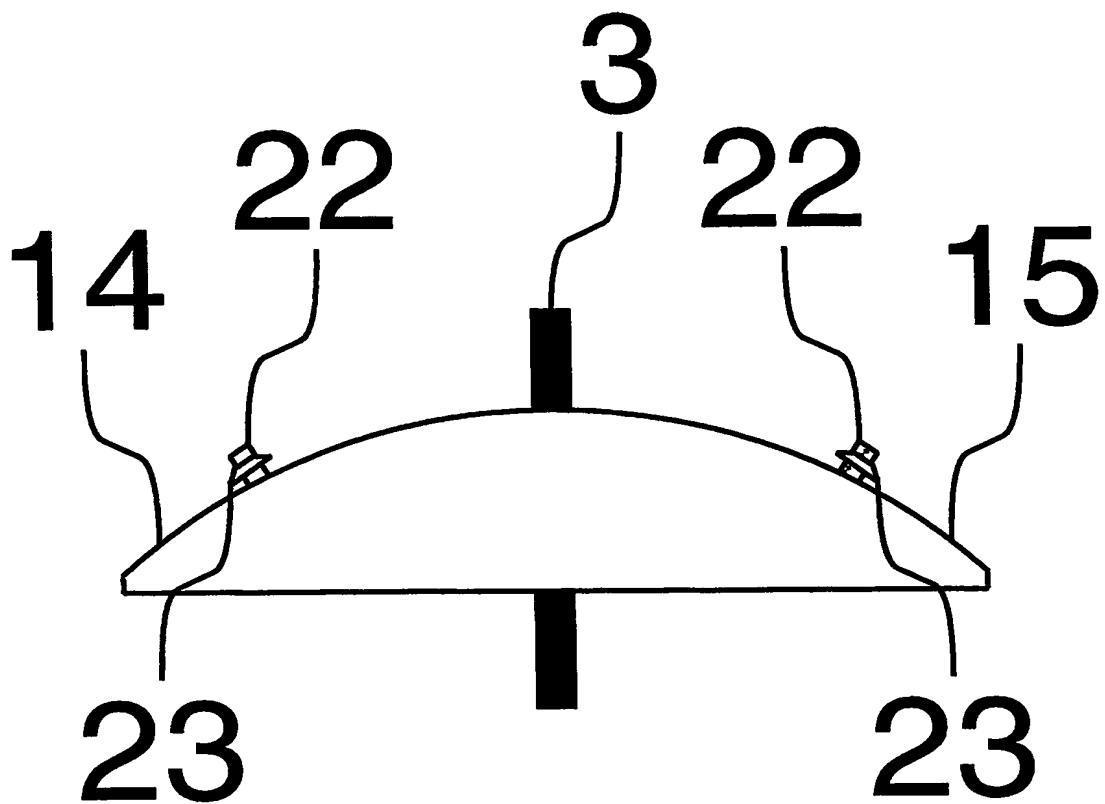
【図28】



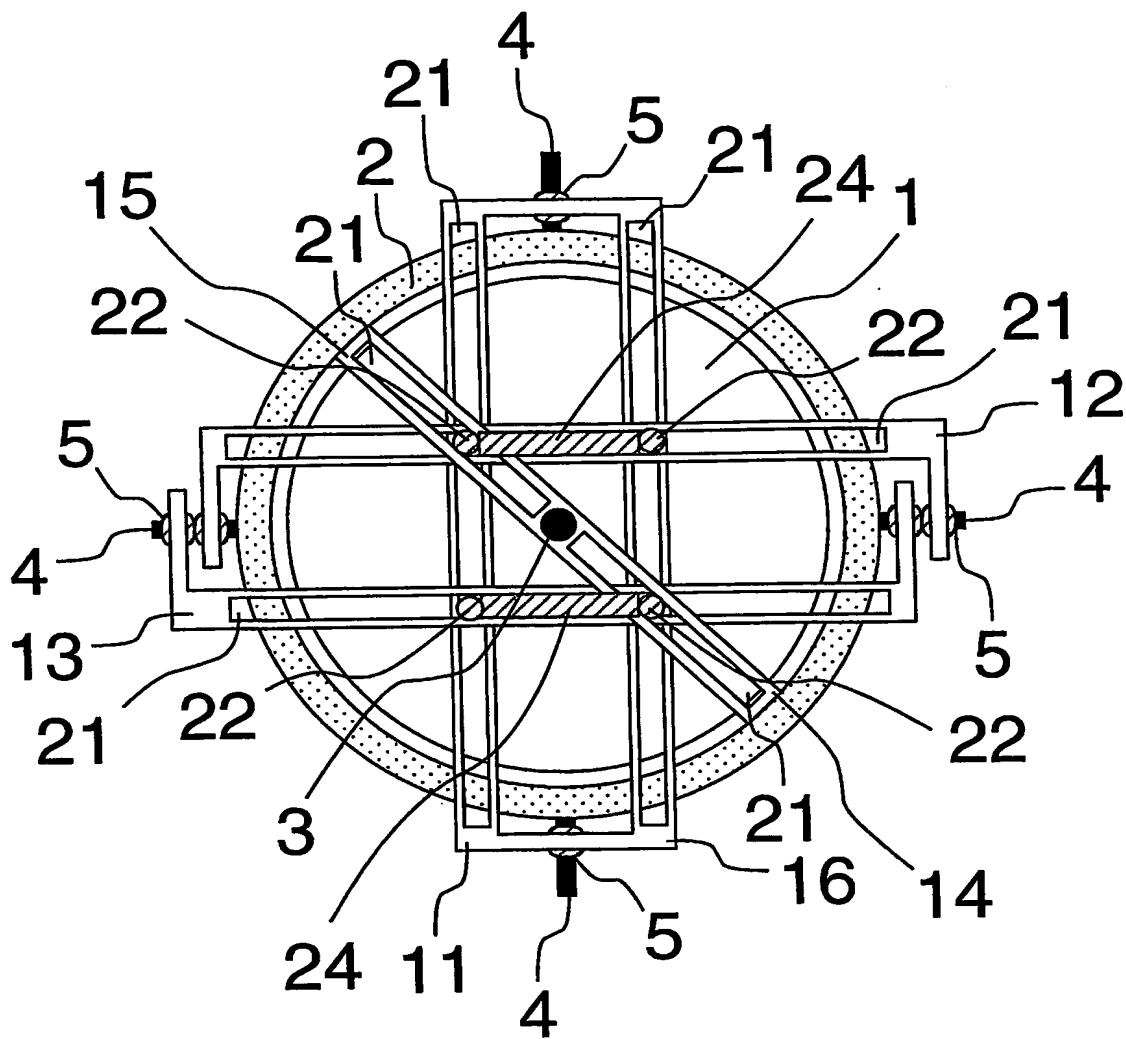
【図29】



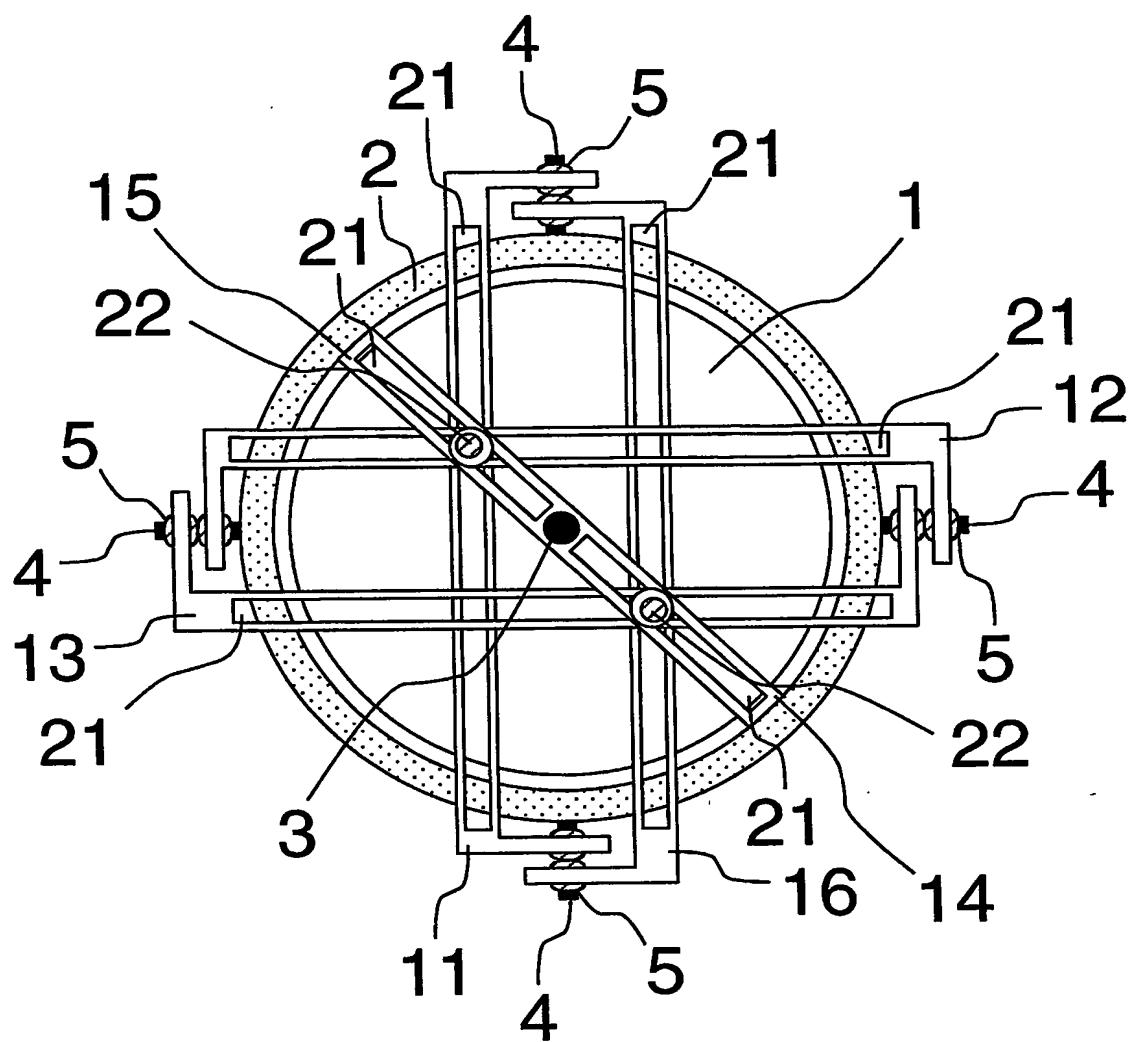
【図30】



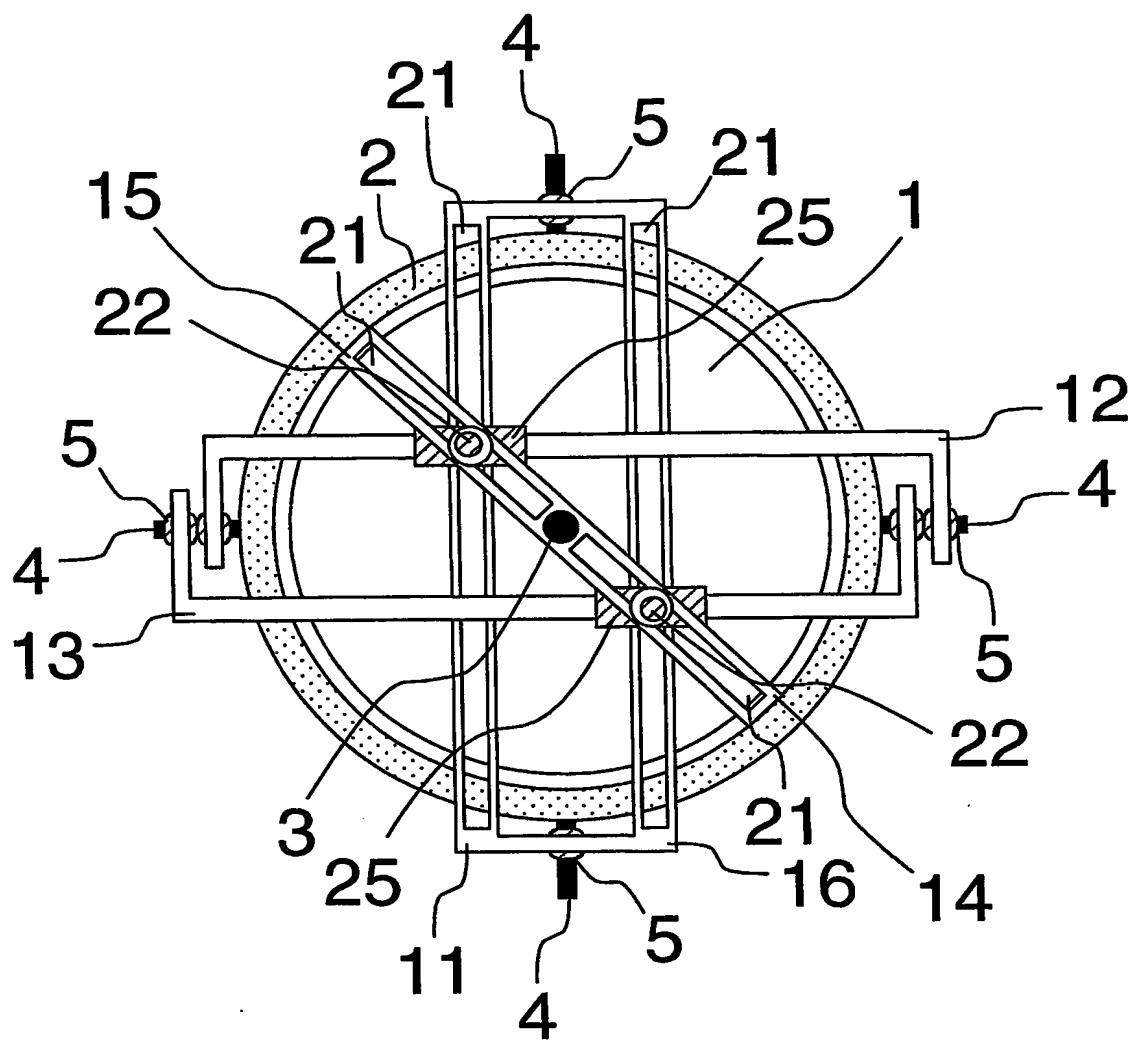
【図31】



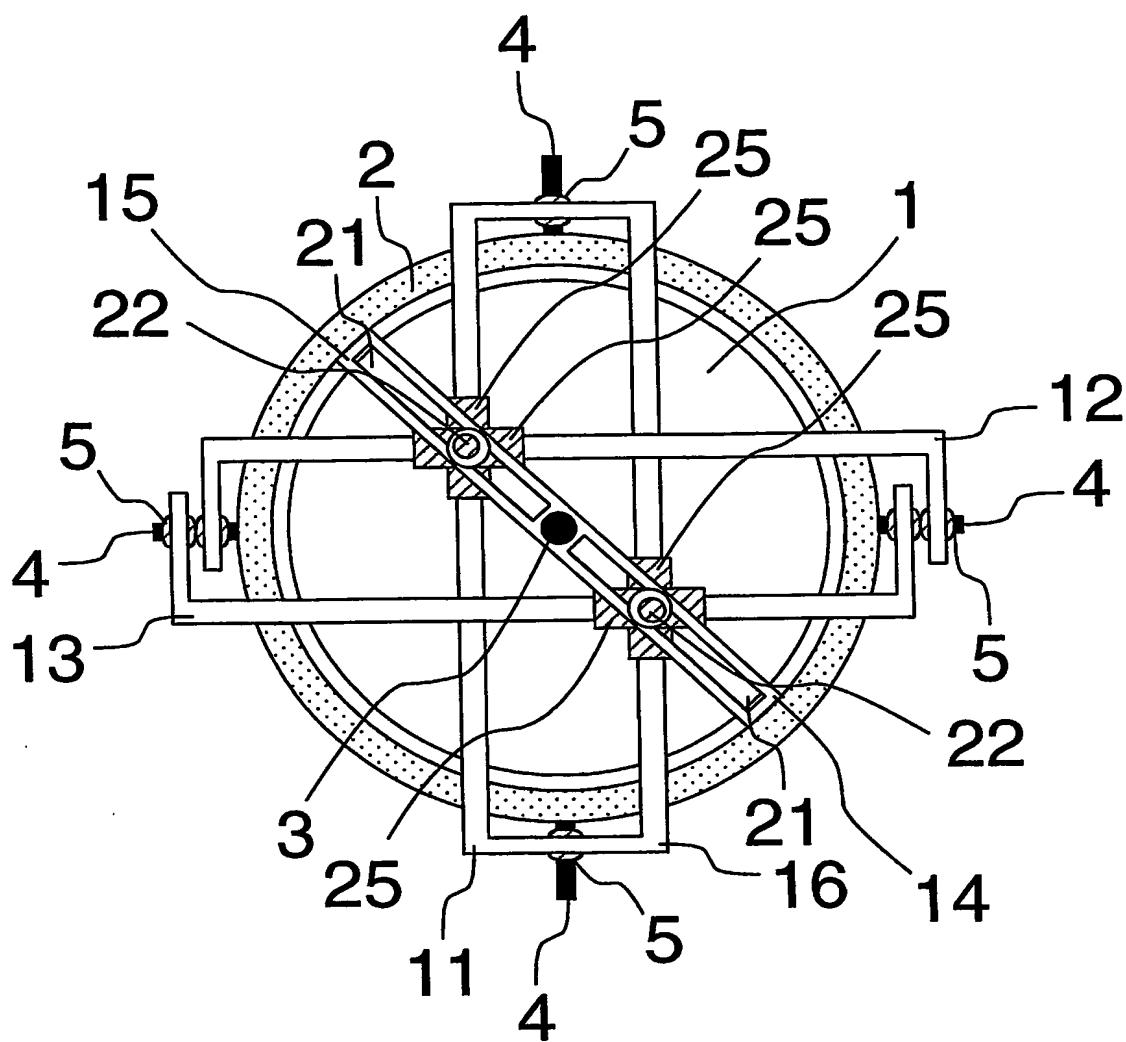
【図32】



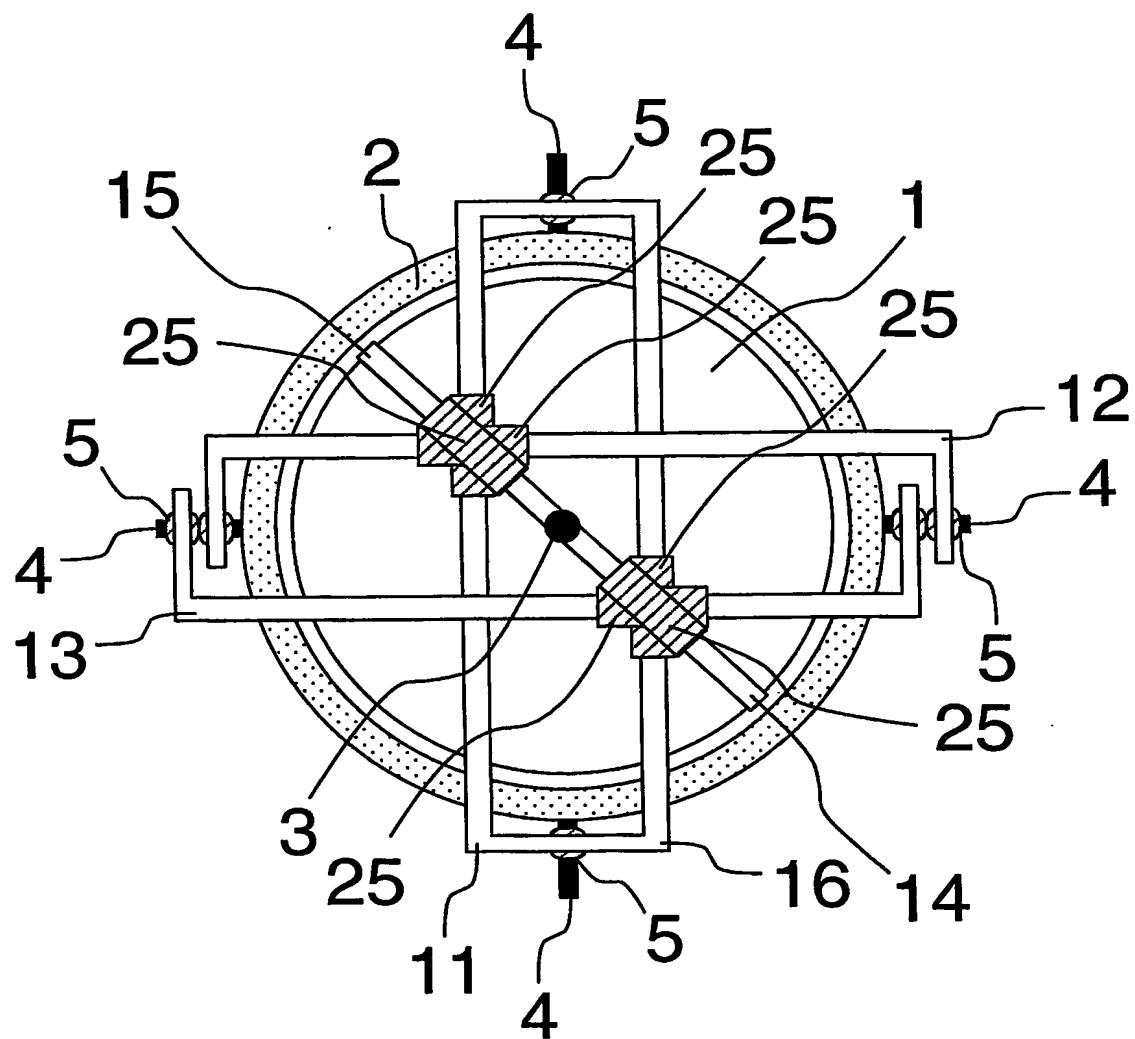
【図33】



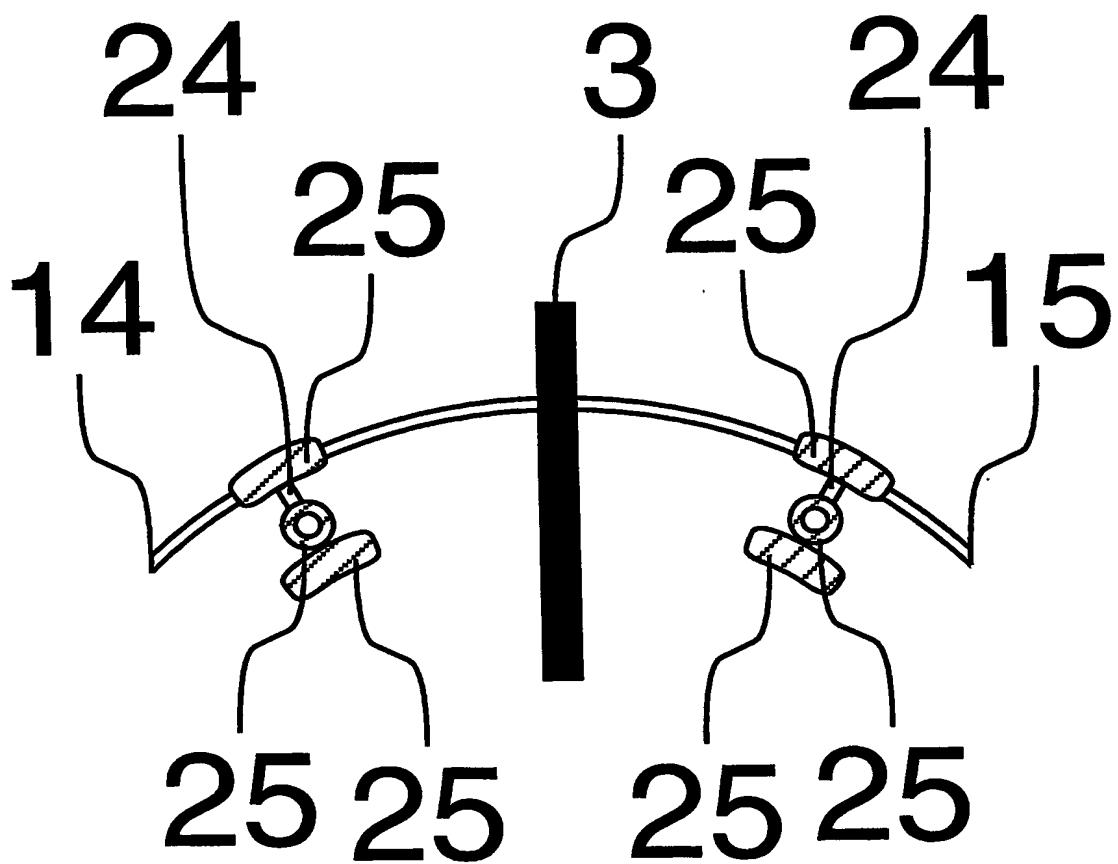
【図34】



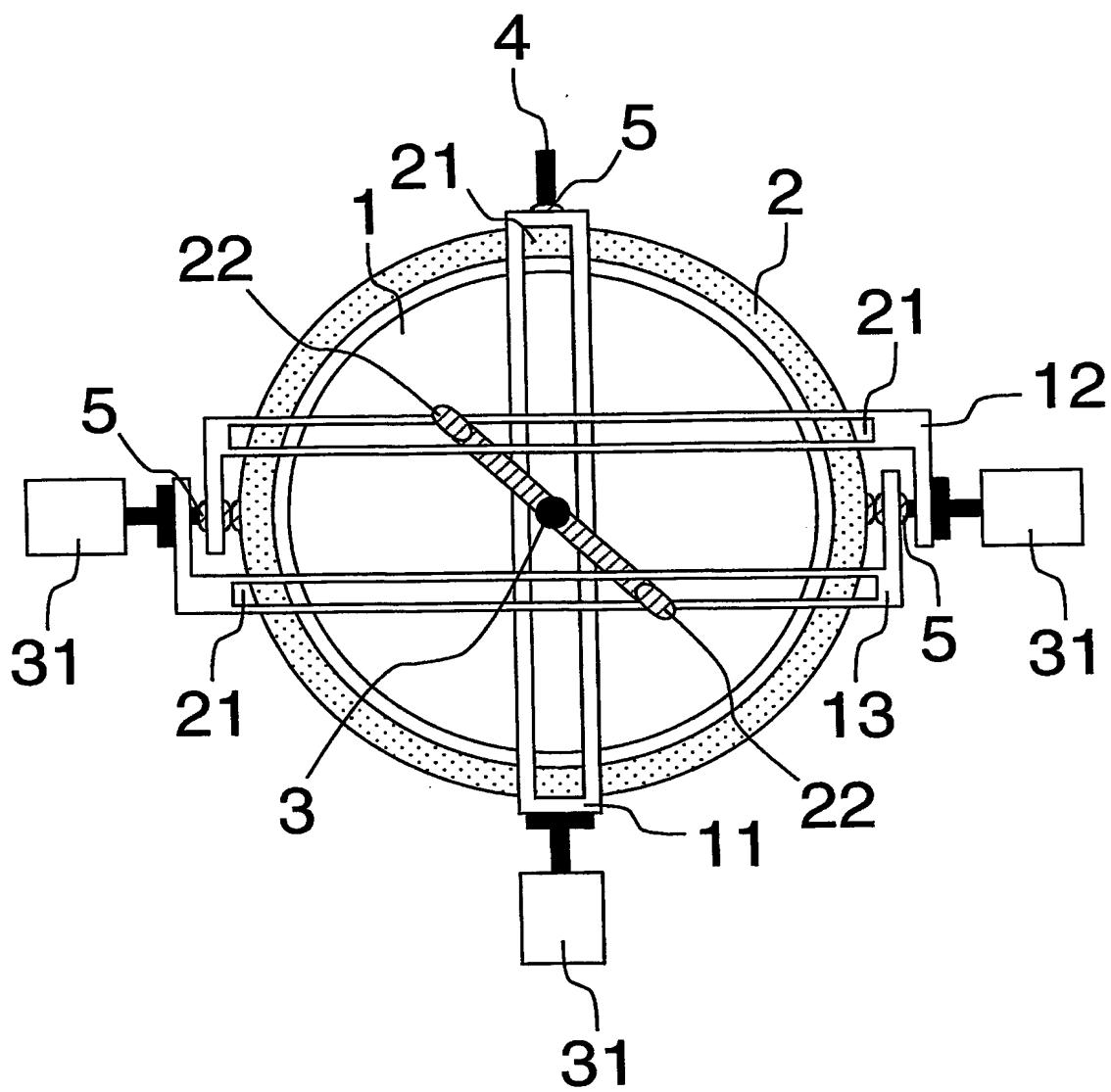
【図35】



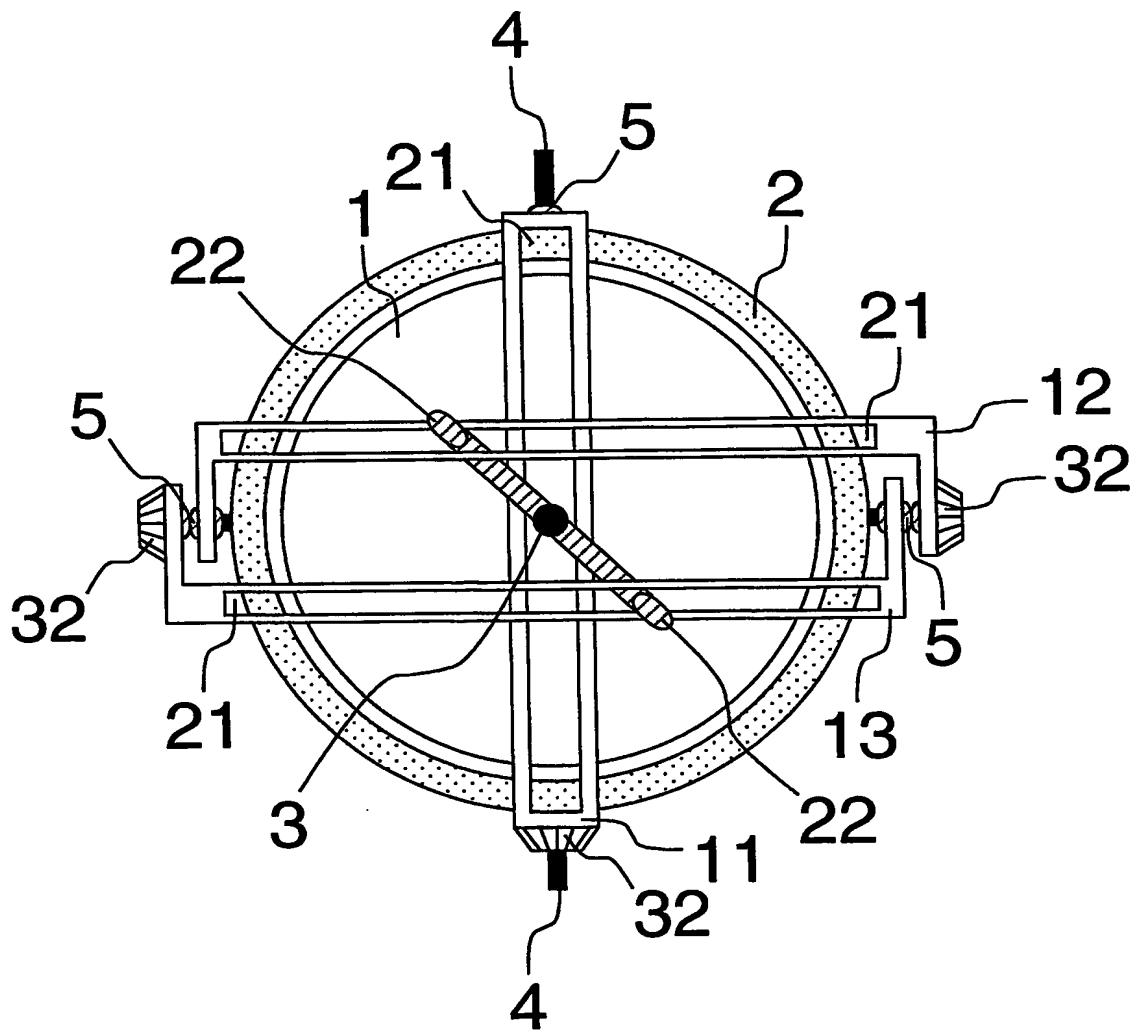
【図36】



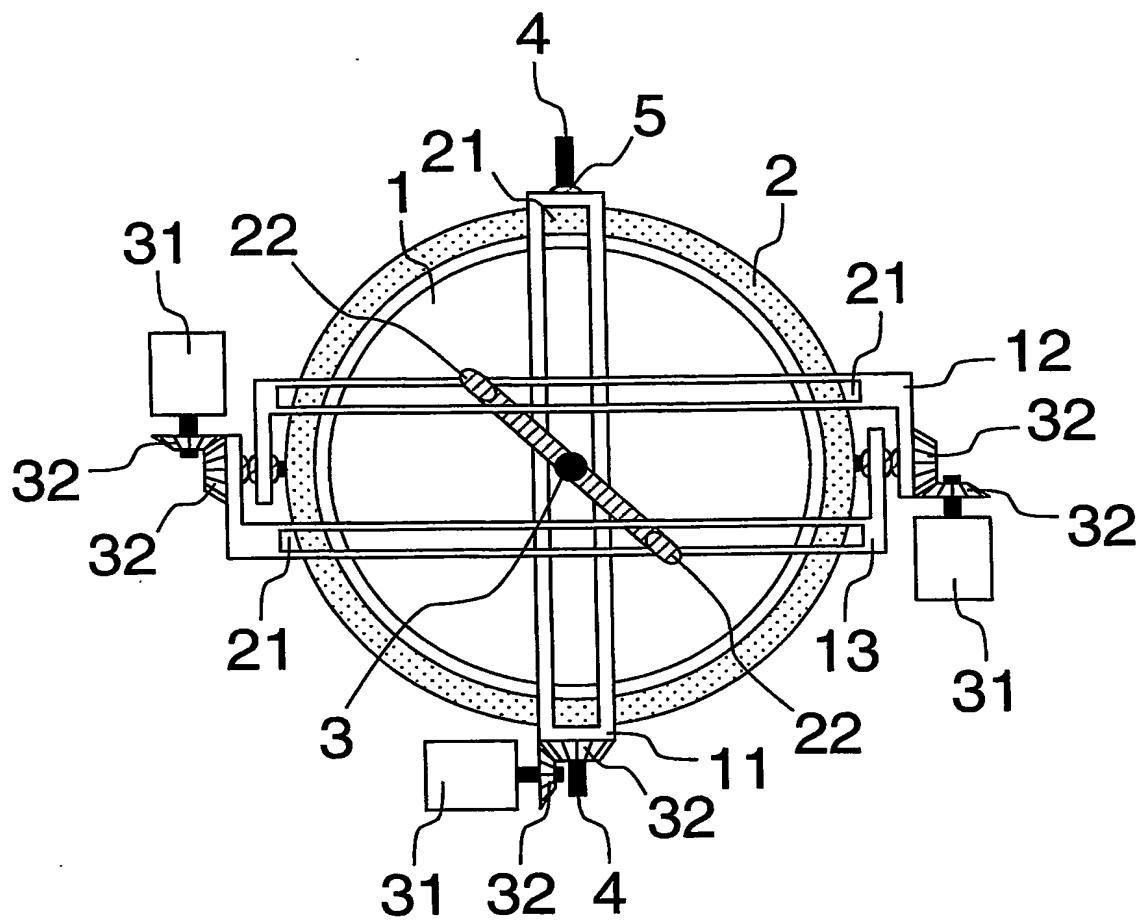
【図37】



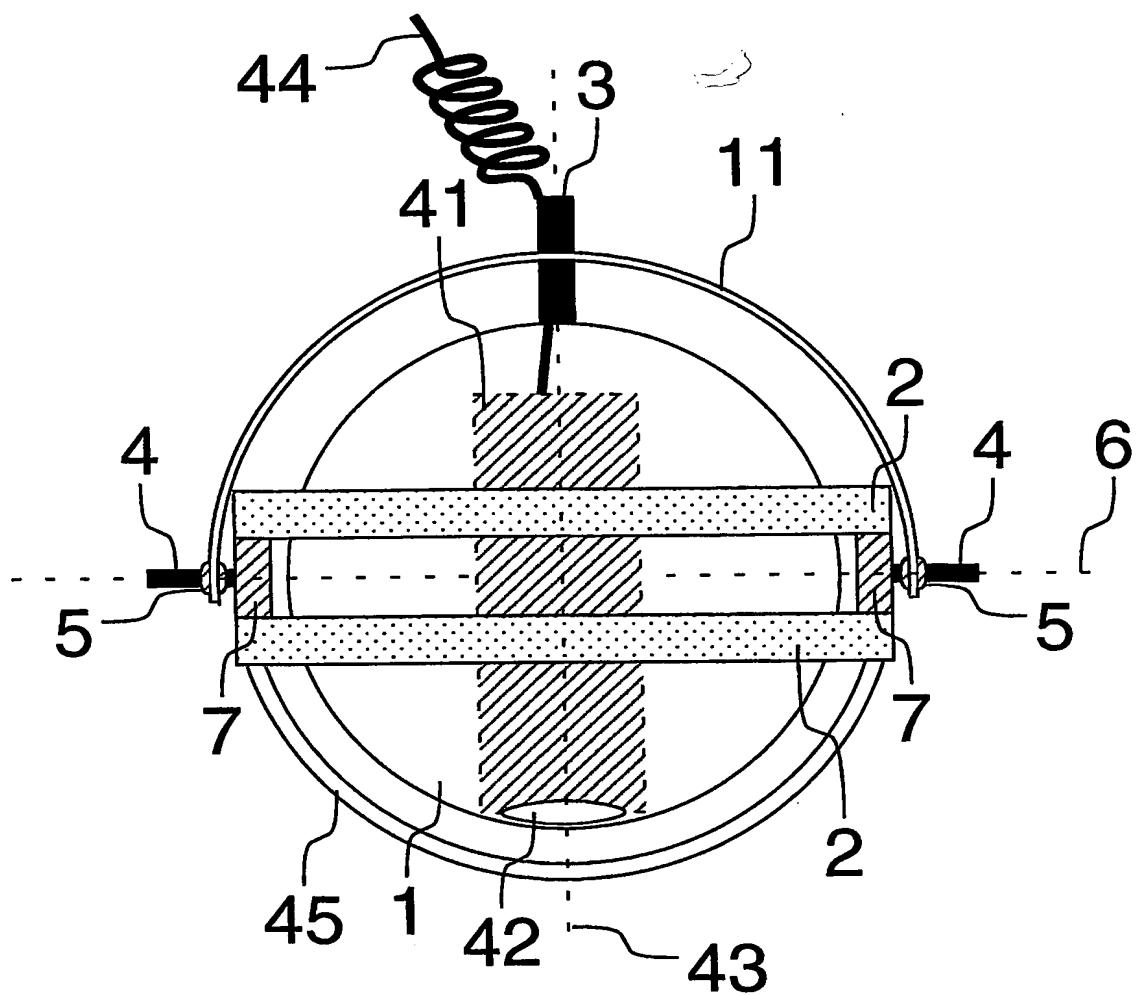
【図38】



【図39】



【図40】



【書類名】 要約書

【要約】

【目的】 3自由度で回転するロータの向きを検出すると共に、ロータを3自由度で回転させる。

【構成】 図10に示すように、第一ガイドレール11と、平行する第二ガイドレール12及び第三ガイドレール13と、が、互いに直交するように土台2に取り付けられ、さらにこれらのガイドレールは、両端に取り付けられた軸4を中心にして回転する。これらのガイドレールが回転すると、これらのガイドレールに合わせてロータ1に取り付けられた指示棒3が移動するので、このロータ1も回転する。この指示棒3に取り付けられたスライダ22が、第三ガイドレール13のスリット21に沿ってスライドする。このとき、これらのガイドレールの間隔によって、指示棒3を中心としたロータ1の回転角度が決定される。

【選択図】 図10

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2002-252960
受付番号	50201295084
書類名	特許願
担当官	第三担当上席 0092
作成日	平成14年 9月 2日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成14年 8月30日
-------	-------------

次頁無

特願 2002-252960

出願人履歴情報

識別番号 [398057167]

1. 変更年月日 1998年 8月25日

[変更理由] 新規登録

住 所 愛知県蒲郡市中央本町12番7号
氏 名 株式会社エッチャンデス

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

BLACK BORDERS

IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES

FADED TEXT OR DRAWING

BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING

SKEWED/SLANTED IMAGES

COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS

GRAY SCALE DOCUMENTS

LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT

REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.